

平成18年度 生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究

若年層の職業観と学習活動に関する調査研究報告書

平成18年12月

青森県総合社会教育センター

はじめに

平成15年4月、政府は若年者の雇用問題への対策を講ずるため、「若者自立・挑戦戦略会議」を発足させ、同年6月には、教育・雇用・産業政策の連携強化等による総合的な人材対策として「若者自立・挑戦プラン」を取りまとめました。このプランでは、キャリア教育の推進が大きな柱のひとつとして位置付けられており、義務教育段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進やインターンシップなどの職業体験の促進、フリーターへの再教育の実施など、教育の面から若年者雇用問題などに取り組むことが重要とされています。

本県でも、学校教育におけるキャリア教育促進事業をはじめとして、総合社会教育センターでは、小・中学生を持つ保護者等を対象に、青少年の生き方全体を視野に入れたキャリア形成支援を行う「親が学ぶ青少年キャリア形成推進事業」や、インターネットによる講座の配信「eラーニング」により学習機会を提供し、若者の職業意識の醸成及び職業能力の向上を支援する「仕事力アップのためのeラーニング推進事業」をスタートさせたところです。

本県の雇用情勢については、徐々に回復しつつあるとはいえ、依然として全国最下位の水準で推移を続けています。本県の産業構造上の問題を踏まえ、今後も雇用情勢が劇的に改善されるのは考えにくいと、求職者側が、求められる技術・能力を習得していくことにより、希望職種等のミスマッチによる就職難を打開していく必要があるといえ、学校、家庭、産業界、関係行政機関等が一体となってキャリア教育を推進することが求められます。

本調査研究は、本県におけるキャリア教育及び若者のキャリア形成支援に関する生涯学習振興関連施策の在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的として行われたものですが、若年者の雇用問題は学校や教育行政だけで解決できることなく、あらゆる関係機関・団体の連携が求められることから、行政各部局、企業、民間支援団体等におかれましても本調査研究がお役に立てれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査対象者として御回答いただいた数多くの県民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成18年12月

青森県総合社会教育センター
所 長 高 橋 興

目 次

第 章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 回収結果	1
6. 回答者の属性	2
7. 本調査報告書の留意点	3
8. 調査結果の概要	4
第 章 調査の結果	5
2. 中学校生活と当時の家庭状況	11
3. 最終卒業学校	16
4. 仕事の経験	18
5. 職業観	26
6. 無業者について	36
7. 仕事に関して知りたいこと	37
8. 求職活動の方法	39
9. 求職活動で困っていること	41
10. 情報リテラシー能力	43
11. 心理的特性	44
12. 学習活動日数	62
第 章 総合的考察	66
1. 非正規雇用者の特性	66
2. 無業者の特性	67
3. 政策的含意	68
資料 調査票	73
調査研究組織	87

第 章 調査の概要

第 章 調査の概要

1. 調査の目的

若年層の職業観と学習活動の状況を調査し、キャリア形成に関する生涯学習振興関連施策の在り方を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象

(1) 母集団 県内の市町村に在住の20歳以上35歳未満の男女

(2) 標本数 4,000人

(3) 抽出方法

2段階に層化して抽出を行った。以下の行政区分において、10市(3市...青森市、弘前市、八戸市 7市...黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市)は地域特性などを考慮して全市を対象地とし、郡部に関しては各郡の人口規模によって、それぞれ1～2町村を無作為に選び、調査対象地域として選出した。更に人口比に応じて配分した人数を、各市町村の選挙人名簿から等間隔抽出した。

県内行政区分

東青地区...青森市、東津軽郡

中南地区...弘前市、黒石市、平川市、中津軽郡、南津軽郡

西北地区...五所川原市、つがる市、西津軽郡、北津軽郡

三八地区...八戸市、三戸郡

上北地区...十和田市、三沢市、上北郡

下北地区...むつ市、下北郡

3. 調査方法

調査票を郵送し、同封の返信用封筒により無記名で回収する方法により実施した。なお、調査対象者には、事前に調査を予告する挨拶状を送付して、協力依頼を行った。

4. 調査期間

平成18年8月7日に事前挨拶状を送付した上で、8月14日に調査票を送付し回答期限を8月31日とした。

5. 回収結果

(1) 有効回収数(率) 1,413(35.3%)

未記入が多数あった12票を無効とみなして除外した。

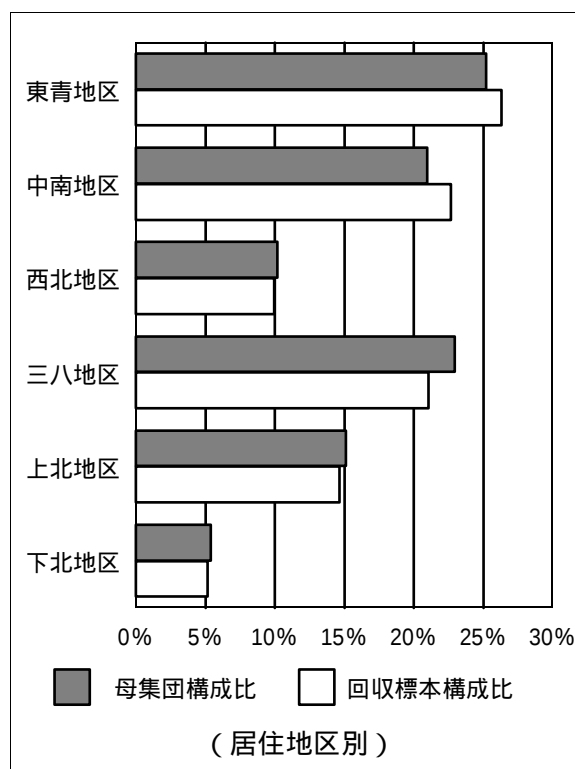
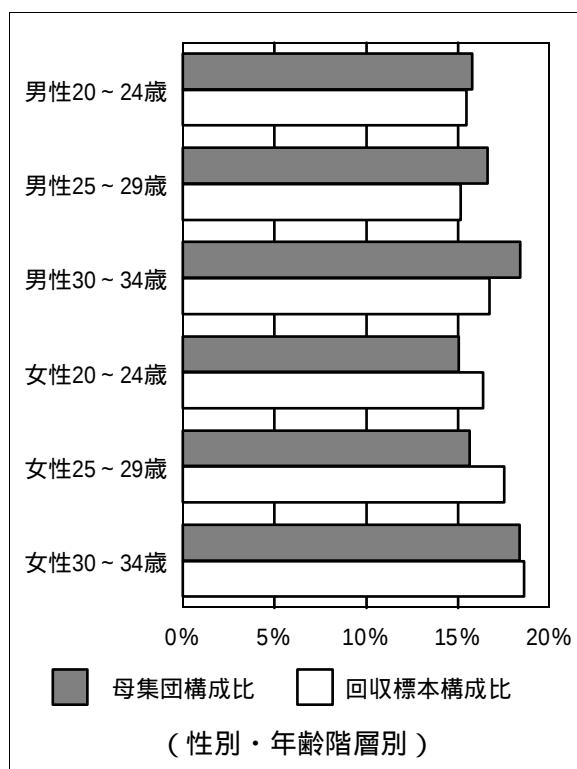
(2) 調査不能数(率) 2,575(64.4%)

- 不能内訳 - 住所不明18 調査拒否6 反応なし2,551

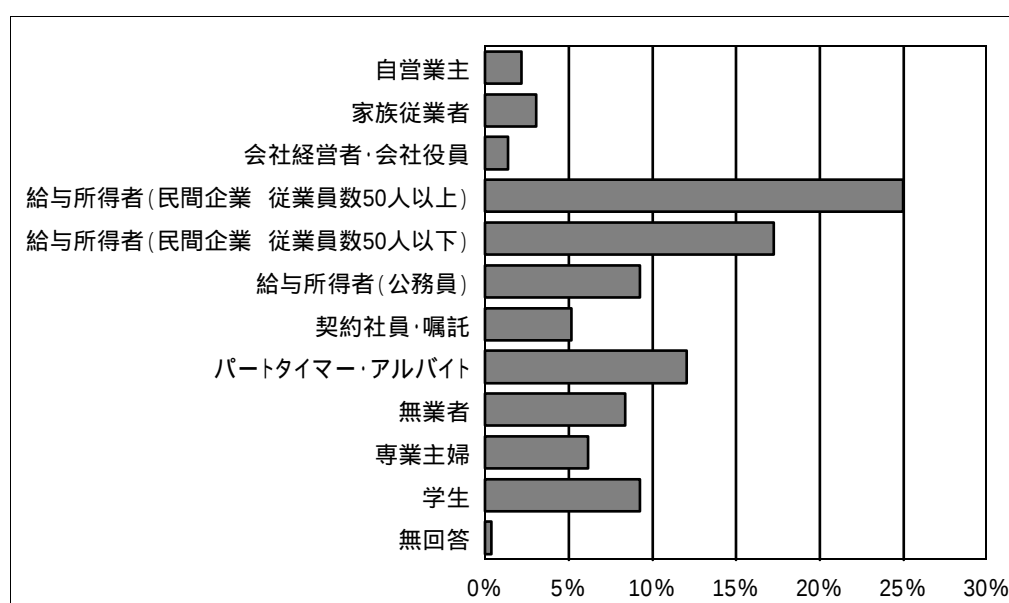
6. 回答者の属性

(1) 性別・年齢・地区

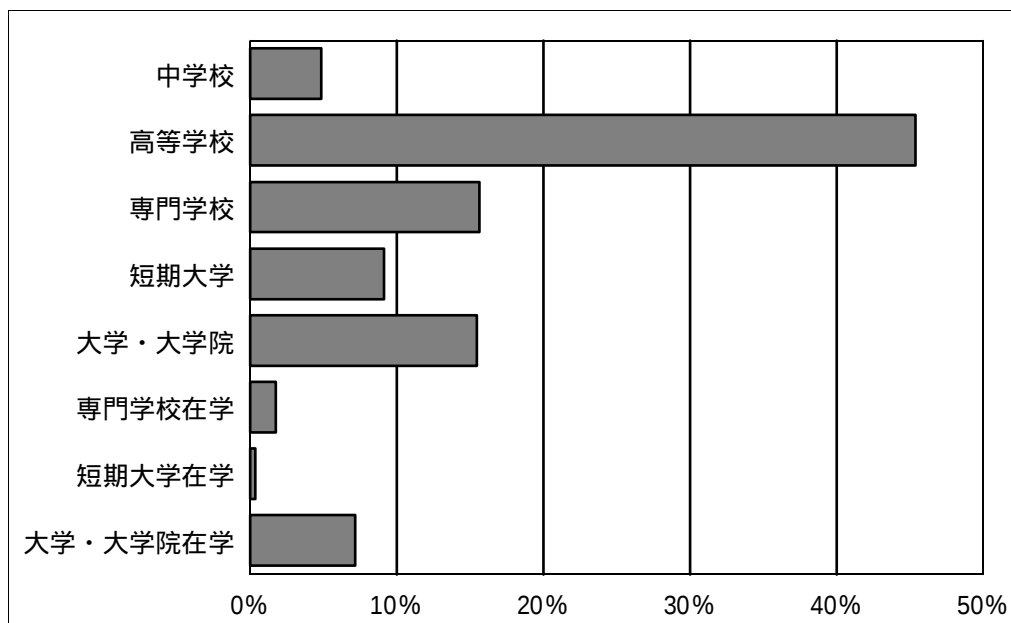
性及び年齢階層別と居住地区別における回収標本と母集団（青森県の推計人口年報 平成17年10月現在）の構成比に対して適合度の検定（ χ^2 検定）を行ったところ、いずれも5%水準で有意差がなかったことから、回収標本に偏りはないといえる。



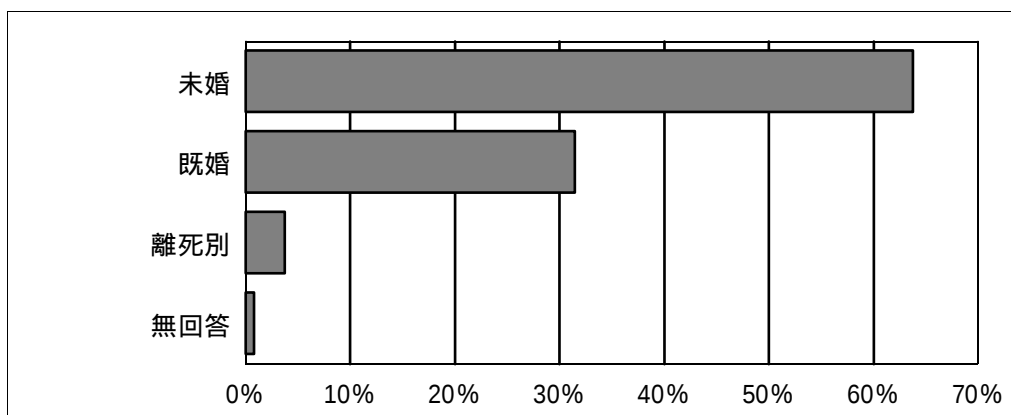
(2) 職業



(3) 最終学歴



(4) 結婚の状況



7. 本調査報告書の留意点

比率は百分率(%)で表し、小数点第2位で四捨五入した値で表示している。ただし、複数回答項目については、回答者数を分母として百分率を算出している。したがって、複数回答項目については合計が100%にならない場合がある。図表及び文章中において、選択肢の表記は、煩雑な表現を避ける目的で一部で省略している。また、以下の帯グラフ内の数字は人数を表している。

8. 調査結果の概要

以下の調査結果の概要は、特に非正規雇用者と無業者にみられる属性や仕事の経験等に関する特徴を挙げ、それらについての考察から導き出されたキャリア教育やキャリア形成支援の方向性のポイントを示したものである。なお、正規雇用者、非正規雇用者、無業者の比較結果については、次ページ以降の本文を参照していただきたい。

調査結果の概要		
	非正規雇用者	無業者
心理的 特性等 基本的 属性・	○ 男性の半数以上が20～24歳である ○ 最終学歴が低い傾向 ○ 年収150万円未満と150～300万円未満を合わせて約9割 ○ 男性の8割、女性の6割以上が親と同居 ○ 「今の自分に満足している」という人は少ない	○ 女性の中卒者（高校中退含む）が多い ○ 9割近くが親と同居 ○ 世帯の年間総収入がわからない人が多い ○ 中学校時代、男性では友人数が少なく、女性では欠席日数が多く、成績が上位だった人が少ない傾向 ○ 「いやになった時でもがんばってみようとする」、「自分のよくないところを自分で考え直す」等の意識が低い
仕事の 経験	○ 男性の6割、女性の4割以上が初職が非正規雇用 ○ 8割近くが初職を3年未満で離職 ○ 初職を離職した理由は「ほかにやりたいことがあった」、「人間関係がうまくいかなかったため」が2割以上	○ 初職に就くまでブランクがある人が多い ○ 男性の4割、女性の6割の初職が非正規雇用 ○ 8割近くが初職を3年未満で離職 ○ 初職を離職した理由は「ほかにやりたいことがあった」、「人間関係がうまくいかなかったため」が2割以上 ○ 初職を辞めてから働いていない人は、男性の4割、女性の3割 ○ 男性の半数、女性の4割は無業期間が1年以上 ○ 男女合わせると1割に就業経験がない
職業観等	○ 半数近くが転職を希望している ○ 正規雇用者と比較して職業観に大きな違いはない	○ 9割以上が今後職業に就くことを希望している ○ 自分の希望する仕事があれば働きたいと考える人が多い ○ 「専門的な知識や技術を磨きたい」、「職業生活に役立つ資格を取りたい」という意識がやや低い ○ 正規雇用を志向しない傾向
求職活動		○ 8割以上が何らかの求職活動をしている ○ 求職活動において困難を感じていることは、「希望する業種・職種が見つからない」が6割、「要求される資格・技能を持っていない」が5割近い
の状況 学習活動	○ 職場研修への参加は、研修を受ける機会に恵まれている正規雇用者に対して半分にも満たない	○ 教育的番組、ビデオ教材等での学習活動が多い ○ 公共職業訓練を受講したのは1割にも満たない
キャリア教育及び若年層のキャリア形成支援に関する生涯学習政策の視点		
キャリア教育	○ 将来フリーターになることの不利益 ○ フリーターから正規雇用になることは困難 ○ 学び続けることの重要性 ○ 就職に有利な資格や技能が取得できる学校への進学 ○ 職業選択の幅を広げるために上級学校へ進学 ○ なりたい職業を決めるよりも、将来の様々な出来事に能動的に対処し、激しい変化にも適応できる能力を身に付ける(クランボルツのキャリア理論「Planned Happenstance Theory」) ○ 「コミュニケーション・スキル」や「対人スキル」などのソーシャルスキル能力の育成 ○ 不登校や中退等の学校不適應の防止 ○ 上記について保護者へも教育	
リア形成支援 若年層のキャリア	○ 経済的、心理的に学び直すことが容易で、学んだことが就職に結び付くような仕組みづくり ○ eラーニングの活用(職業観や職業に関する知識・技能等) ○ ニートへのキャリア・カウンセリング(クランボルツのキャリア理論「やりたい仕事」より「行動」を起こすことが重要)	

第 章 調査の結果

この報告書では、正規雇用者・非正規雇用者・無業者について、基本的属性をはじめ、中学生時代の状況や仕事の経験等の比較を行っている。以下では、それらの比較において差があると考えられる項目について説明を加え、正規雇用者・非正規雇用者・無業者の特性を概観している。

なお、正規雇用者は正社員・正職員である給与所得者とし、自営業主・家族従業者、会社経営者・会社役員は除外している。非正規雇用者は契約社員・嘱託、パート・アルバイトとし、無業者は専業主婦と学生を除外した収入を伴う仕事をしていない者である。また無業者のうち、最終学歴が中学校であり、中学校時代に1年間の欠席日数が1か月以上あり、就業経験がない4名は除外している。

1．基本的属性及び家庭状況等

(1) 年齢

男性の正規雇用者の42.8%が30～34歳であるのに対して、非正規雇用者は22.5%、無業者は26.4%となっている。一方、正規雇用者の20.3%が20～24歳であるのに対して、非正規雇用者は53.5%、無業者は35.8%となっている。つまり、男性に関しては、正規雇用者の場合は20歳代後半から30歳代前半の占める割合が高くなっているのに対し、非正規雇用者の場合は半数以上が20歳から24歳までとなっている。ところが女性の場合、非正規雇用はむしろ20歳代後半から30歳代前半に多く見られる傾向がある。

(2) 結婚の状況

男性の正規雇用者の37.1%が既婚であるのに対して、非正規雇用者の既婚は11.6%、無業者は3.8%である。

逆に女性は正規雇用者では24.7%が既婚であるのに対して、非正規雇用者は41.5%である。

(3) 親との同居の有無

男性の正規雇用者の65.2%が親と同居しているのに対して ,非正規雇用者は81.2% ,無業者は86.8%である。

女性の正規雇用者の68.8% ,非正規雇用者の65.5%が親と同居しているのに対して ,無業者は87.1%である。

(4) 世帯の年間総収入

男性の正規雇用者の71.3%が ,世帯の年間総収入が300万円以上なのに対し ,非正規雇用者は42.9% ,無業者では22.6%である。それに加え無業者の34.0%は世帯の年間総収入がわかっていない。

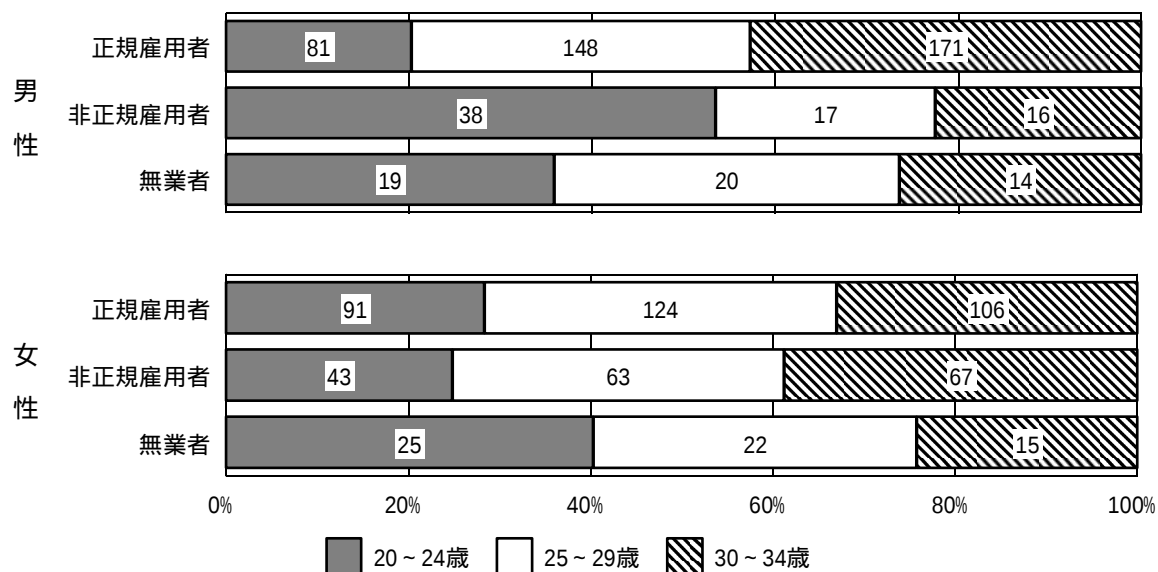
女性の正規雇用者の68.7%が世帯の年間総収入が300万円以上なのに対し ,非正規雇用者は57.9% ,無業者では29.0%である。それに加え無業者の41.9%は世帯の年間総収入がわかっていない。

(5) 生活費

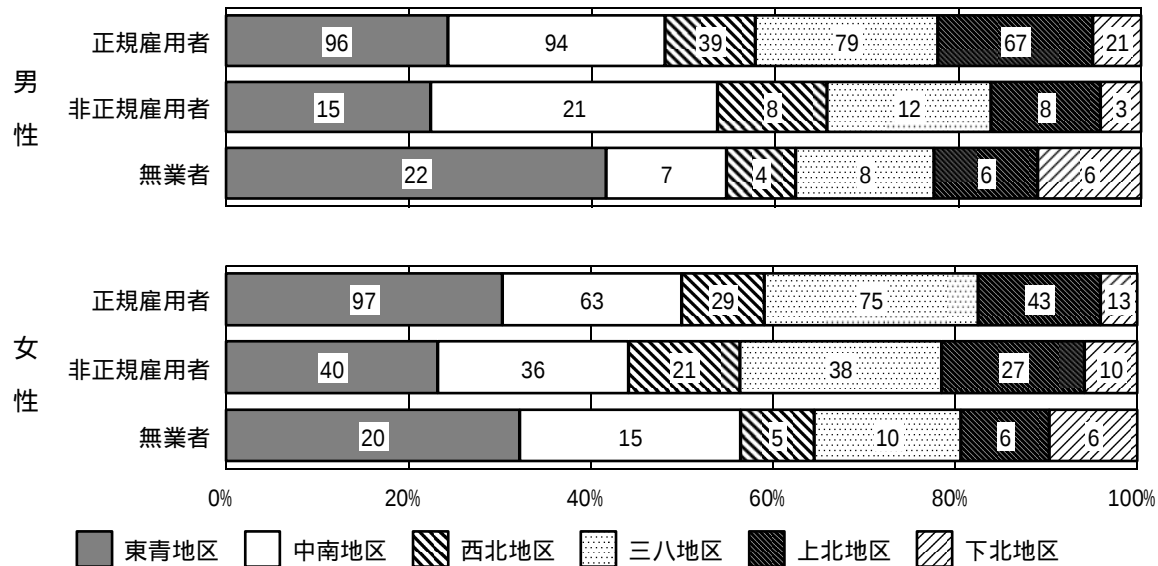
男性の正規雇用者の83.0%が ,自分の収入で生活費を賄っているのに対し ,非正規雇用者は57.1% ,無業者では26.4%である。一方 ,親の収入で生活費を賄っているのは ,正規雇用者が15.5% ,非正規雇用者が42.9% ,無業者が77.4%となっている。女性の正規雇用者の68.1%が ,自分の収入で生活費を賄っているのに対し ,非正規雇用者は37.6% ,無業者では33.9%である。一方 ,親の収入で生活費を賄っているのは ,正規雇用者が23.1% ,非正規雇用者が33.5% ,無業者が64.5%となっている。配偶者の収入で生活費を賄っているのは ,正規雇用者が14.7% ,非正規雇用者が36.5%となっている。

第 章 調査の結果

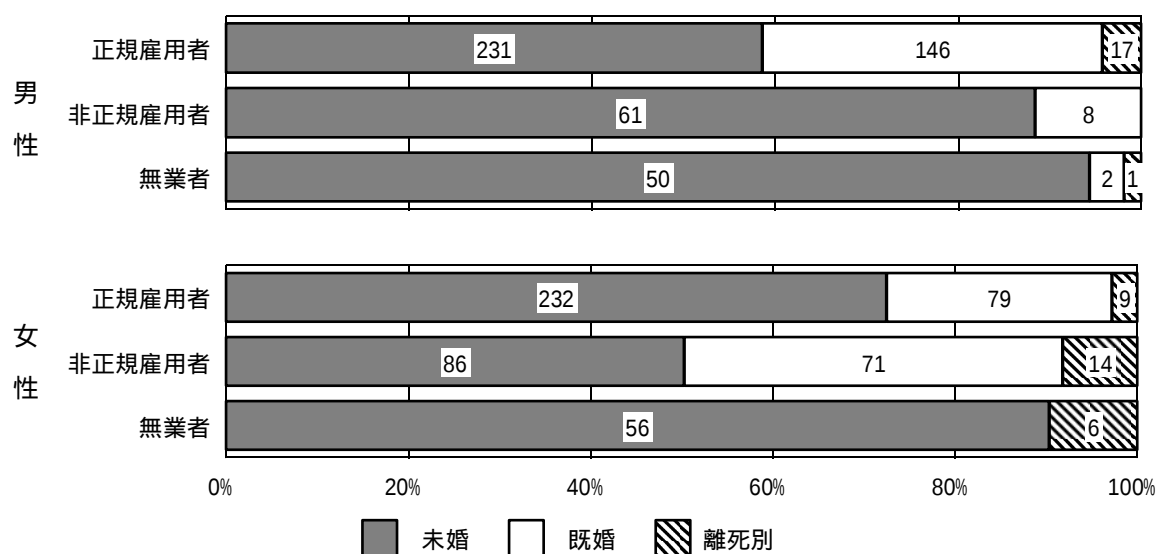
図表 1 - 1 年齢



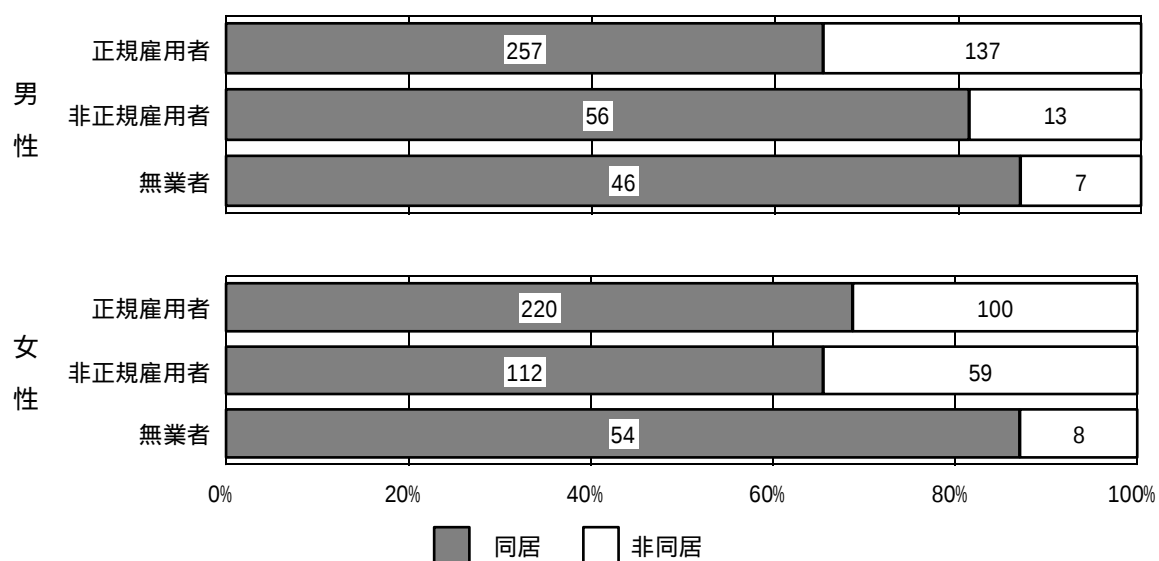
図表 1 - 2 居住地区



図表 1 - 3 結婚の状況

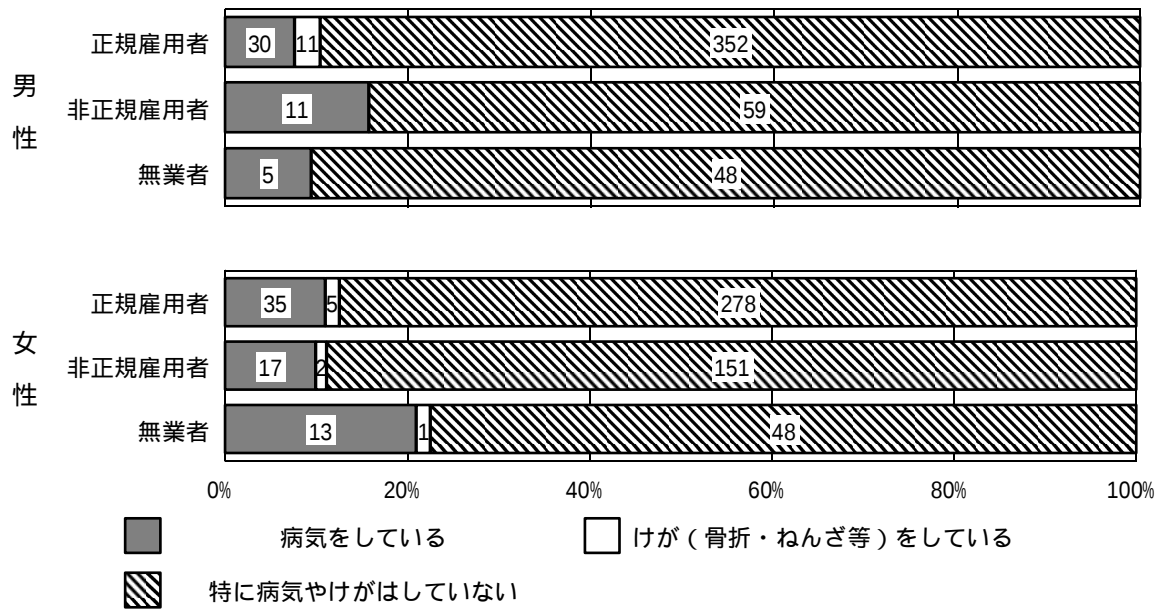


図表 1 - 4 親との同居

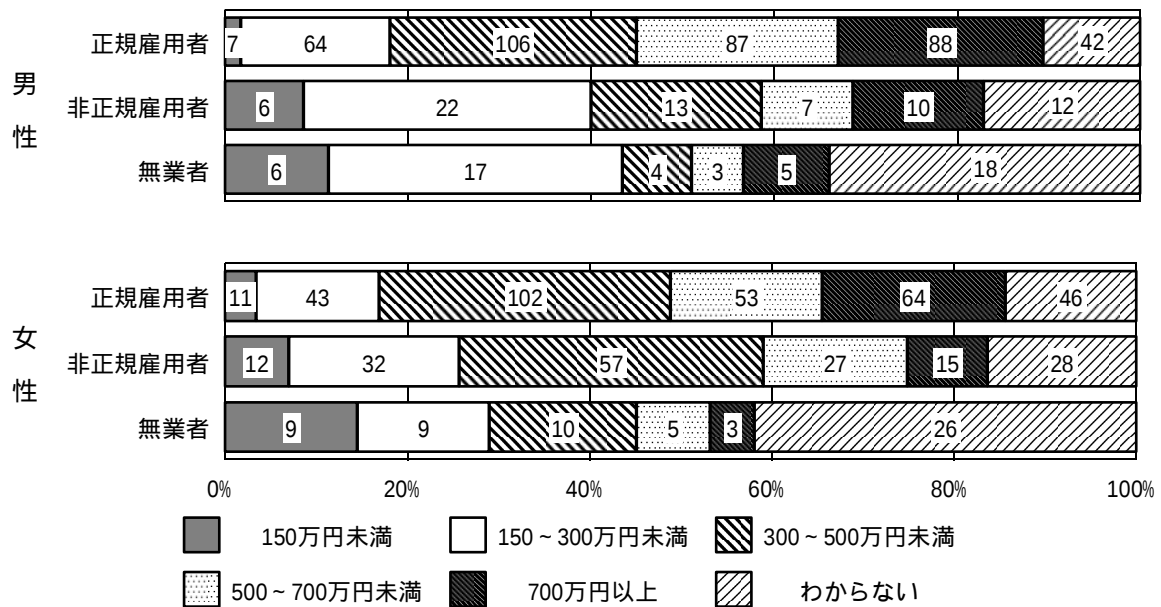


第 章 調査の結果

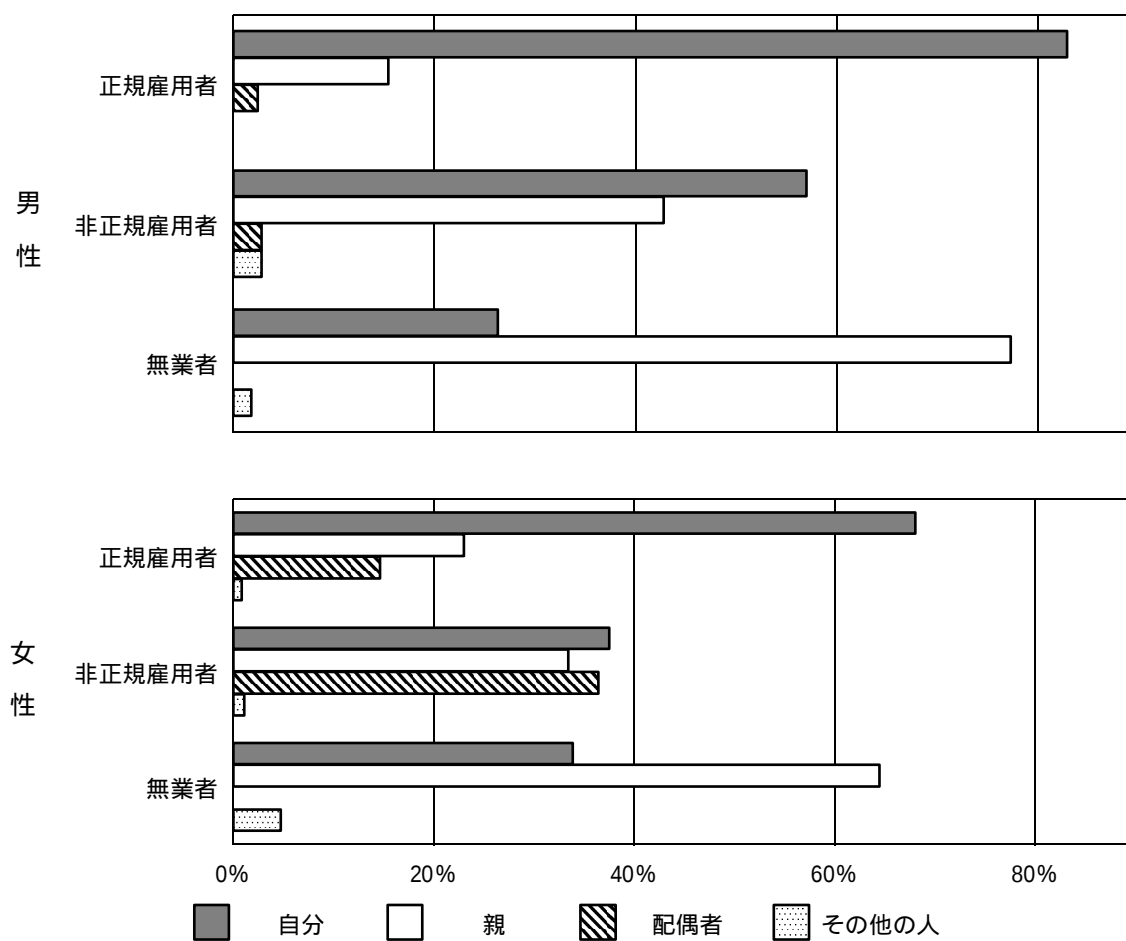
図表 1 - 5 病気やけがの有無



図表 1 - 6 世帯の年間総収入



図表 1 - 7 生活費



第 章 調査の結果

2．中学校生活と当時の家庭状況

(1) 中学校当時の友人数

男性の正規雇用者の38.9%が友人数が11人以上なのに対し、非正規雇用者では27.5%、無業者では9.6%である。

(2) 中学生時代の欠席日数

女性の正規雇用者の95.8%が欠席日数 1 週間以内なのに対し、非正規雇用者では86.5%、無業者では69.6%である。

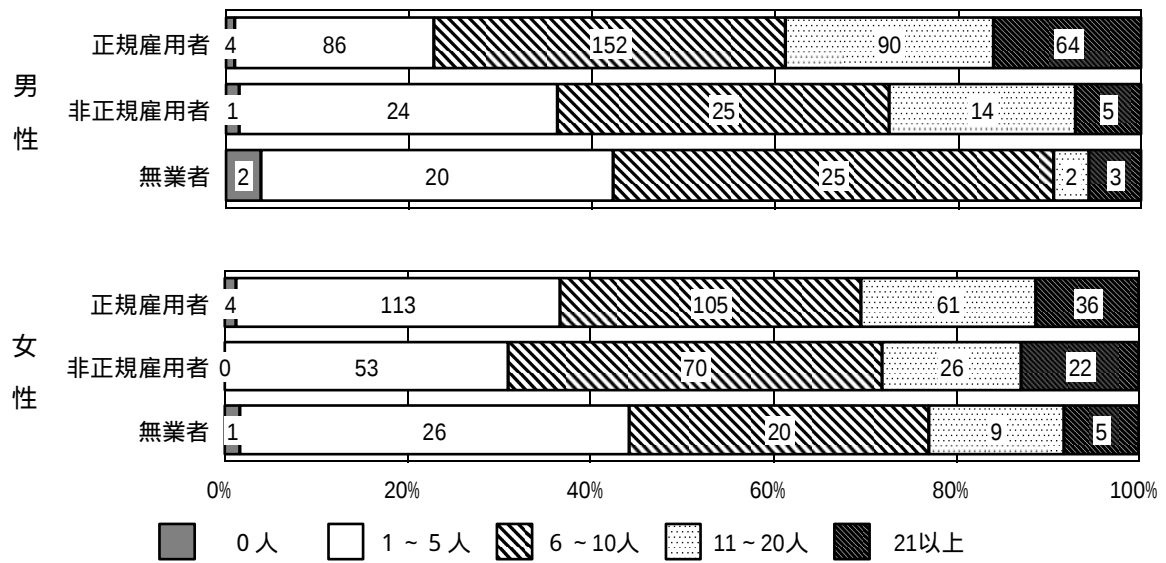
(3) 中学 3 年生の頃の成績

女性の正規雇用者の19.8%が成績が上の方なのに対し、非正規雇用者では13.7%、無業者では5.1%である。

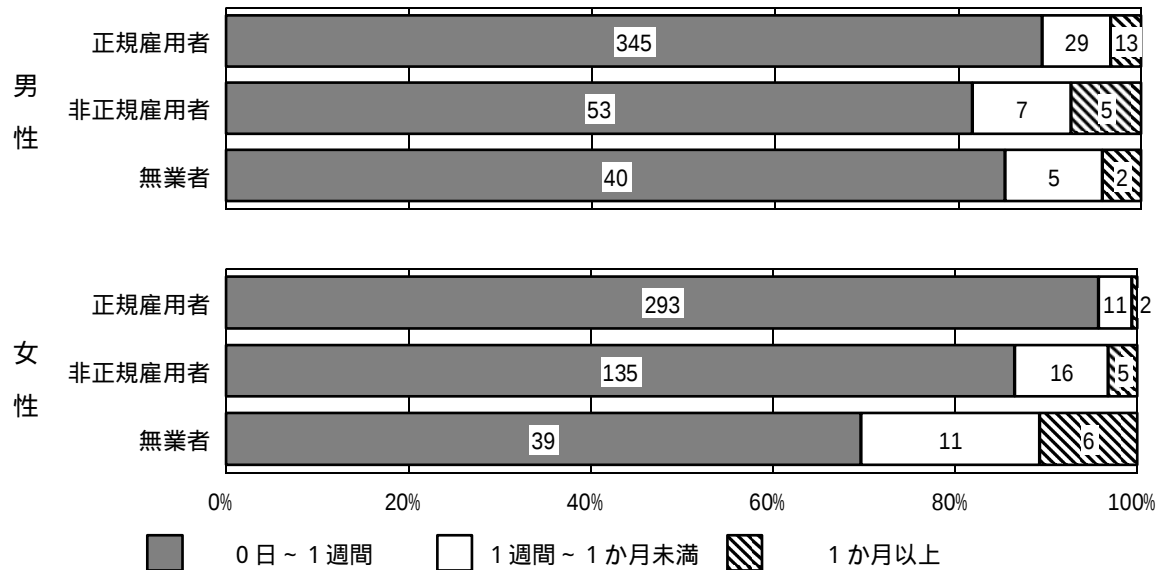
(4) 中学 3 年生の頃の母の職業

母親の職業については、男性の場合、専業主婦と非正規雇用者の割合に差がみられる。男性の正規雇用者の22.1%が中学 3 年生の頃に母親が専業主婦をしており、非正規雇用者では7.5%、無業者では23.1%である。また正規雇用者の28.8%が母親が非正規雇用者なのに対し、非正規雇用者では43.3%が母親が非正規雇用者、無業者では38.5%である。

図表 2 - 1 中学校当時の友人数

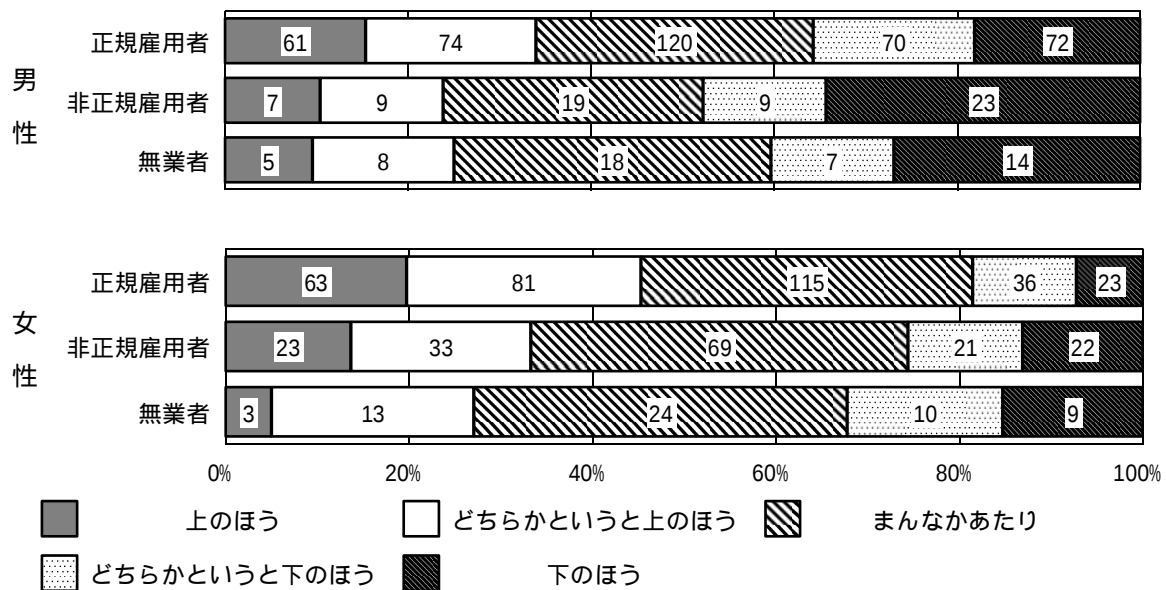


図表 2 - 2 中学生時代の欠席日数

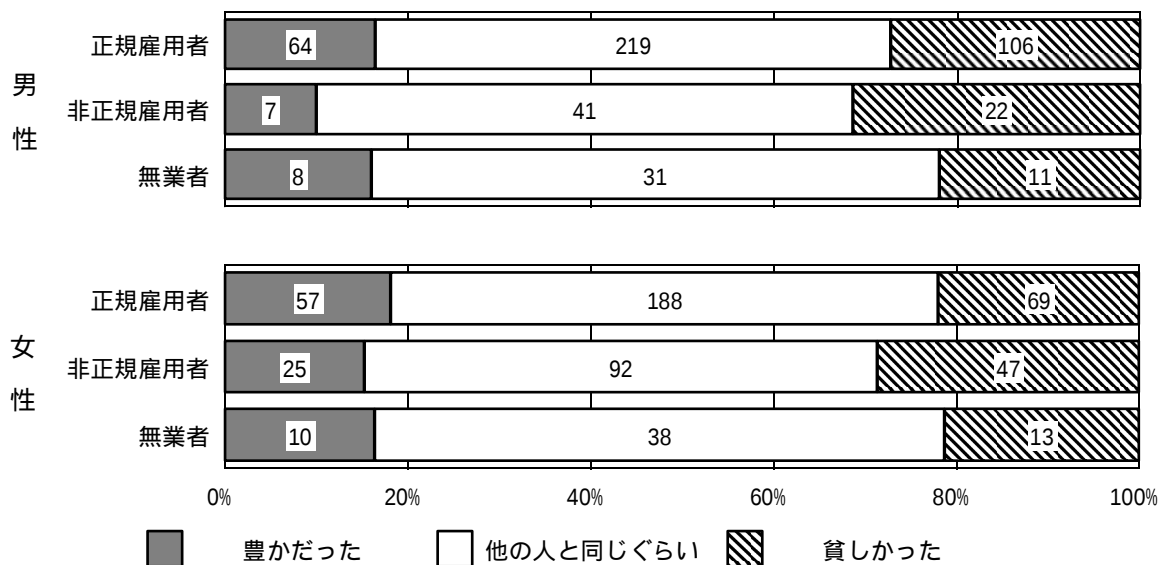


第 章 調査の結果

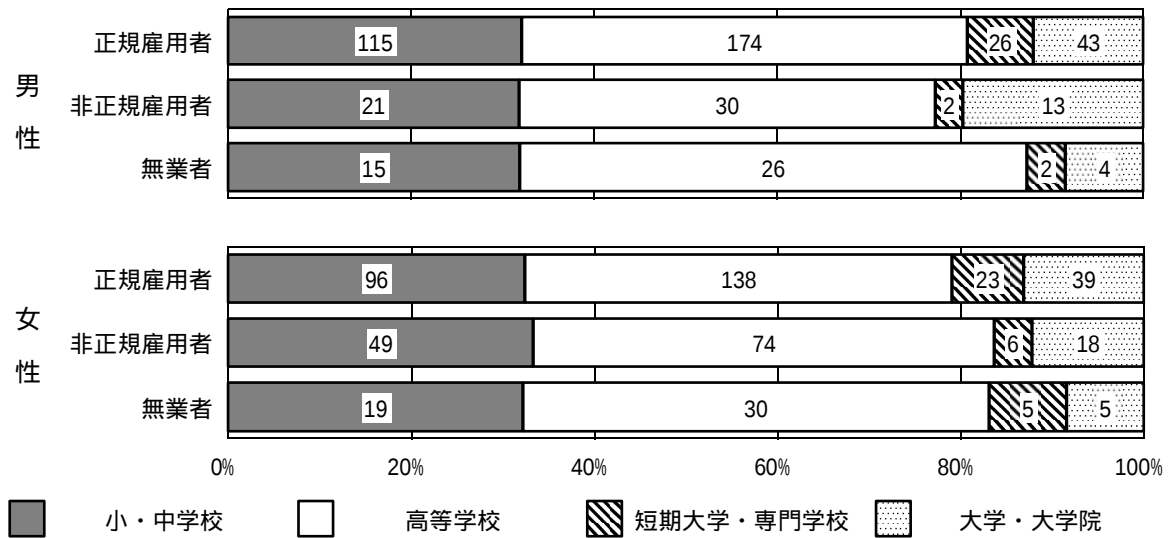
図表 2 - 3 中学 3 年生の頃の成績



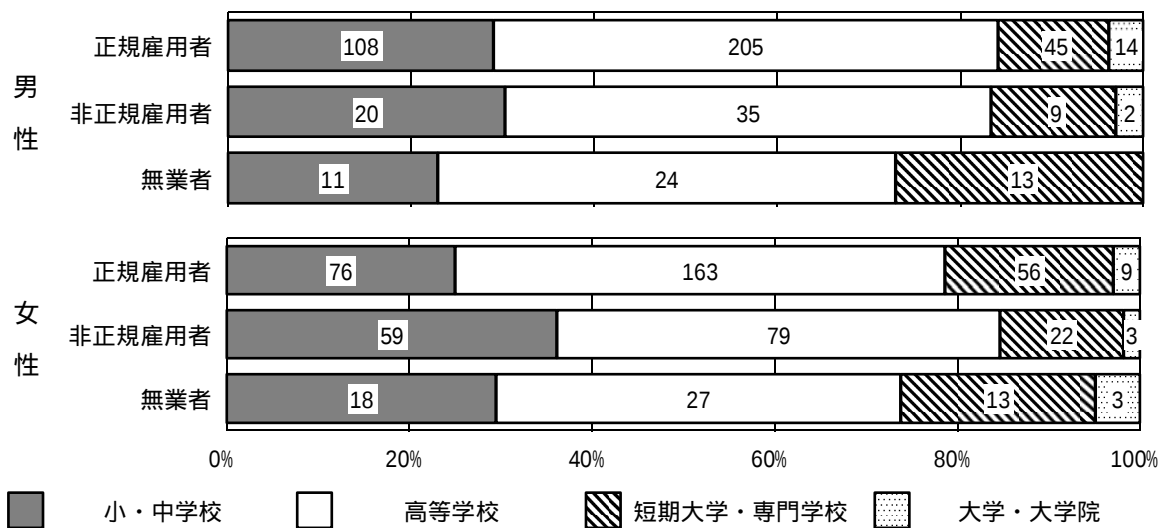
図表 2 - 4 中学 3 年生の頃の家庭の経済状態



図表 2 - 5 父の最終学歴

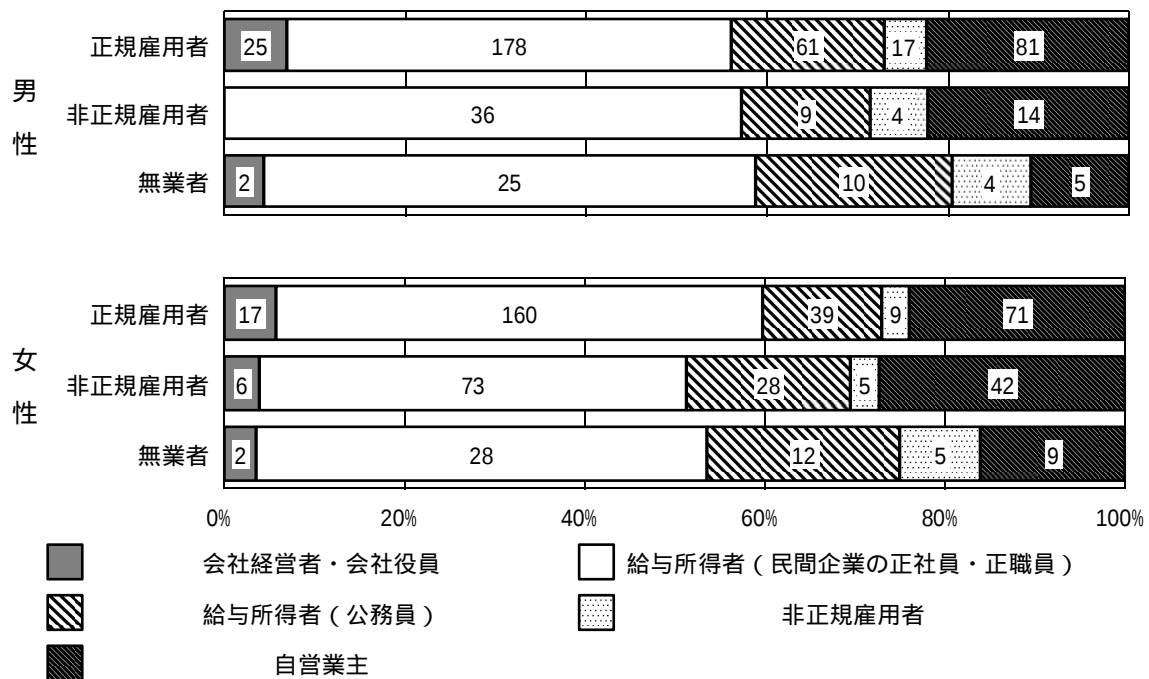


図表 2 - 6 母の最終学歴

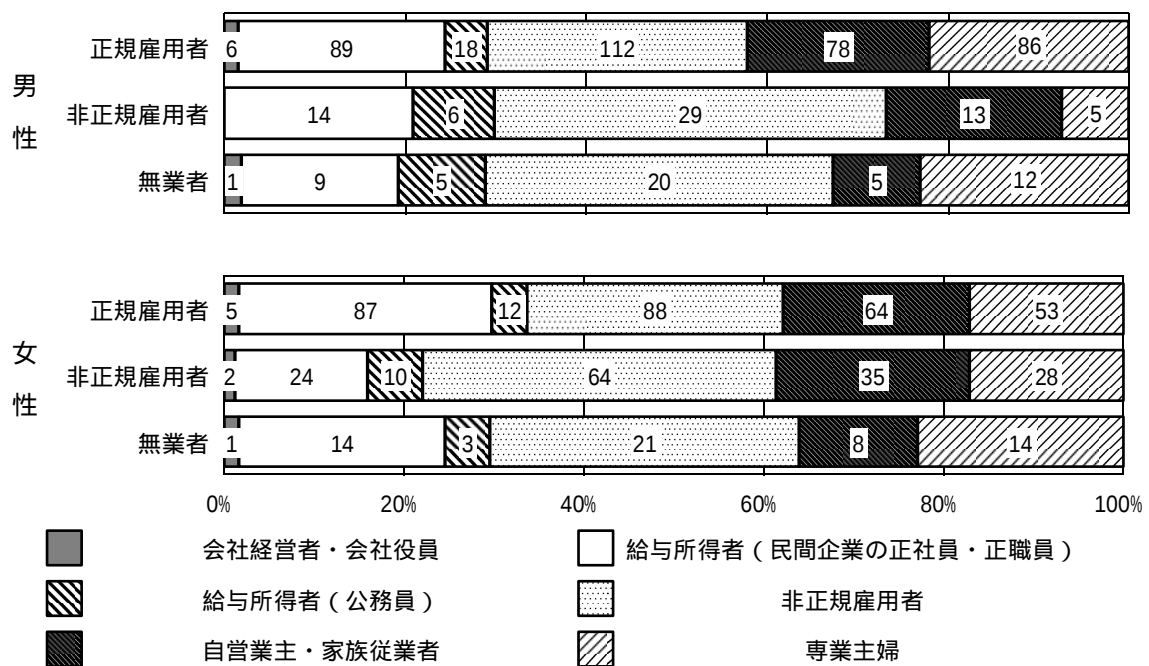


第 章 調査の結果

図表 2 - 7 中学 3 年生の頃の父の職業



図表 2 - 8 中学 3 年生の頃の母の職業



3. 最終卒業学校

(1) 最終学歴

最終学歴については、男性の場合、大学・大学院と中学校の割合に差がみられる。正規雇用者のうち、最終学歴が大学・大学院の人の割合は24.3%に達するのに対し、非正規雇用者のうち最終学歴が大学以上の人は9.9%、無業者では13.2%と、明らかに低くなっている。逆に正規雇用者のうち最終学歴が中学校の人は5.3%なのに対して、非正規雇用では15.5%、無業者では7.5%となっており、正規雇用者に比べ非正規雇用者及び無業者では低学歴者の占める割合が高くなっている。

女性の場合、短期大学・専門学校、高等学校、中学校の割合に差がみられる。正規雇用者のうち、最終学歴が短期大学・専門学校の人の割合は42.8%なのに対し、非正規雇用者のうち最終学歴が短期大学・専門学校の人は24.9%、無業者では29.0%と低くなっている。逆に正規雇用者のうち最終学歴が高等学校の人は40.6%なのに対して、非正規雇用では57.2%、無業者では48.4%となっている。中学校についても、正規雇用者が0.6%なのに対し、非正規雇用者が5.2%、無業者が11.3%となっている。

(2) 最終学校を卒業・中退

男性の正規雇用者の94.7%が最終学校を卒業しているが、非正規雇用者で最終学校を卒業しているのは79.7%、無業者では86.8%となっている。

女性の正規雇用者の96.9%、非正規雇用者の93.6%が最終学校を卒業しているが、無業者で最終学校を卒業しているのは79.0%である。

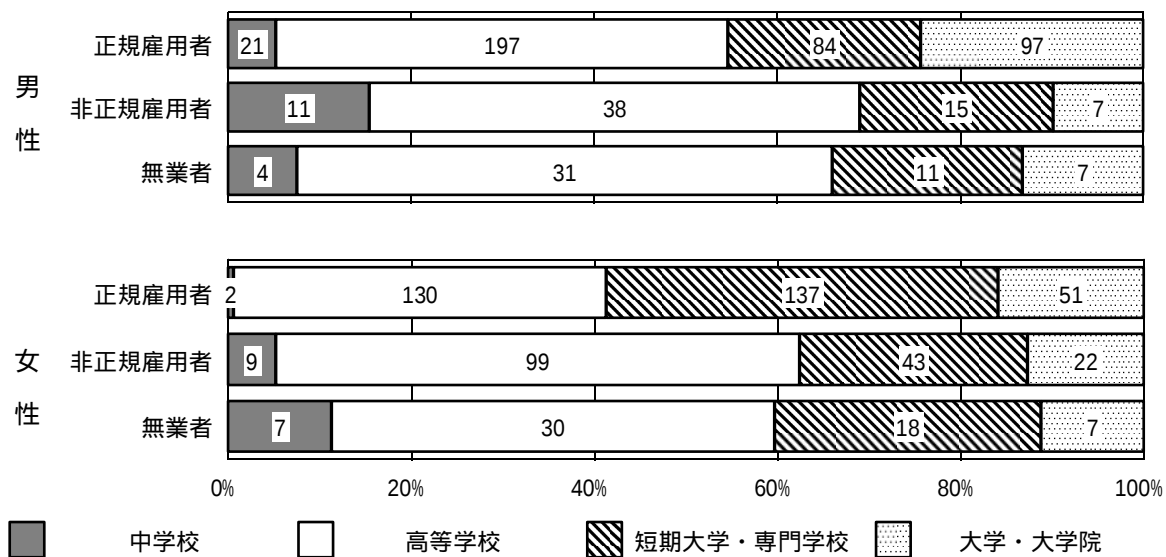
(3) 最終学校を卒業・中退後

男性の正規雇用者の93.1%が最終学校を卒業・中退後すぐに仕事についているが、非正規雇用者ですぐに仕事に就いたのは81.4%、無業者では61.5%である。

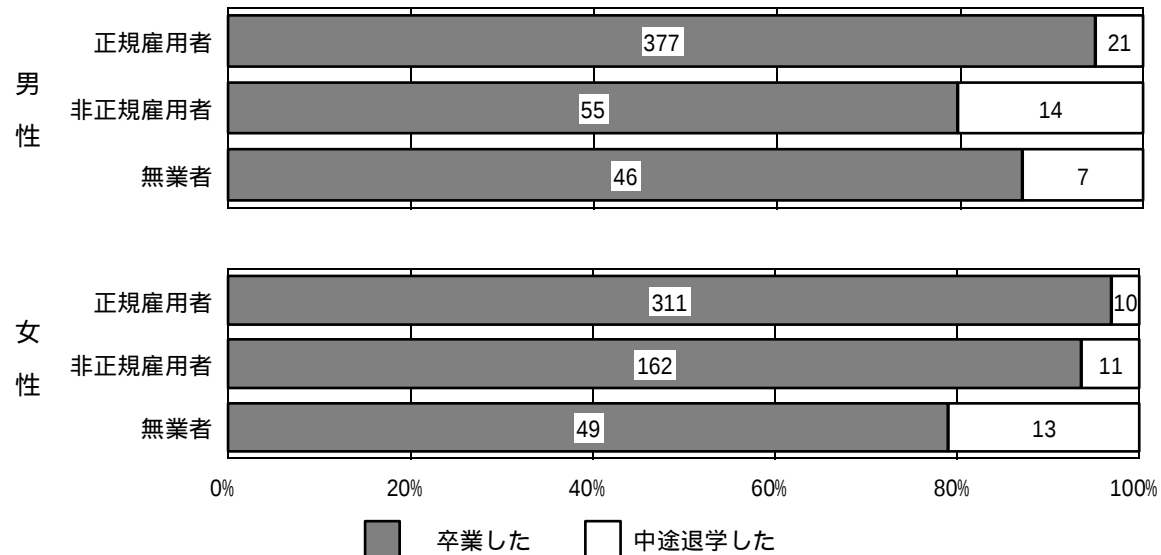
女性の正規雇用者の93.3%が最終学校を卒業・中退後すぐに仕事についているが、非正規雇用者ですぐに仕事に就いたのは88.1%、無業者では65.0%である。

第 章 調査の結果

図表 3 - 1 最終学歴



図表 3 - 2 最終学校を卒業・中退



4 . 仕事の経験

(1) 初職

男性の正規雇用者の79.9%が、最終学校を卒業・中退後に一番最初に就いた仕事が正規雇用だが、非正規雇用者、無業者で一番最初に就いた仕事が正規雇用だったのは、それぞれ37.1%、56.8%である。

女性の正規雇用者の71.0%が、最終学校を卒業・中退後に一番最初に就いた仕事が正規雇用だが、非正規雇用者、無業者で一番最初に就いた仕事が正規雇用だったのは、それぞれ55.5%、38.5%である。

(2) 勤務年数

男性の正規雇用者の45.0%が初職の勤務年数が3年未満、非正規雇用者では78.3%、無業者では77.8%である。それに加え無業者の7.5%が働いた経験がない。

女性の正規雇用者の51.6%が初職の勤務年数が3年未満、非正規雇用者で3年未満では75.6%、無業者では75.5%である。それに加え無業者の16.9%は働いた経験がない。

(3) 転職の有無と転職回数

男性の正規雇用者の49.9%が転職経験がなく、初職の勤務先で働いており、50.1%が転職している。正規雇用者全体で、転職回数が1回の方は22.1%である。

非正規雇用者では25.7%が初職の勤務先で働いており、74.3%が転職している。非正規雇用者全体で、転職回数が1回の方は20.6%、2回が20.6%となっている。

無業者では初職を辞めて転職したが59.1%であり、初職を辞めてから働いていない人が40.9%である。

女性の正規雇用者の48.6%が転職経験がなく、初職の勤務先で働いており、51.4%が転職している。正規雇用者全体で、転職回数が1回の方は22.0%である。

非正規雇用者ではそれぞれ12.1%、87.9%である。非正規雇用者全体で、転職回数が1回の方は26.0%、2回が16.8%、3回が21.4%となっている。

無業者では初職を辞めて転職したが65.4%であり、初職を辞めてから働いていない人が34.6%となっている。

(4) 個人年収

個人の年間収入を年齢階級別でみると、正規雇用者は20～24歳、25～29歳、30～34歳と年齢の上昇に伴って、年収300万円以上が7.0%、27.2%、45.5%と増えているのに対し、非正規雇用者は年収300万円未満が95.1%、91.1%、97.6%と年齢に関係なく横ばいになっている。

性別でみると、男性の正規雇用者の40.3%、女性の正規雇用者の17.1%が、年間収入が300万円以上なのに対し、非正規雇用者で300万円以上なのは男女とも1～2%に過ぎず、ほとんどが300万円未満である。

(5) 転職希望の有無

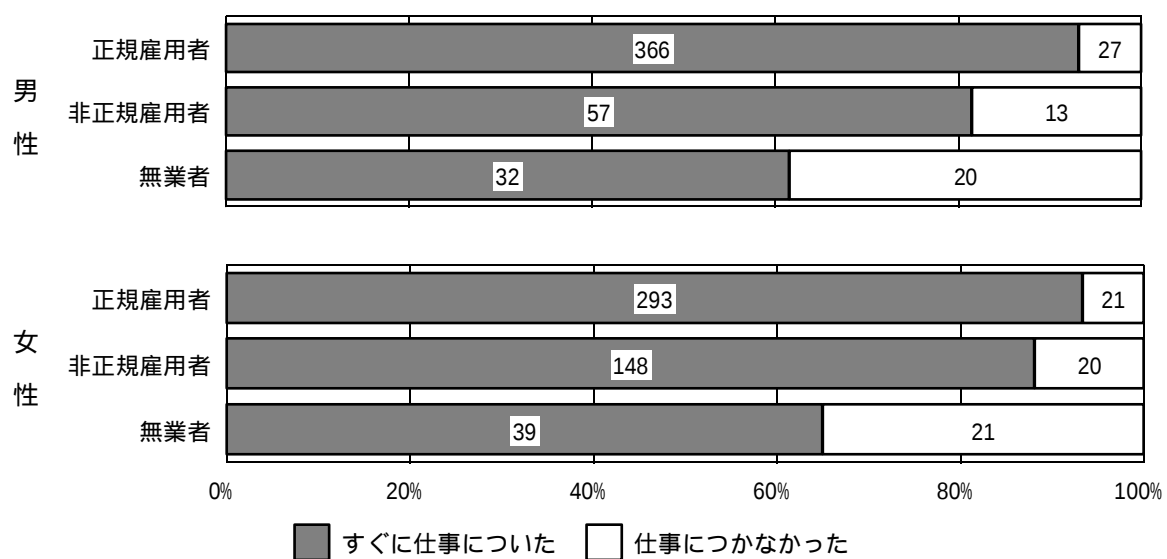
男性の正規雇用者の29.0%が転職希望なのに対して、非正規雇用者では45.1%が転職を希望している。

(6) 離職理由

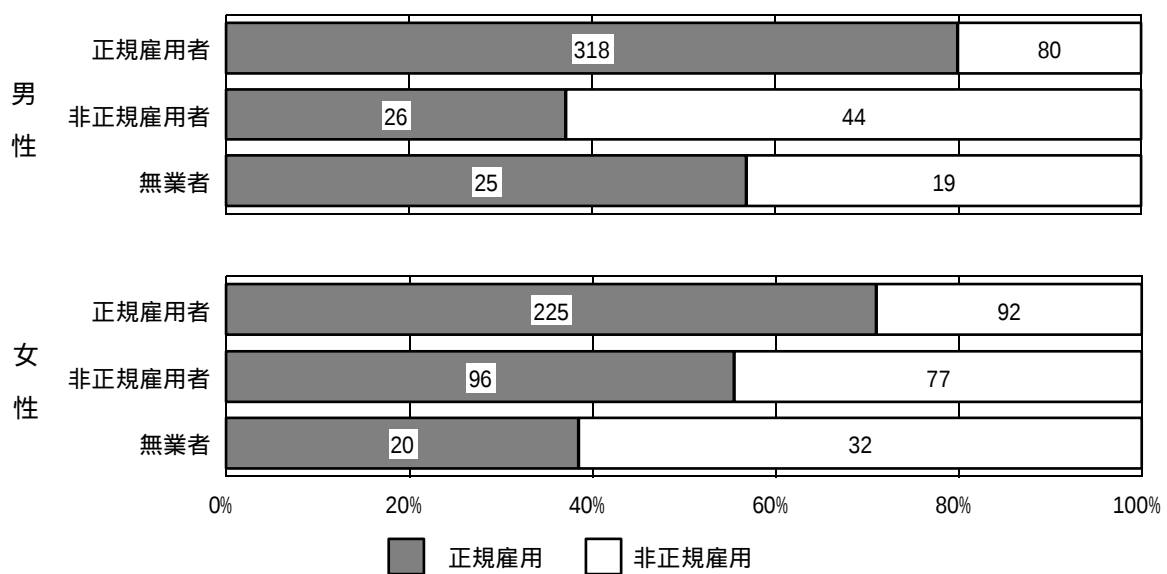
一番最初に就いた仕事を離職した経験のある人について、その理由をみると、男性では「ほかにやりたいことがあった」が、正規雇用者が26.7%、非正規雇用者が25.0%、無業者が27.3%で全体的に多い。一方、「人間関係がうまくいかなかったため」は、正規雇用者が12.0%なのに対し、非正規雇用者が23.1%、無業者が25.0%で差がみられる。

女性の場合、正規雇用者が「もともと長く働く予定ではなかったから」が26.3%で最も多い。次に「ほかにやりたいことがあった」が24.4%である。非正規雇用者では「人間関係がうまくいかなかったため」が22.0%で最も多い。「人間関係がうまくいかなかったため」は正規雇用者(21.9%)、無業者(23.5%)も2割以上である。無業者では「ほかにやりたいことがあった」も23.5%で最も多い理由となっている。

図表 4 - 1 最終学校を卒業・中退後

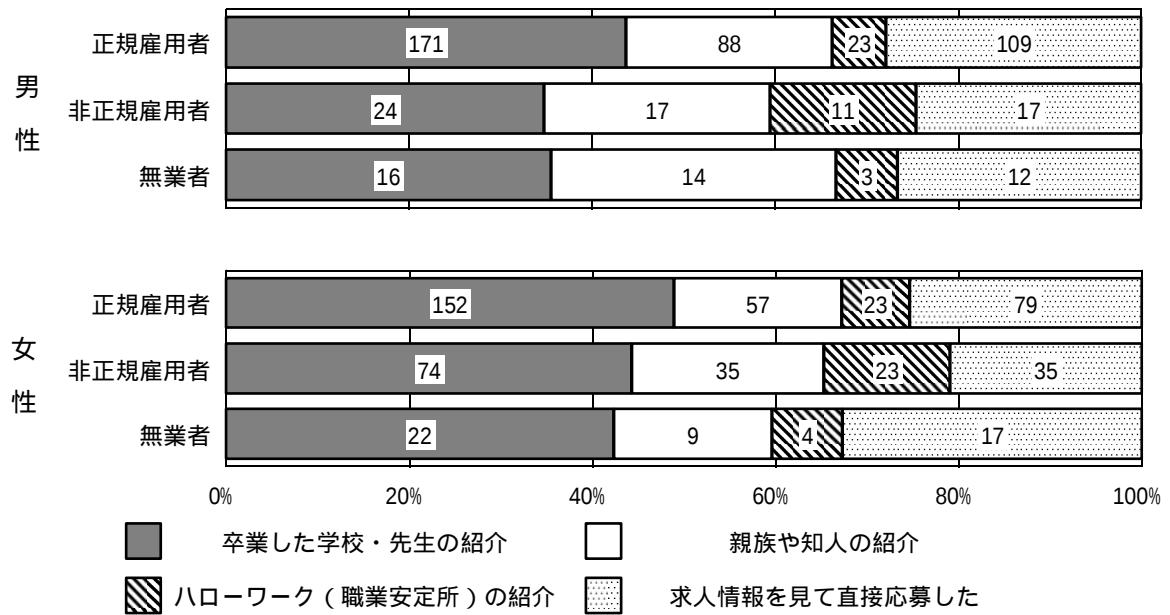


図表 4 - 2 最終学校を卒業・中退後の初職

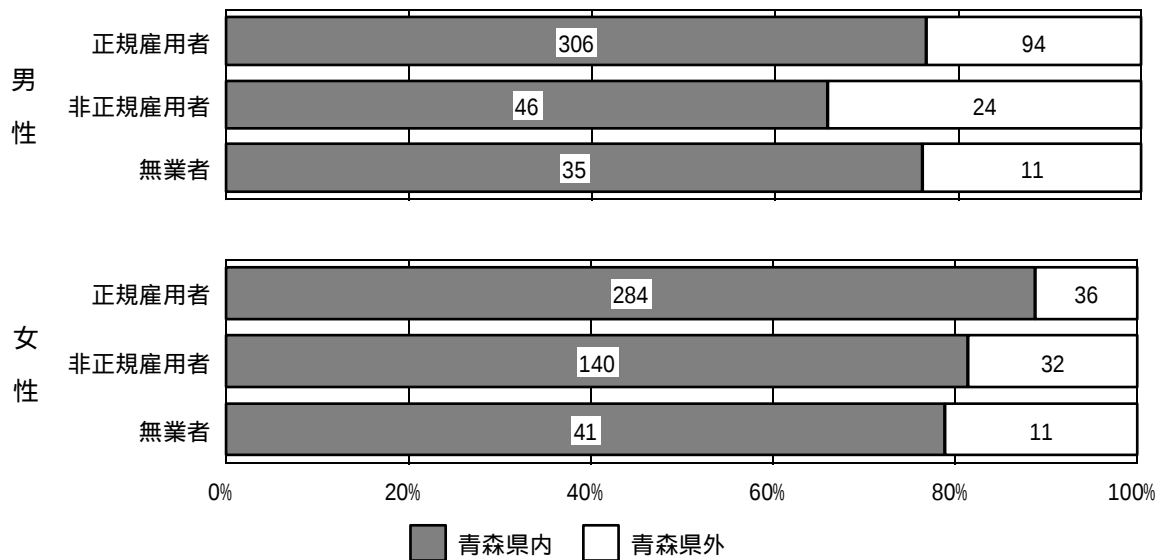


第 章 調査の結果

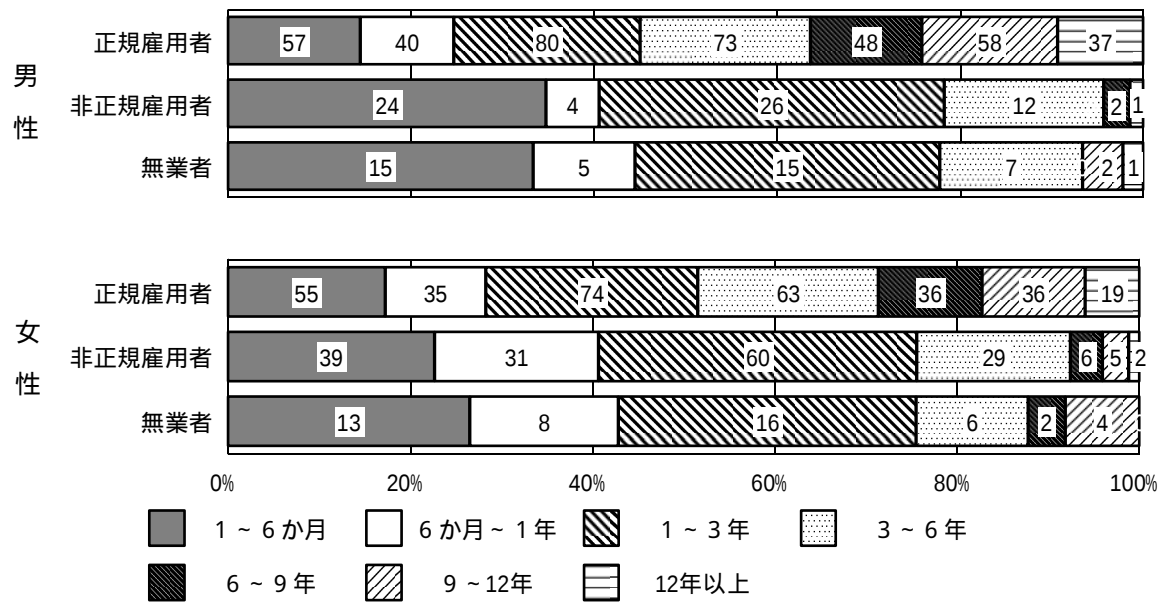
図表 4 - 3 就職方法



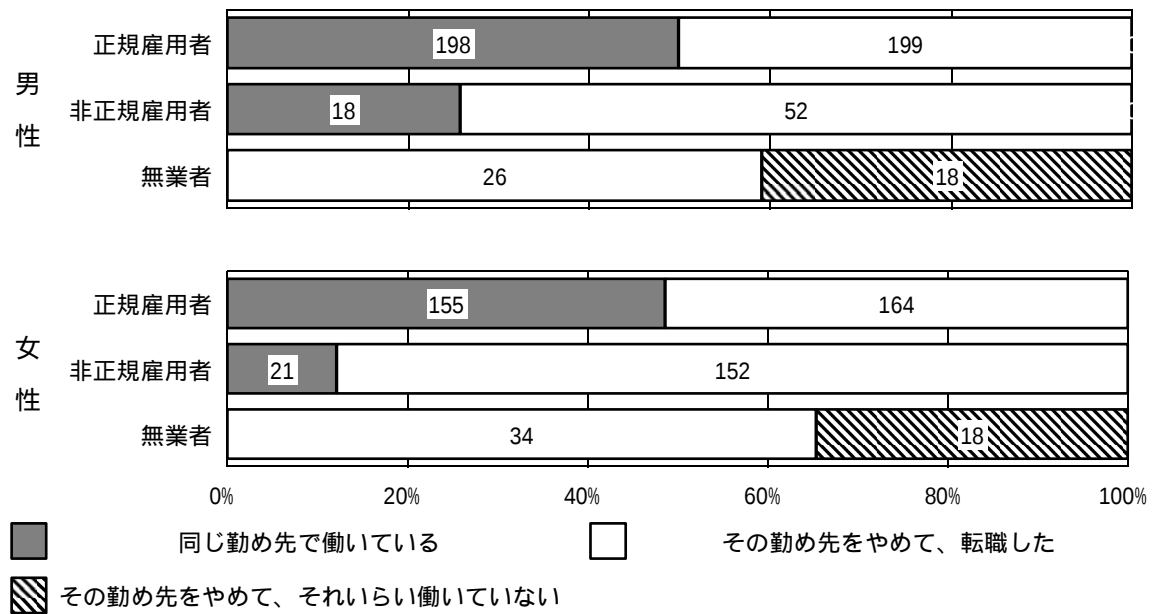
図表 4 - 4 初職の勤務地



図表 4 - 5 初職の勤務年数

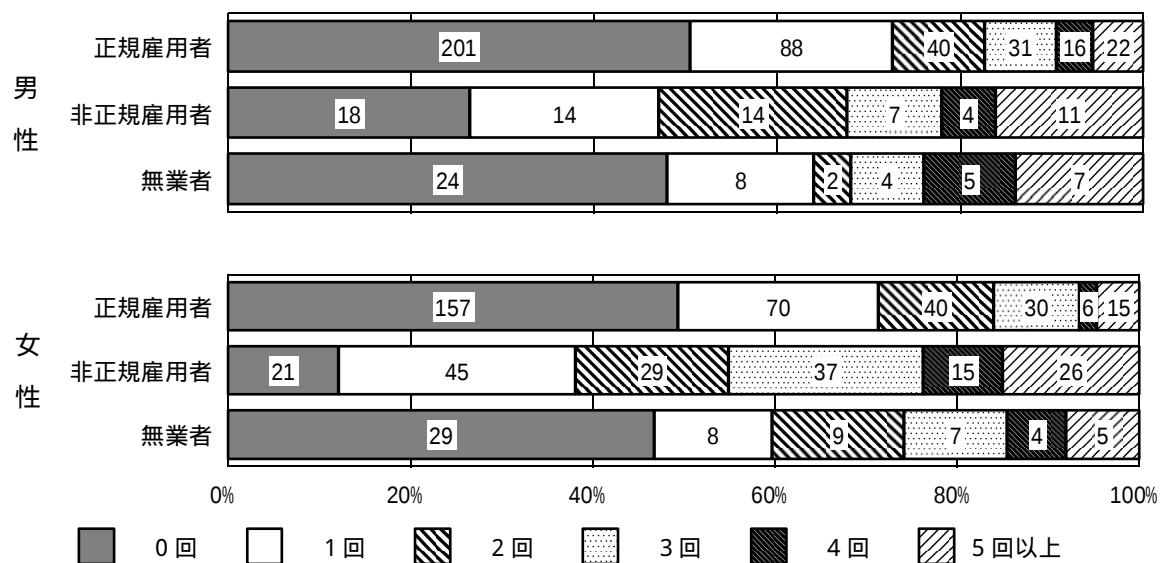


図表 4 - 6 転職の有無

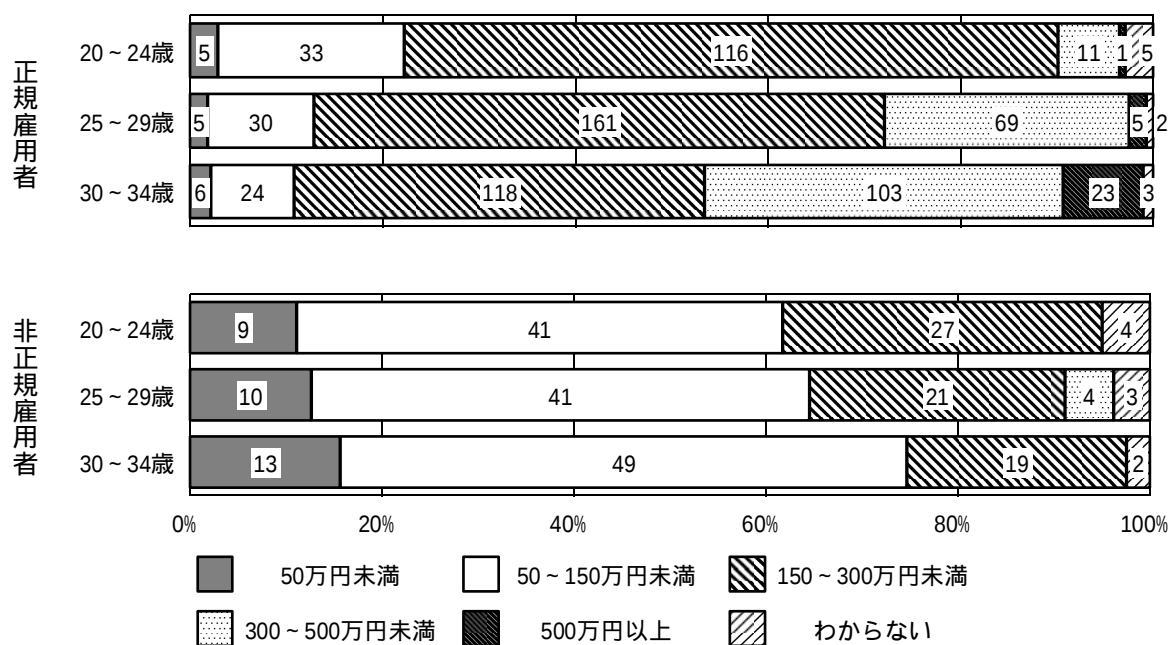


第 章 調査の結果

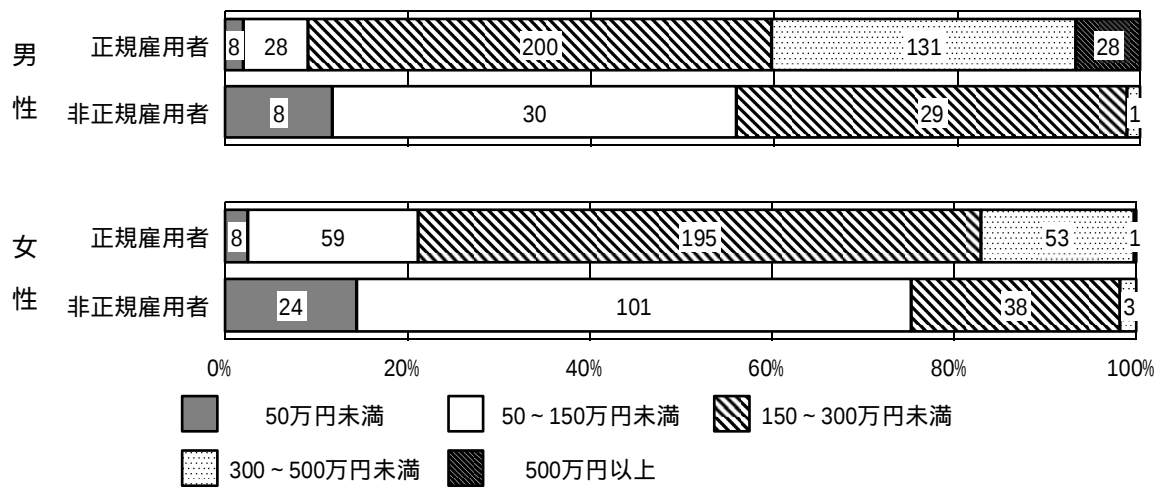
図表 4 - 7 転職回数



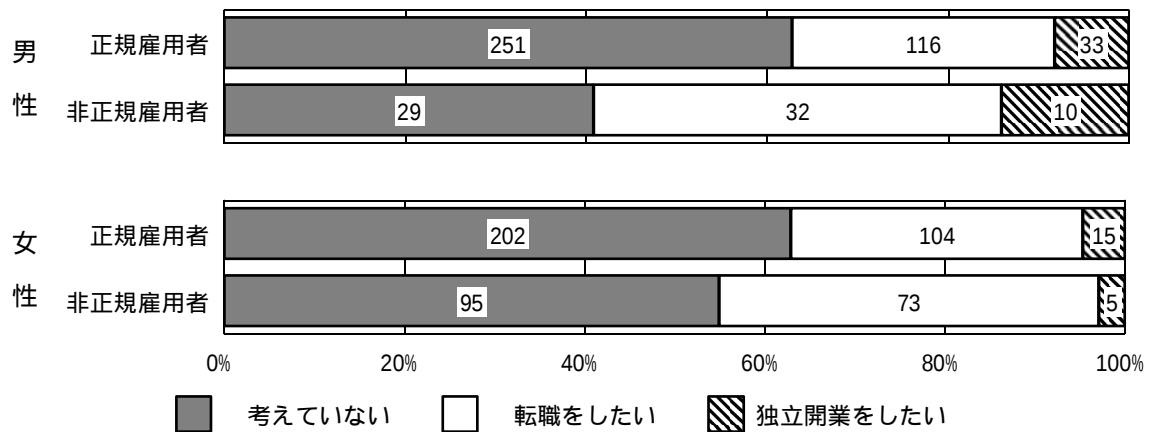
図表 4 - 8 年収（年齢別）



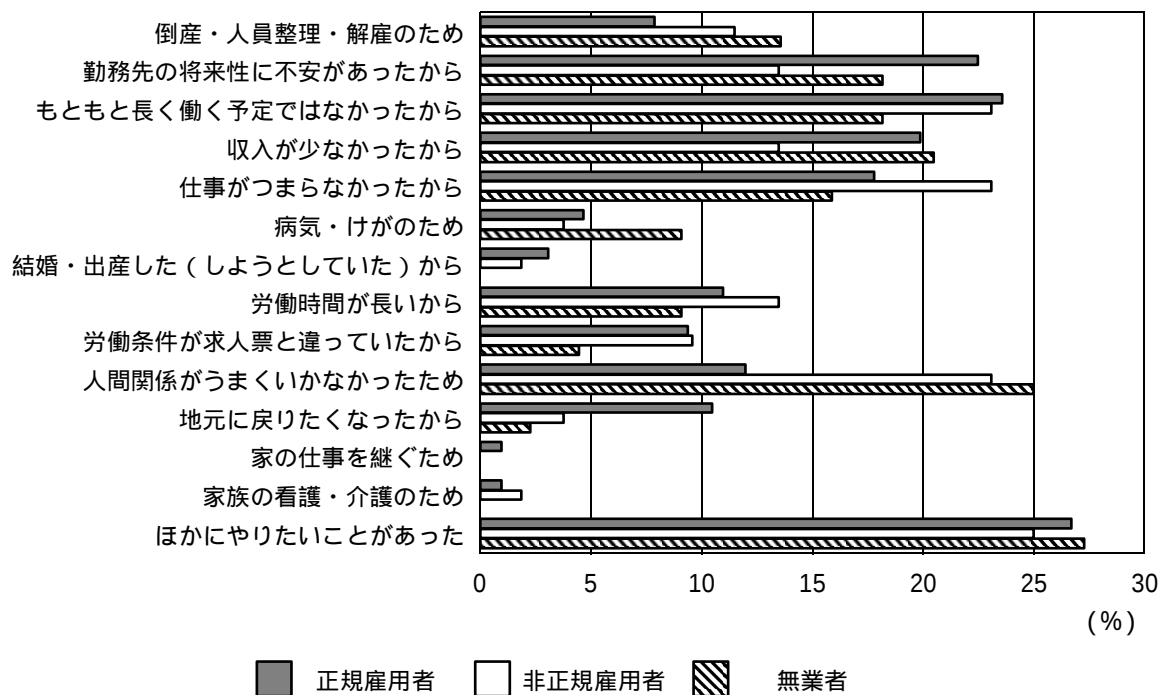
図表 4 - 9 年収（性別）



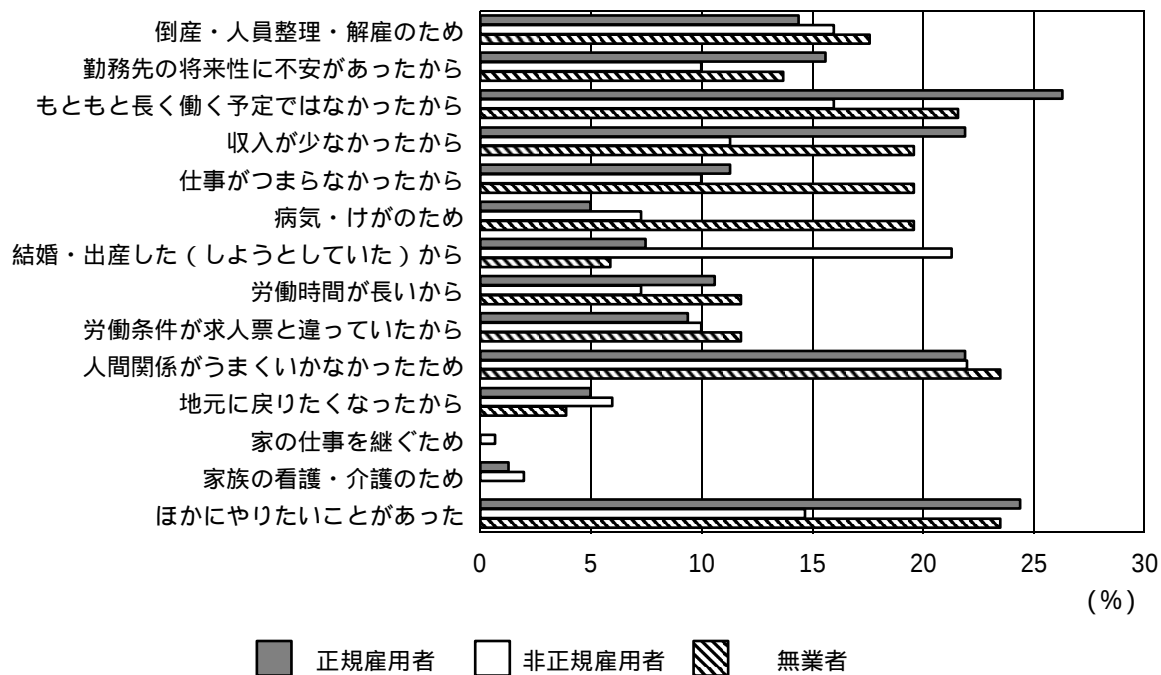
図表 4 - 10 転職希望の有無



図表 4 - 10 初職を離職した理由（男性）



図表 4 - 11 初職を離職した理由（女性）



5 . 職業観

(1) ひとよりも高い収入を得たい

男性の正規雇用者の84.3% (思う・やや思う) が「ひとよりも高い収入を得たい」と考えているのに対し、非正規雇用者では67.2%、無業者では75.0%となっている。

女性の正規雇用者の71.8% (思う・やや思う)、非正規雇用者の67.6%が「ひとよりも高い収入を得たい」と考えているのに対し、無業者では41.9%である。

(2) 安定した職業生活を送りたい

男性の正規雇用者の95.7% (思う・やや思う)、非正規雇用者の91.2%が「安定した職業生活を送りたい」と考えているのに対し、無業者では80.8%となっている。

女性の正規雇用者の96.6% (思う・やや思う)、非正規雇用者の97.1%が「安定した職業生活を送りたい」と考えているのに対し、無業者では90.3%である。

(3) 専門的な知識や技術を磨きたい

男性の正規雇用者の90.2% (思う・やや思う)、非正規雇用者の86.4%が「専門的な知識や技術を磨きたい」と考えているのに対し、無業者では75.0%となっている。

女性の正規雇用者の89.1% (思う・やや思う)、非正規雇用者の85.5%が「専門的な知識や技術を磨きたい」と考えているのに対し、無業者では77.4%である。

(4) やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらなくてよい

男性の正規雇用者の34.4% (思う・やや思う) が「やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらなくてよい」と考えているのに対し、非正規雇用者では46.3%、無業者では61.5%となっている。

女性の正規雇用者の43.8% (思う・やや思う) が「やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらなくてよい」と考えているのに対し、非正規雇用者では56.1%、無業者では64.5%である。

(5) 学校を卒業したら、親から経済的に自立すべきだ

男性の正規雇用者の90.5%（そう思う・ややそう思う）が「学校を卒業したら、親から経済的に自立すべきだ」と考えているのに対し、非正規雇用者では80.3%、無業者では86.5%となっている。

女性の正規雇用者の93.4%（そう思う・ややそう思う）、非正規雇用者の91.9%が「学校を卒業したら、親から経済的に自立すべきだ」と考えているのに対し、無業者では82.0%である。

(6) 職業生活に役立つ資格を取りたい

男性の正規雇用者の92.2%（そう思う・ややそう思う）が「職業生活に役立つ資格を取りたい」と考えているのに対し、非正規雇用者では89.6%、無業者では73.1%となっている。

(7) フリーターより正社員で働いた方が得だ

男性の正規雇用者の88.8%（そう思う・ややそう思う）、非正規雇用者の91.0%が「フリーターより正社員で働いた方が得だ」と考えているのに対し、無業者では76.9%となっている。

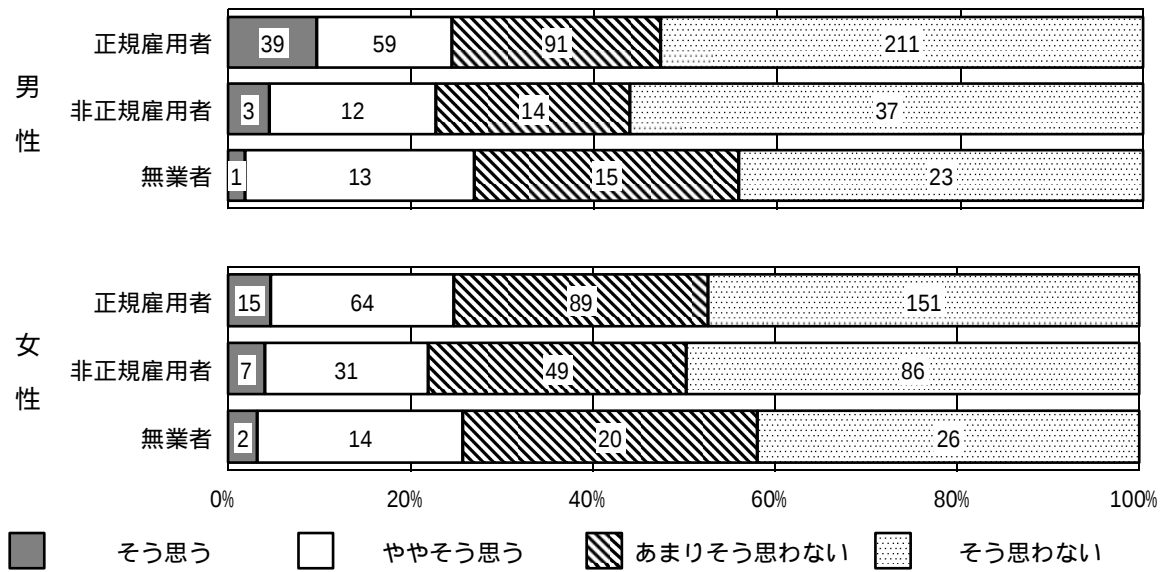
女性の正規雇用者の90.0%（そう思う・ややそう思う）が「フリーターより正社員で働いた方が得だ」と考えているのに対し、非正規雇用者では83.1%、無業者では75.8%である。

(8) 人の役に立つ仕事をしたい

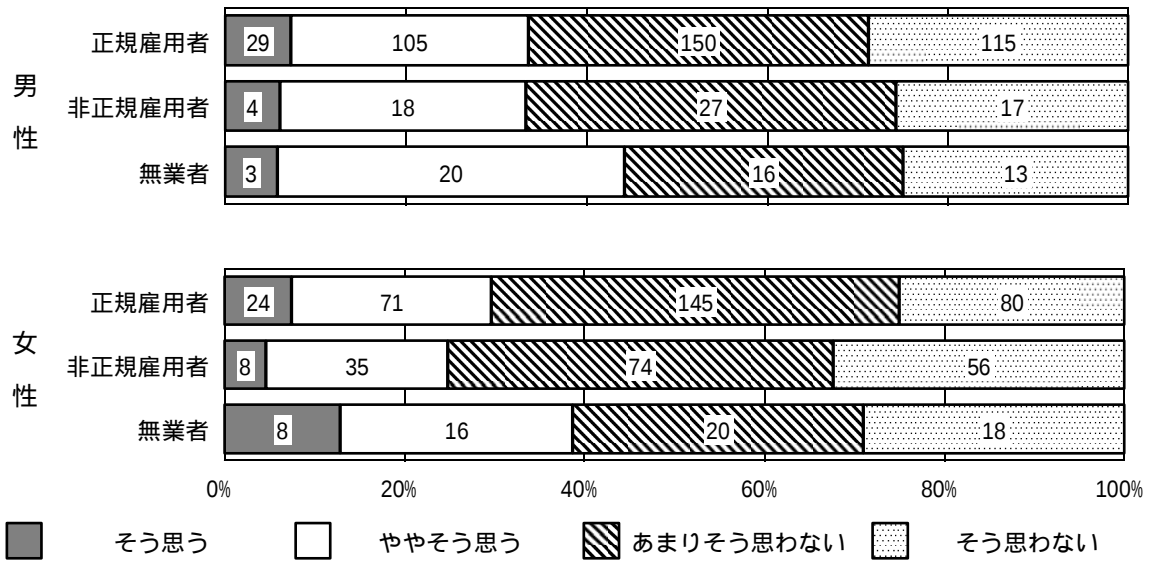
男性の正規雇用者の86.7%（そう思う・ややそう思う）が「人の役に立つ仕事をしたい」と考えているのに対し、非正規雇用者では71.6%、無業者では59.6%である。

女性の正規雇用者の86.9%（そう思う・ややそう思う）が「人の役に立つ仕事をしたい」と考えているのに対し、非正規雇用者では77.9%、無業者では66.1%である。

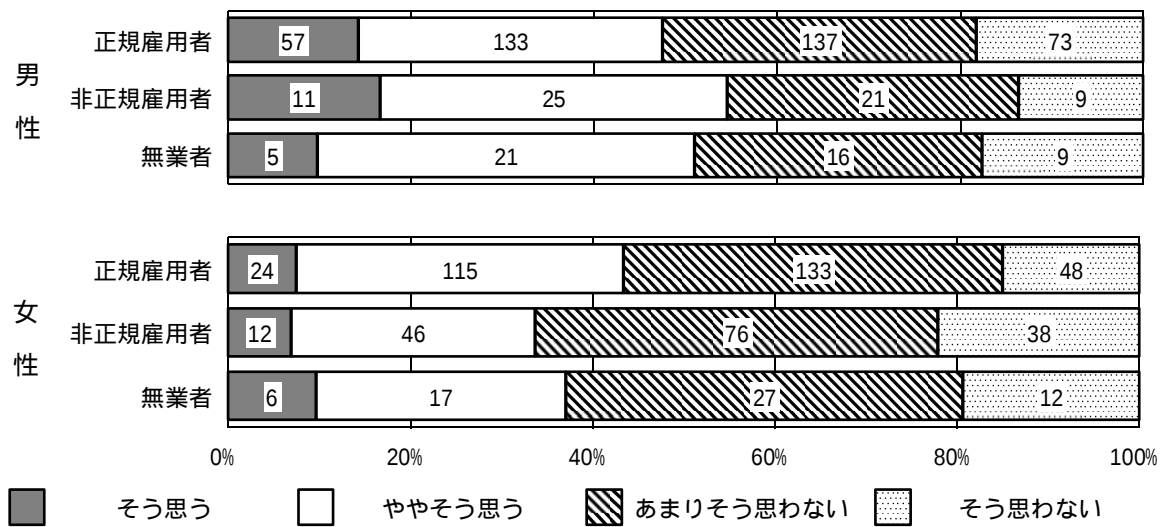
図表 5 - 1 定職にたかなくても何とか暮らしていける



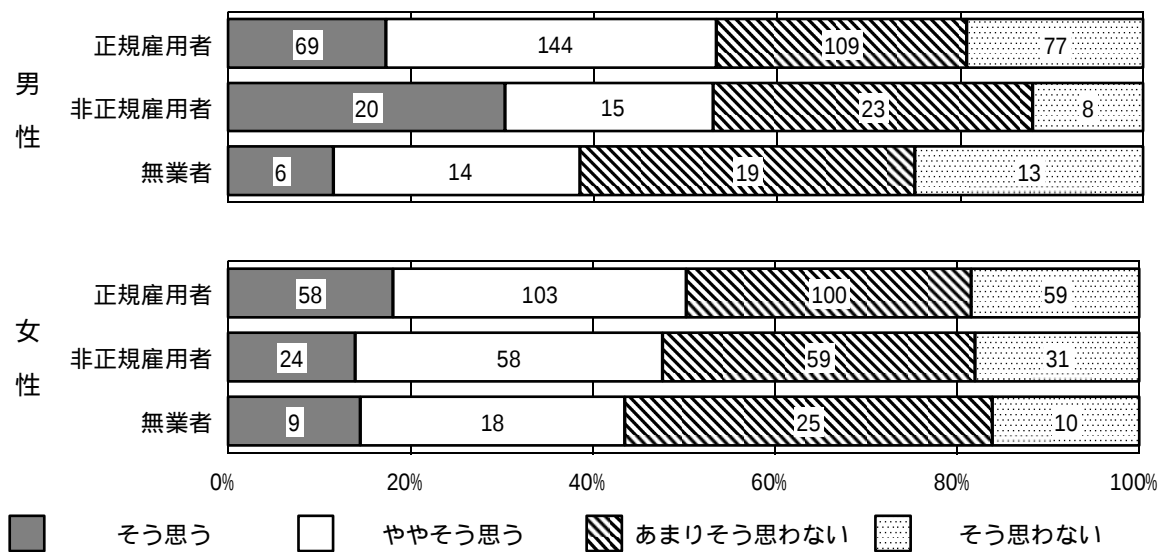
図表 5 - 2 将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい



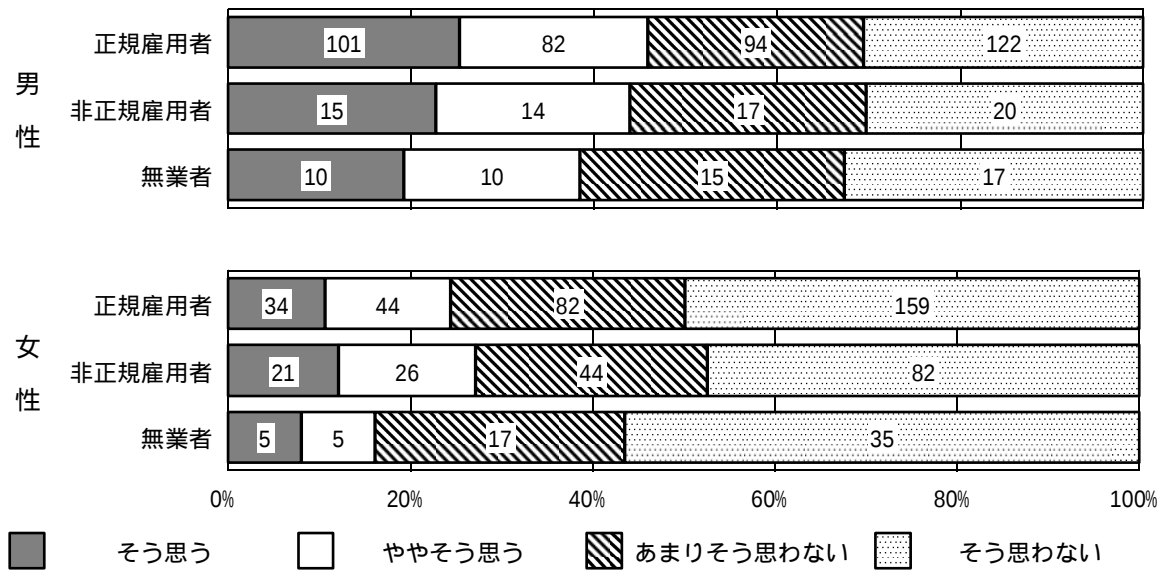
図表 5 - 3 若いうちは自分のやりたいことを優先させたい



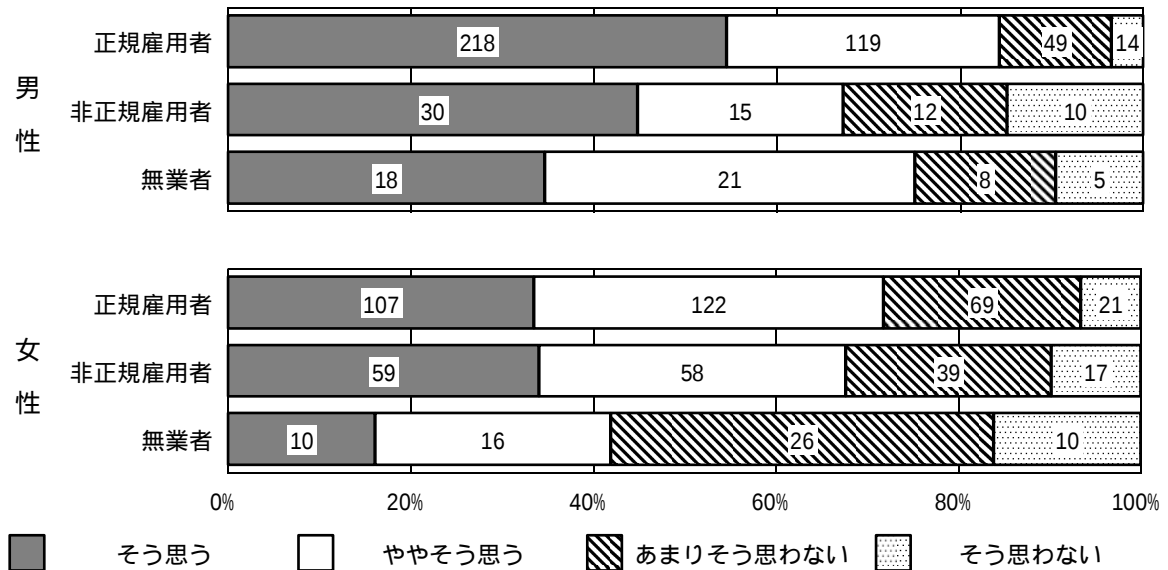
図表 5 - 4 いろいろな職業を経験したい



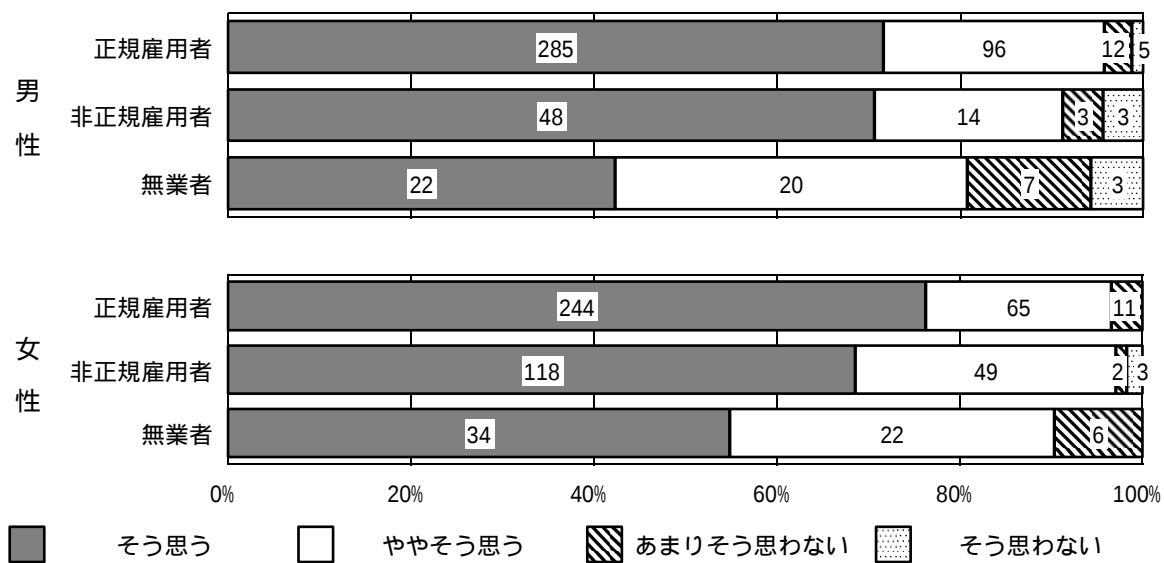
図表 5 - 5 将来、自分の店や会社を持ちたい



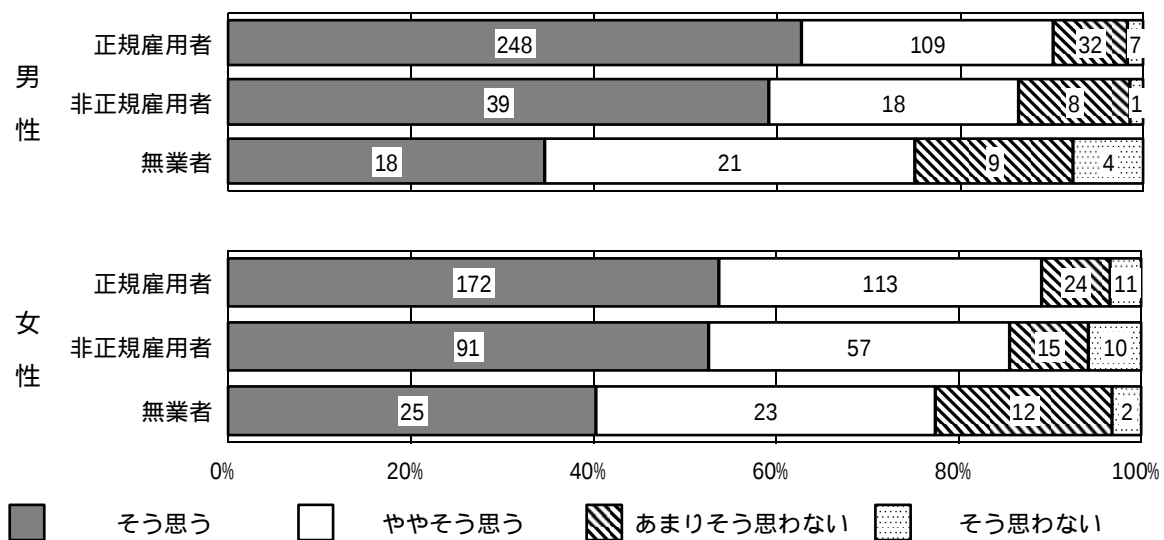
図表 5 - 6 ひとよりも高い収入を得たい



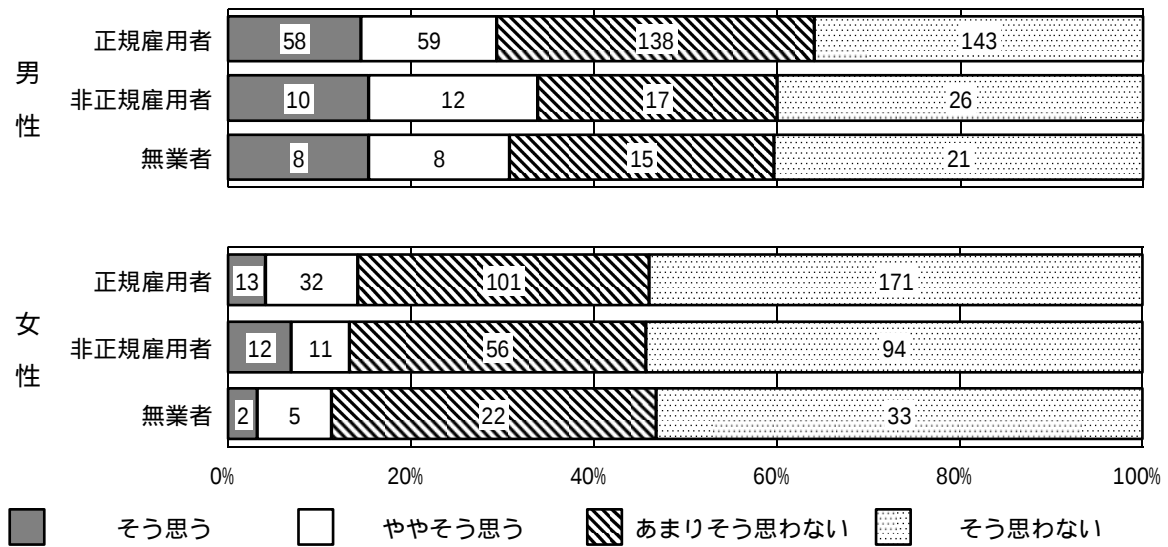
図表 5 - 7 安定した職業生活を送りたい



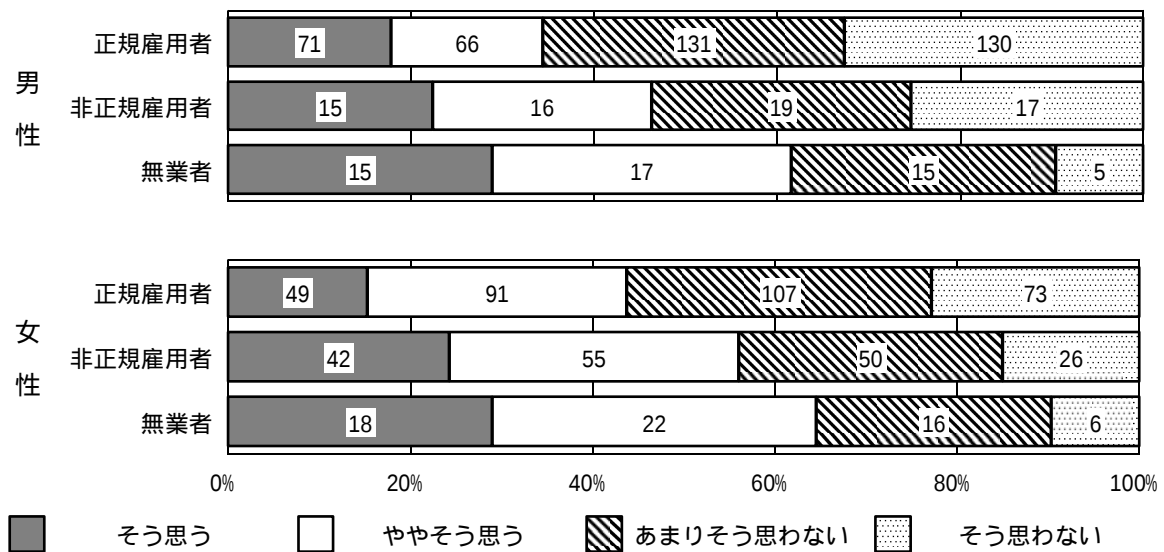
図表 5 - 8 専門的な知識や技術を磨きたい



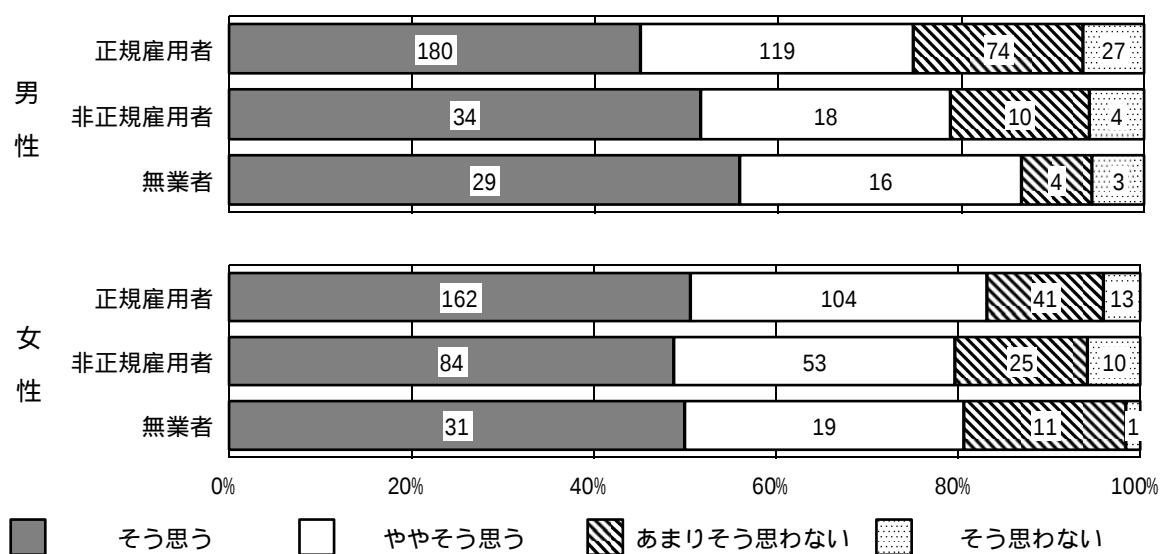
図表 5 - 9 有名になりたい



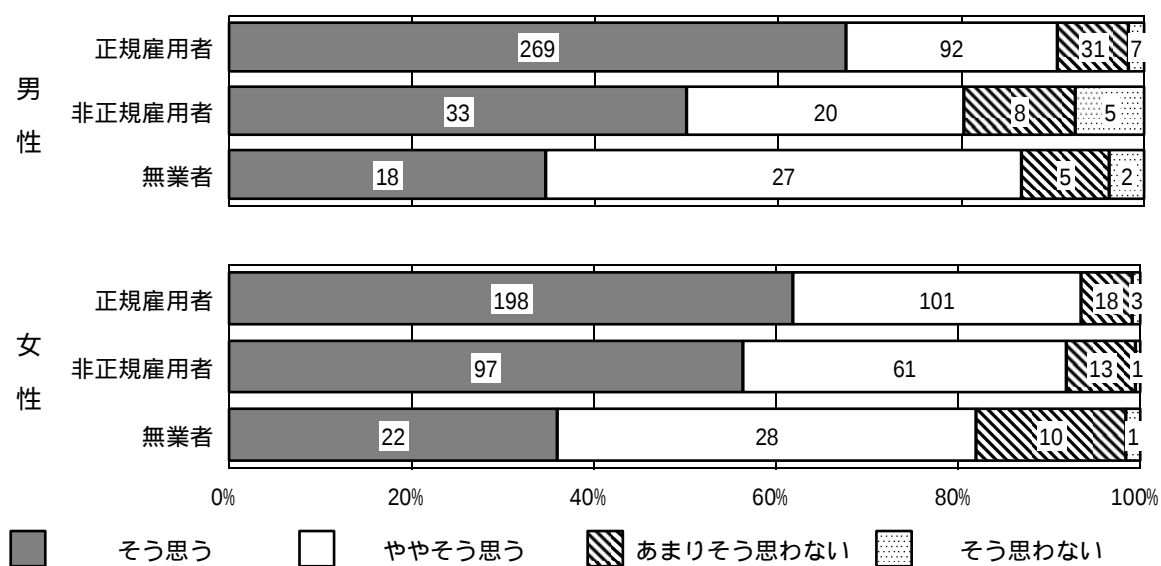
図表 5 - 10 やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらなくてよい



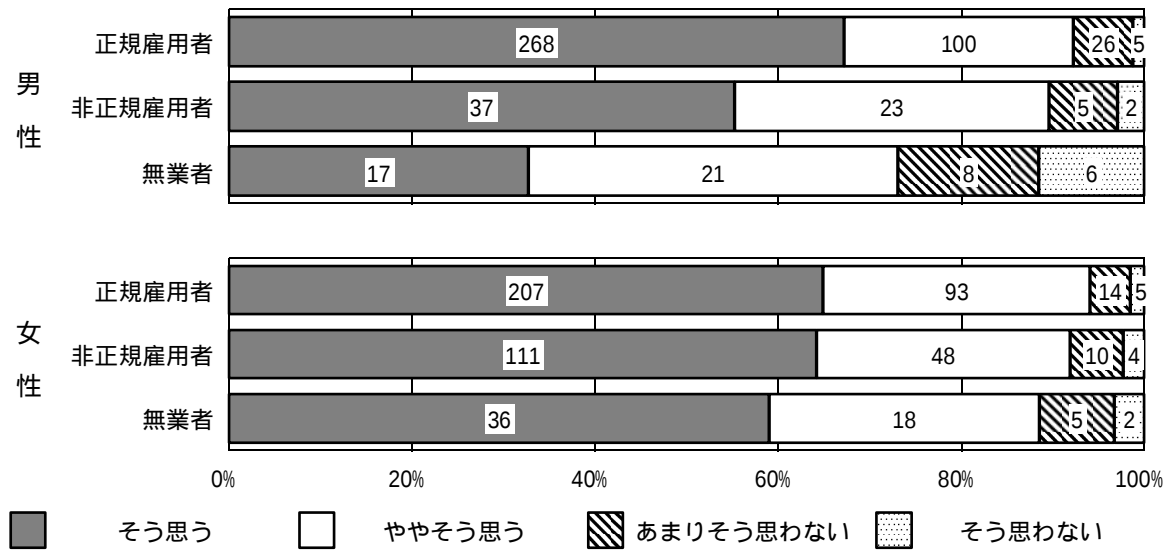
図表 5 - 11 自分に合わない仕事はしたくない



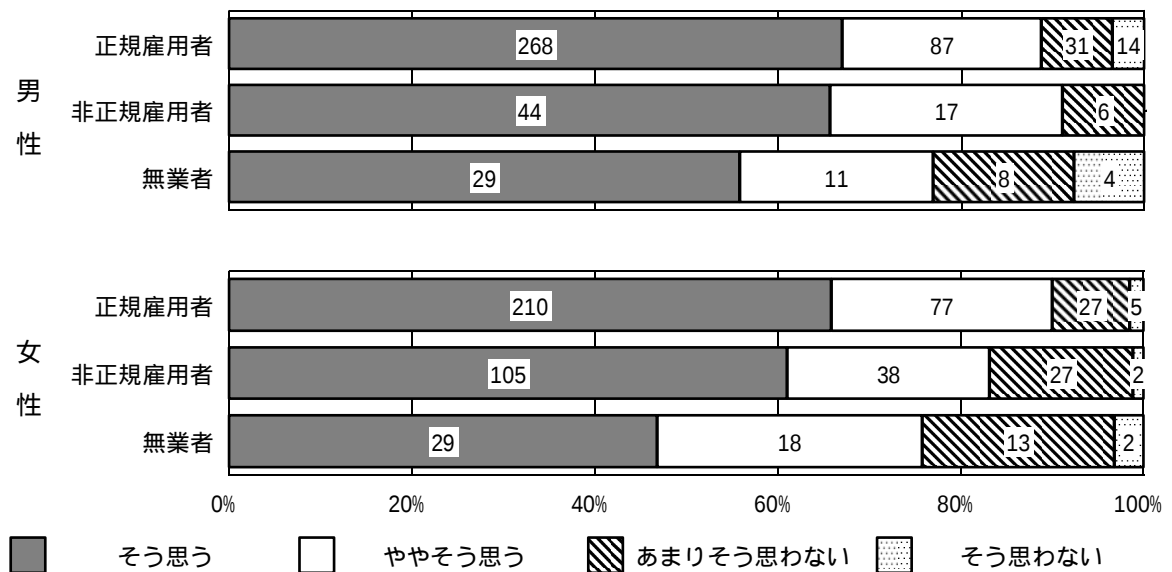
図表 5 - 12 学校を卒業したら、親から経済的に自立すべきだ



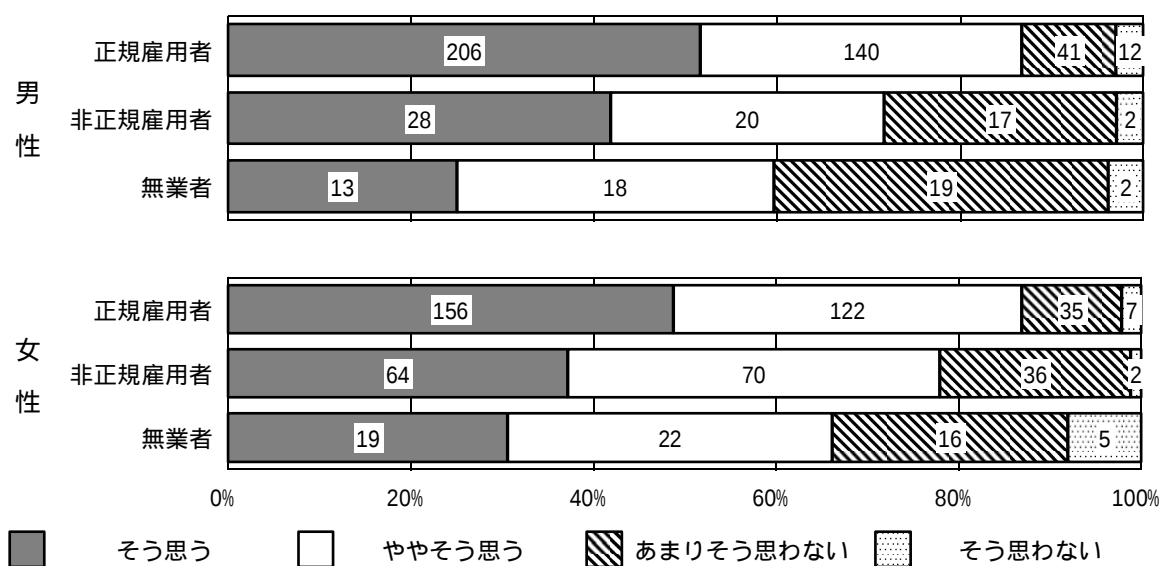
図表 5 - 13 職業生活に役立つ資格を取りたい



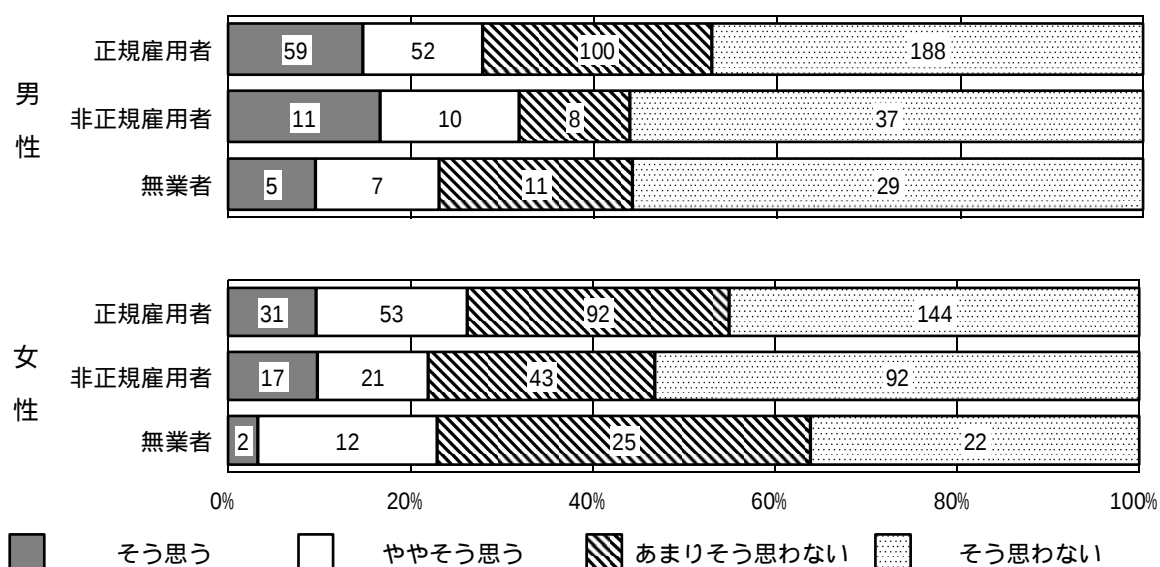
図表 5 - 14 フリーターより正社員で働いた方が得だ



図表 5 - 15 人の役に立つ仕事をしたい



図表 5 - 16 できれば仕事をしたくない



6．無業者について

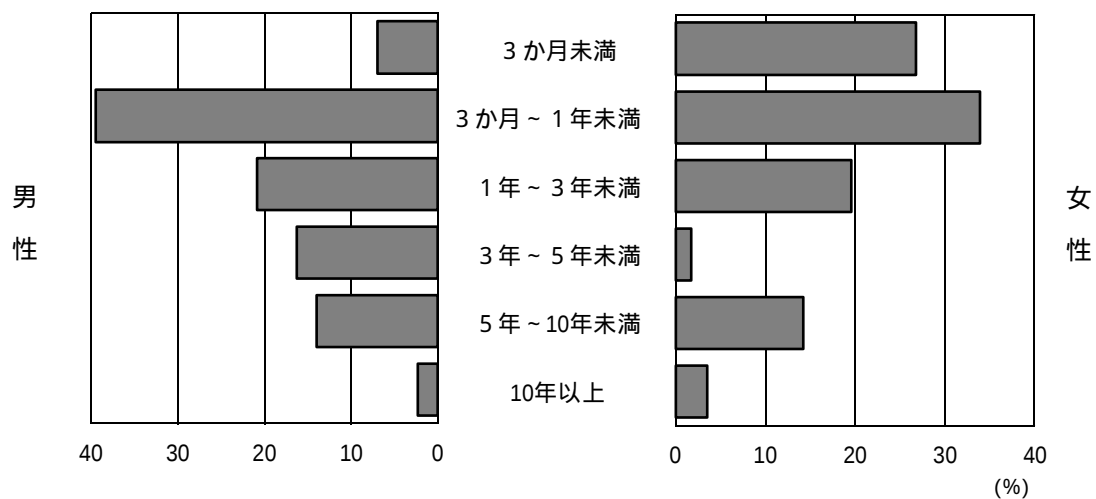
(1) 無業者の無業期間

無業期間 3 か月～ 1 年未満が最も多く、男性が39.5%、女性が33.9%である。また、無業期間が 1 年以上なのは、男性が53.5%、女性が39.3%となっている。

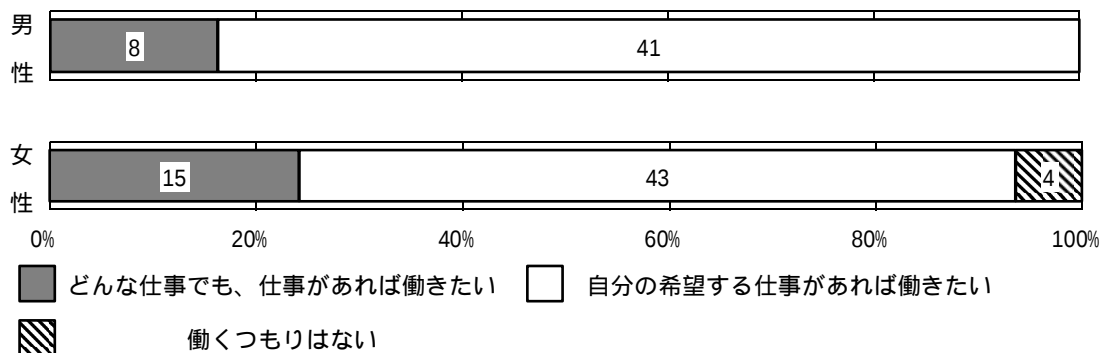
(2) 就職希望の有無

今後の仕事について、「自分の希望する仕事があれば働きたい」と考えているのは、男性が83.7%、女性が69.4%である。「どんな仕事でも、仕事があれば働きたい」は、男性が16.3%、女性が24.2%、「働くつもりはない」は女性の6.5%で、男性にはいなかった。

図表 6 - 1 無業者の無職期間



図表 6 - 2 就職希望の有無



7．仕事に関して知りたいこと

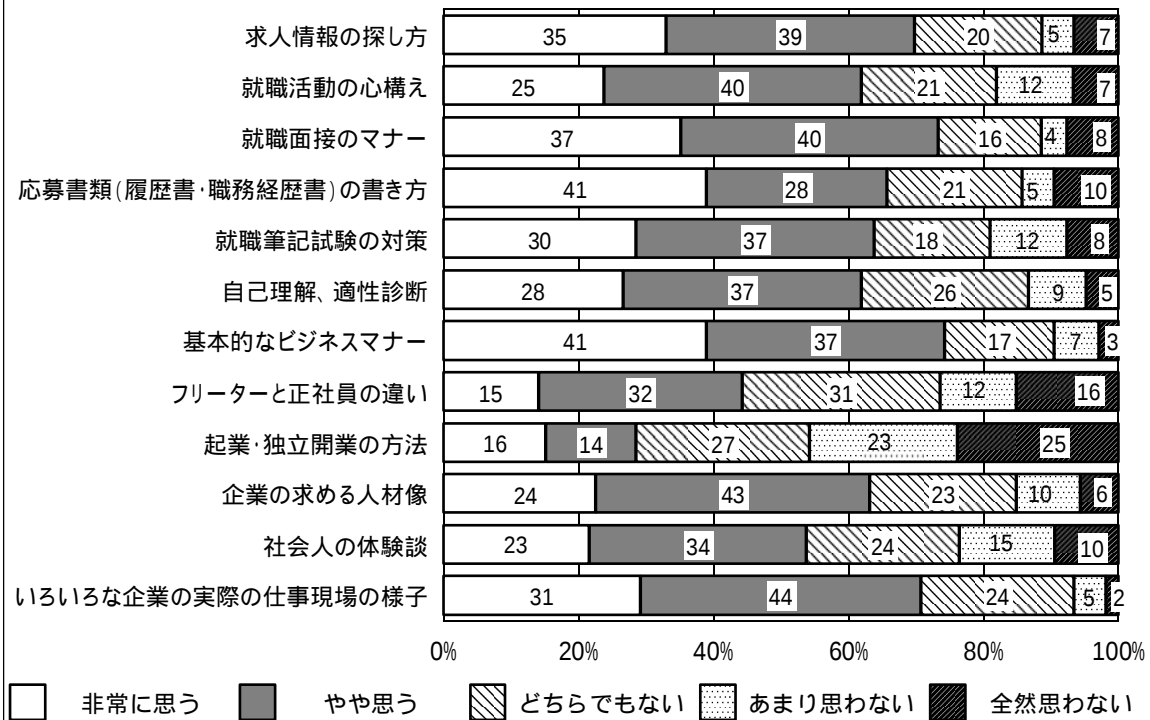
(1) 就職希望者

無業者のうち就職を希望している人が、仕事に関して知りたいと思うことは、「非常に思う」と「やや思う」を合わせると、「基本的なビジネスマナー」が74.3%、「就職面接のマナー」が73.3%、「いろいろな企業の実際の仕事現場の様子」が70.8%、「求人情報の探し方」が69.8%でそれぞれおよそ7割以上となっている。

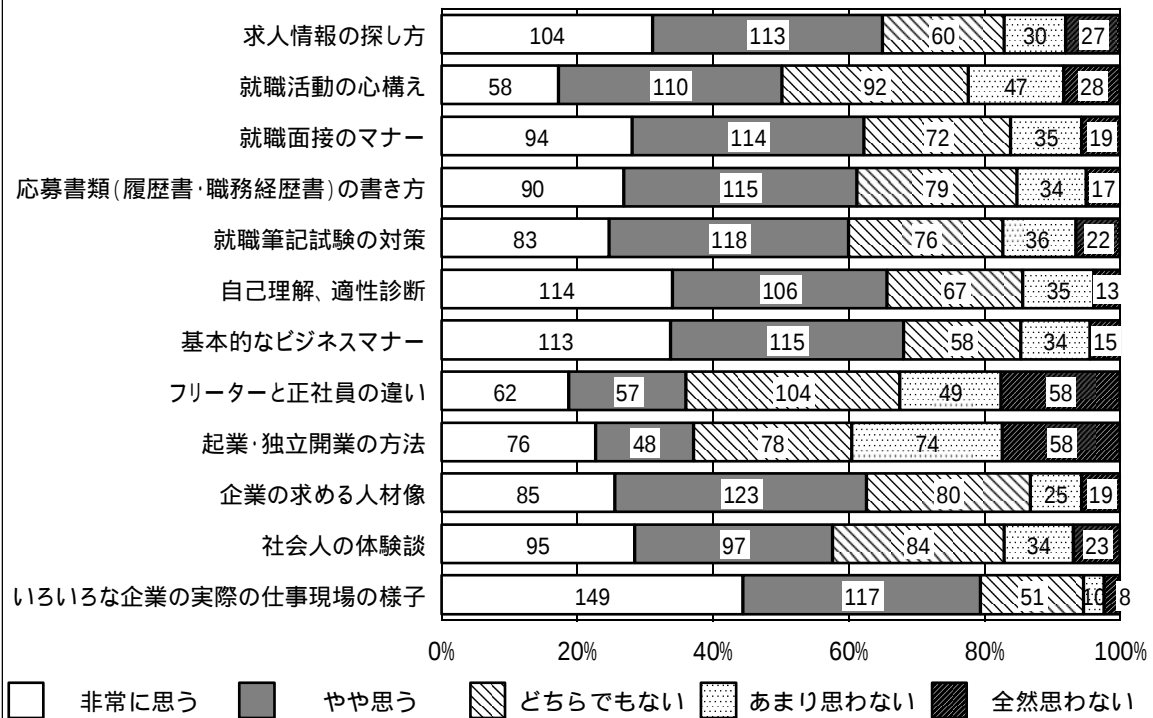
(2) 転職希望者

正規雇用者及び非正規雇用者のうち転職を希望している人が、仕事に関して知りたいと思うことは、「非常に思う」と「やや思う」を合わせると、「いろいろな企業の実際の仕事現場の様子」が79.4%で最も多く、次が「基本的なビジネスマナー」で68.1%となっている。

図表 7 - 1 仕事に関して知りたいこと（就職希望者）



図表 7 - 2 仕事に関して知りたいこと（転職希望者）



8．求職活動の方法

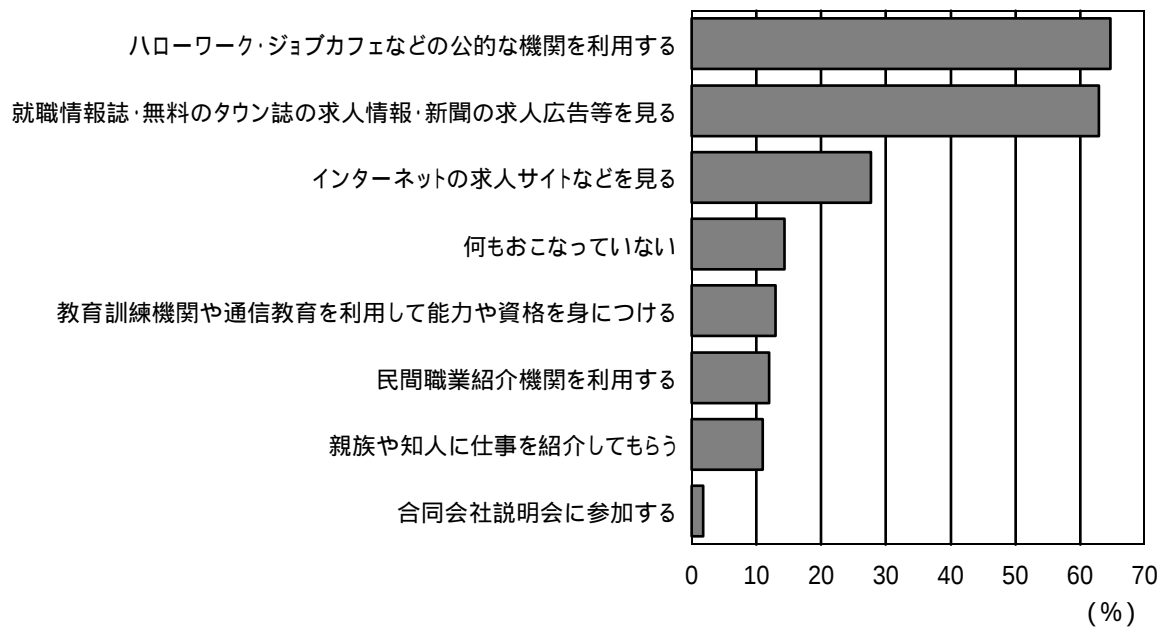
(1) 就職希望者

無業者のうち就職を希望している人が行っている求職活動の方法は、「ハローワーク・ジョブカフェなどの公的な機関を利用する」が64.8%、「就職情報誌・無料のタウン誌の求人情報・新聞の求人広告を見る」が63.0%である。一方、求職活動を「何もおこなっていない」は14.4%となっている。

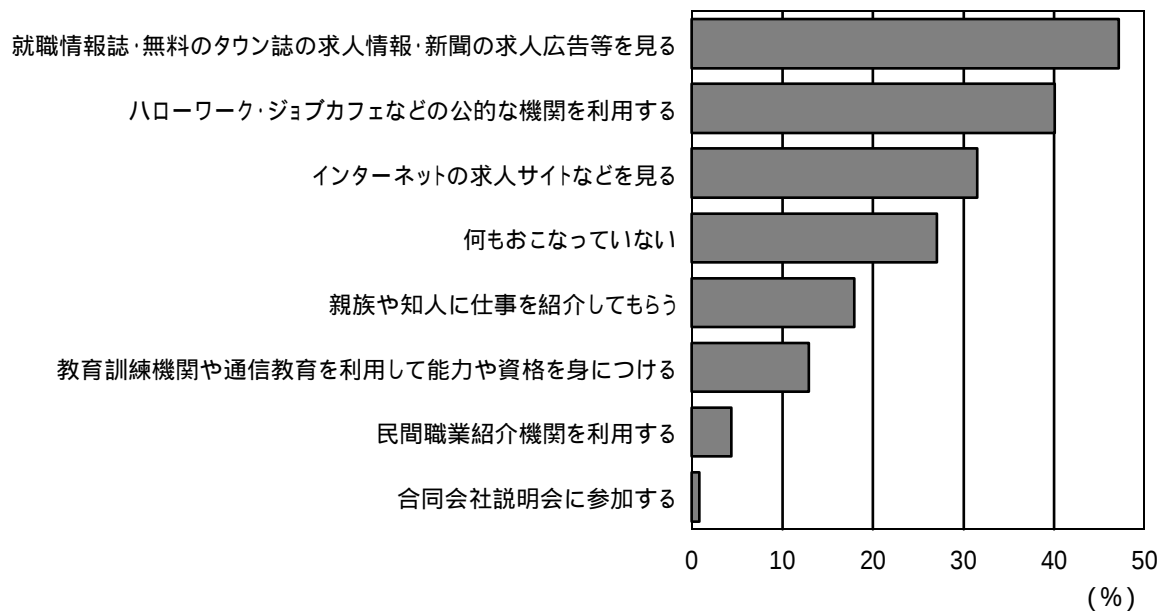
(2) 転職希望者

正規雇用者及び非正規雇用者のうち転職を希望している人が行っている求職活動の方法は、「就職情報誌・無料のタウン誌の求人情報・新聞の求人広告を見る」が47.2%、「ハローワーク・ジョブカフェなどの公的な機関を利用する」が40.1%となっている。

図表 8 - 1 求職活動の方法（就職希望者）



図表 8 - 2 求職活動の方法（転職希望者）



9．求職活動で困っていること

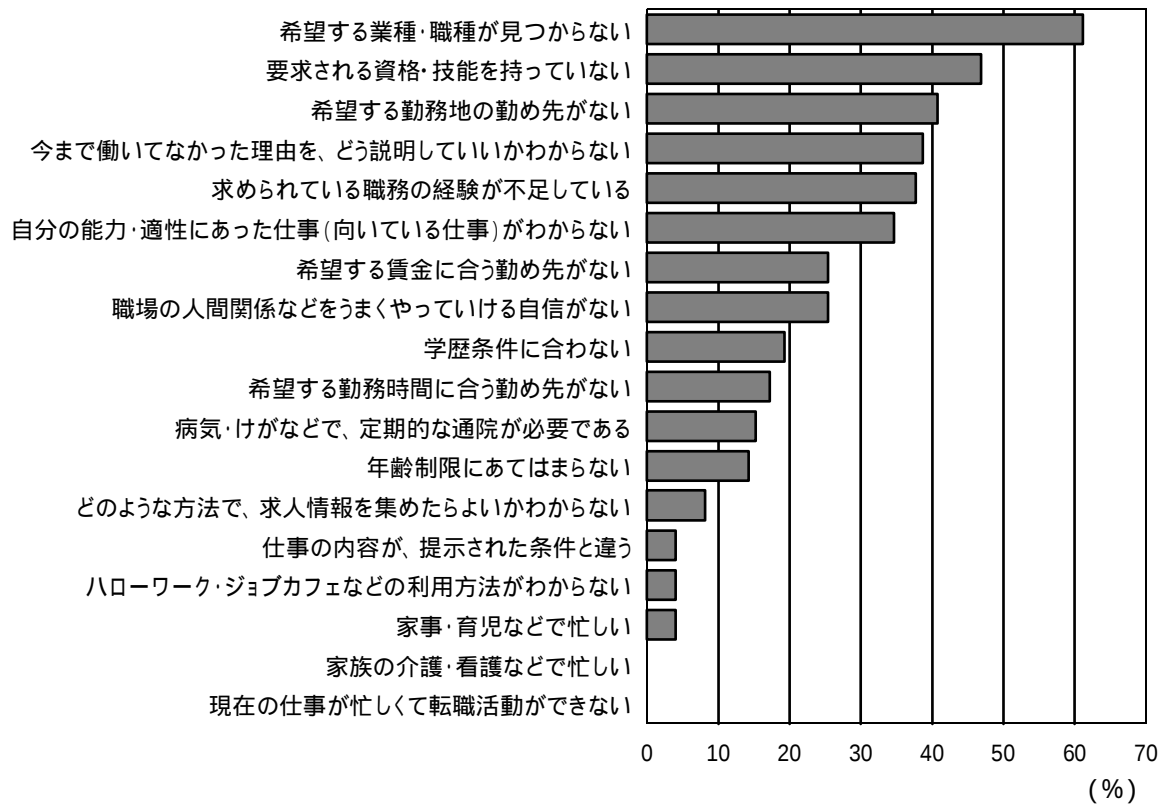
(1) 就職希望者

無業者のうち就職を希望している人が、求職活動において困難を感じていることは、「希望する業種・職種が見つからない」が61.2%、「要求される資格・技能を持っていない」が46.9%となっている。

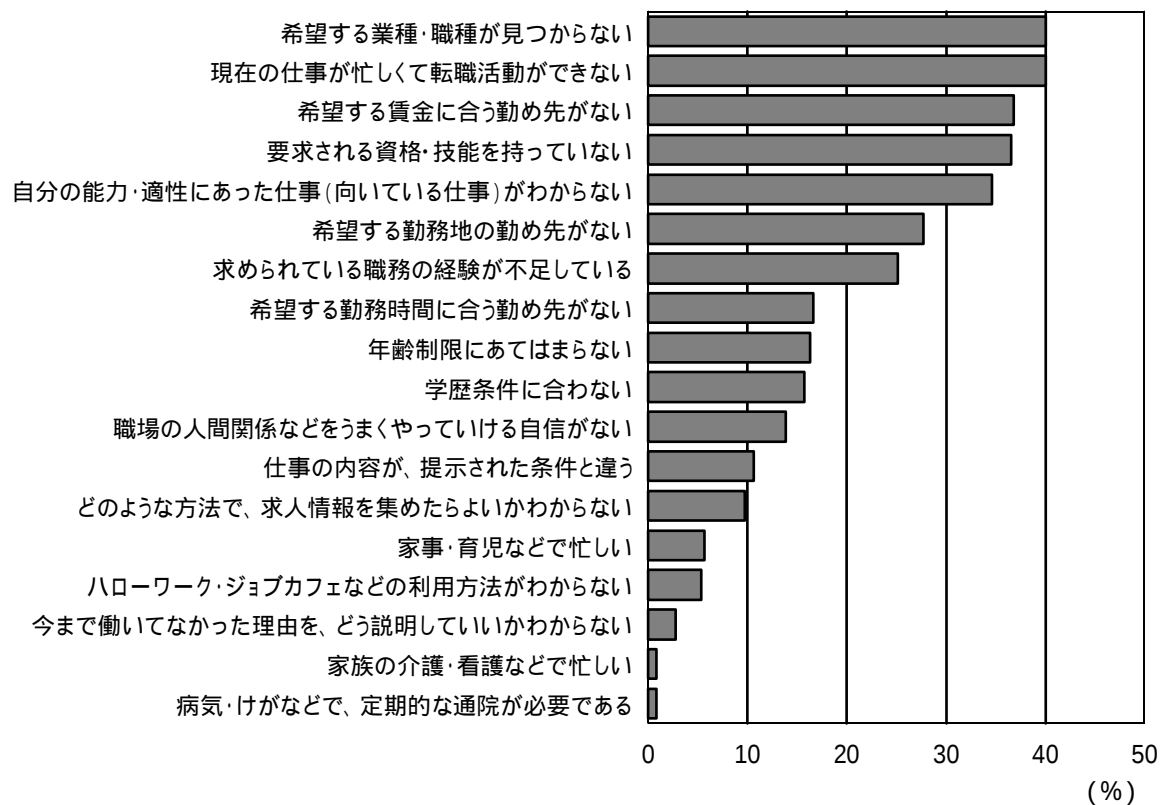
(2) 転職希望者

正規雇用者及び非正規雇用者のうち転職を希望している人が、求職活動において困難を感じていることは、「希望する業種・職種が見つからない」が40.1%、同じく「現在の仕事が忙しくて転職活動ができない」も40.1%となっている。

図表 9 - 1 求職活動で困っていること（就職希望者）

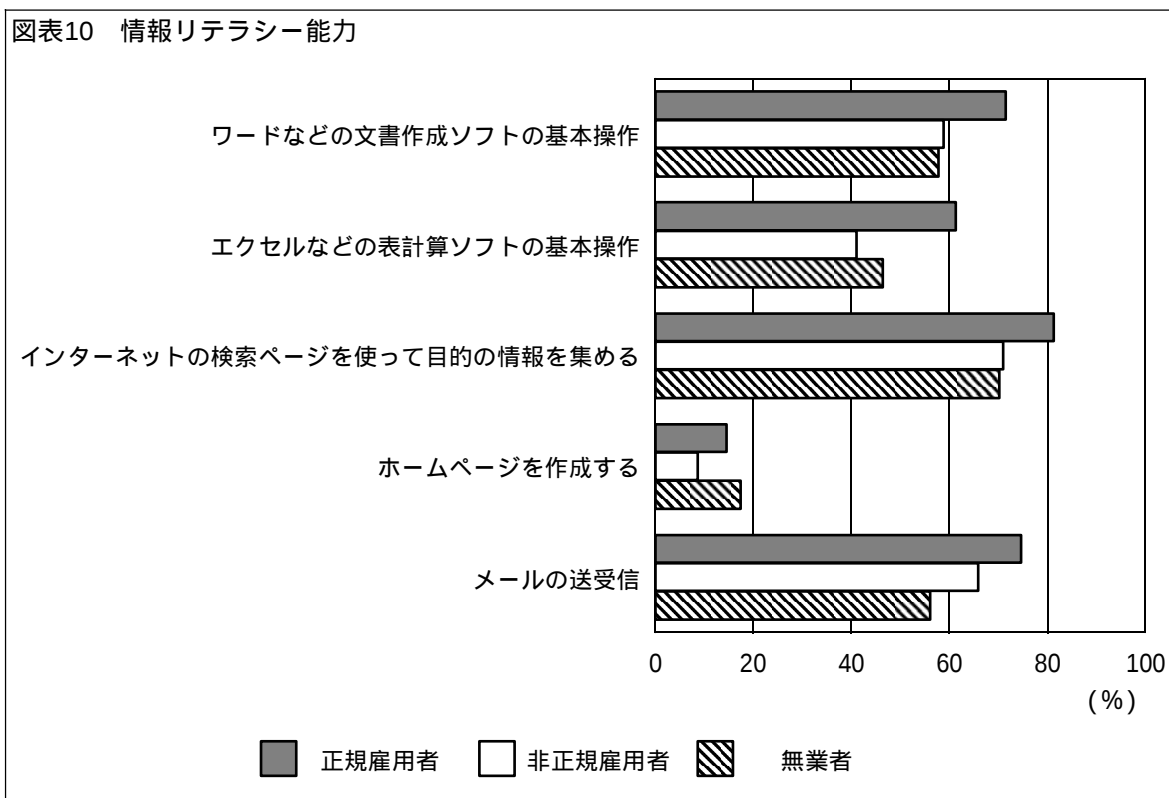


図表 9 - 2 求職活動で困っていること（転職希望者）



10．情報リテラシー能力

パソコンの基本操作に関しては、「ホームページを作成する」以外は、正規雇用の方が非正規雇用者と無業者に比べてできるという人が多い。「インターネットの検索ページを使って目的の情報を集める」は、正規雇用者が81.3%、非正規雇用者が71.0%、無業者が70.2%となっており、全体としては7割以上ができるということになる。



11. 心理的特性

(1) 他の人から尊敬される人間になりたい

男性の正規雇用者の76.6% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) , 非正規雇用者の76.5%が, 「他の人から尊敬される人間になりたい」と思っているのに対し, 無業者では44.2%となっている。

(2) 自分のよくないところを自分で考え直す

女性の正規雇用者の84.3% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) , 非正規雇用者の83.0%が, 「自分のよくないところを自分で考え直す」と思っているのに対し, 無業者では67.7%となっている。

(2) 自分の能力を最大限にのばすよう努力したい

女性の正規雇用者の87.5% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) , 非正規雇用者の90.6%が, 「自分の能力を最大限にのばすよう努力したい」と思っているのに対し, 無業者では77.0%となっている。

(3) 自分でなければやれないことをやってみたい

女性の正規雇用者の78.9% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) , 非正規雇用者の79.5%が, 「自分でなければやれないことをやってみたい」と思っているのに対し, 無業者では60.7%となっている。

(4) 欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする

男性の正規雇用者の90.2% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) が, 「欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする」と思っているのに対し, 非正規雇用者は75.0%となっており, 無業者では84.6%である。

女性の正規雇用者の91.5% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) , 非正規雇用者の91.8%が, 「欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする」と思っているのに対し, 無業者では79.0%となっている。

(5) 何をやってもだめだと思う

男性の正規雇用者の14.4%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)が、「何をやってもだめだと思う」と思っているのに対し、非正規雇用者は26.5%、無業者では38.5%となっている。

(6) 自分がやりはじめたことはやりとげたい

男性の正規雇用者の90.5%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)が、「自分がやりはじめたことはやりとげたい」と思っているのに対し、非正規雇用者は82.4%、無業者では80.8%となっている。

女性の正規雇用者の89.3%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)、非正規雇用者の85.4%が、「自分がやりはじめたことはやりとげたい」と思っているのに対し、無業者では77.4%となっている。

(7) できるだけ自分をおさえて他の人にあわせる

女性の正規雇用者の70.2%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)、非正規雇用者の77.8%が、「できるだけ自分をおさえて他の人にあわせる」と思っているのに対し、無業者では61.3%となっている。

(8) 自分のことをはずかしいと思うことがある

女性の正規雇用者の57.1%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)が、「自分のことをはずかしいと思うことがある」と思っているのに対し、非正規雇用者は65.3%、無業者では74.2%となっている。

(9) これからもよい仕事をし、人に認められたい

男性の正規雇用者の84.7%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)、非正規雇用者の83.8%が、「これからもよい仕事をし、人に認められたい」と思っているのに対し、無業者では65.4%となっている。

女性の正規雇用者の81.1%(非常にそうである・どちらかといえばそうである)、非正規雇用者の82.4%が、「これからもよい仕事をし、人に認められたい」と思っているのに対し、無業者では58.1%となっている。

(10) 腹がたってもひどいことを言ったりしない

女性の正規雇用者の83.7% (非常にそうである・どちらかといえばそうである), 非正規雇用者の88.9%が, 「腹がたってもひどいことを言ったりしない」と思っているのに対し, 無業者では66.1%となっている。

(11) 今の自分が幸福だと思う

男性の正規雇用者の65.7% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) が, 「今の自分が幸福だと思う」と思っているのに対し, 非正規雇用者は44.1%, 無業者では28.8%となっている。

女性の正規雇用者の69.8% (非常にそうである・どちらかといえばそうである), 非正規雇用者の63.7%が, 「今の自分が幸福だと思う」と思っているのに対し, 無業者では48.4%となっている。

(12) 自分のやることに自信を持っている方だと思う

男性の正規雇用者の63.4% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) が, 「自分のやることに自信を持っている方だと思う」と思っているのに対し, 非正規雇用者は58.8%, 無業者では42.3%となっている。

女性の正規雇用者の50.3% (非常にそうである・どちらかといえばそうである), 非正規雇用者の46.5%が, 「自分のやることに自信を持っている方だと思う」と思っているのに対し, 無業者では21.0%となっている。

(13) 生まれ変わるとしたなら今の自分に生まれたい

男性の正規雇用者の46.1% (非常にそうである・どちらかといえばそうである) が, 「生まれ変わるとしたなら今の自分に生まれたい」と思っているのに対し, 非正規雇用者は30.9%, 無業者では25.5%となっている。

(14) ぼんやりと過ごしてしまうことが多い

男性の正規雇用者の40.4%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）、非正規雇用者の41.2%が、「ぼんやりと過ごしてしまうことが多い」と思っているのに対し、無業者では59.6%となっている。

女性の正規雇用者の45.1%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）、非正規雇用者の41.2%が、「ぼんやりと過ごしてしまうことが多い」と思っているのに対し、無業者では61.3%となっている。

(15) ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる

男性の正規雇用者の45.4%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）が、「ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる」と思っているのに対し、非正規雇用者は54.4%，無業者では61.5%となっている。

(16) 今の自分に満足している

男性の正規雇用者の37.3%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）が、「今の自分に満足している」と思っているのに対し、非正規雇用者は14.7%，無業者では13.5%となっている。

女性の正規雇用者の35.4%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）が、「今の自分に満足している」と思っているのに対し、非正規雇用者は20.5%，無業者では16.1%となっている。

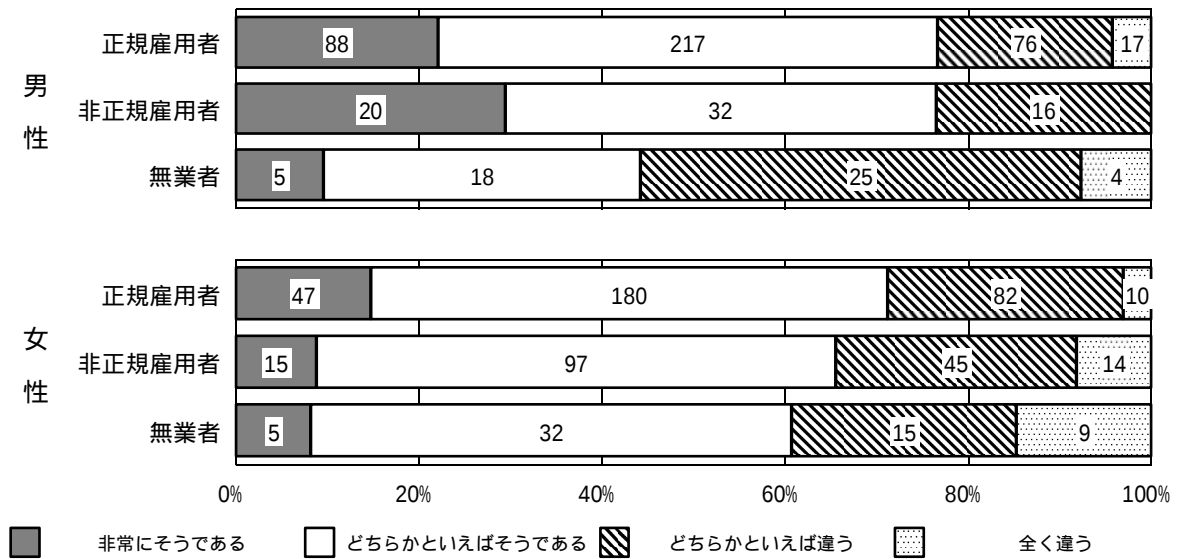
(17) いやになった時でもがんばってみようとする

男性の正規雇用者の88.5%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）が、「いやになった時でもがんばってみようとする」と思っているのに対し、非正規雇用者は79.4%，無業者では69.2%となっている。

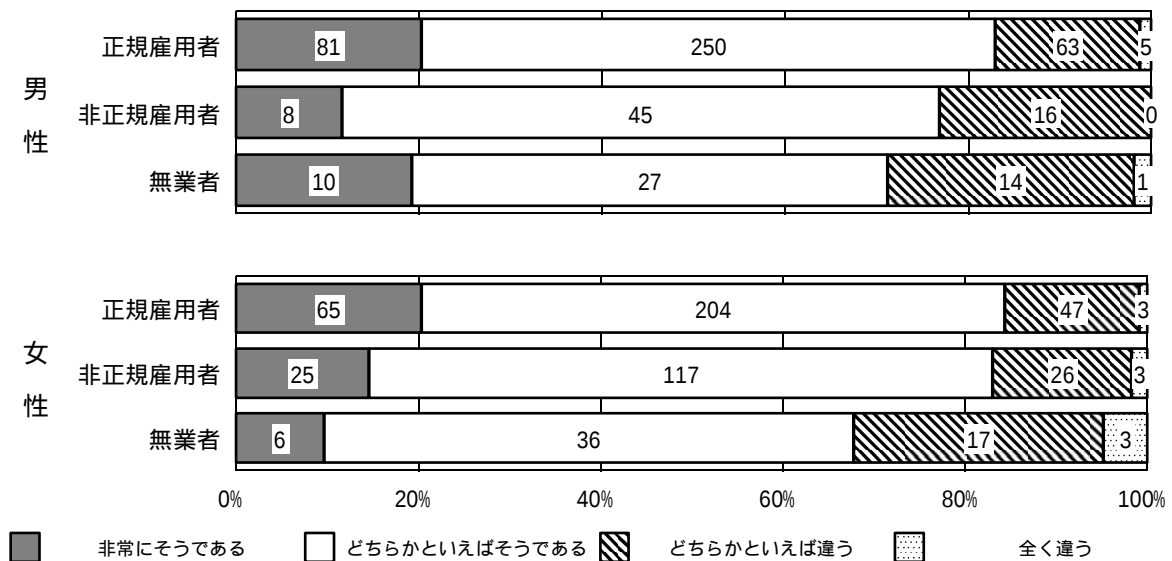
(18) 自分にもいろいろ長所があると思う

男性の正規雇用者の86.0%（非常にそうである・どちらかといえばそうである）、非正規雇用者の86.8%が、「自分にもいろいろ長所があると思う」と思っているのに対し、無業者では74.5%となっている。

図表11 - 1 他の人から尊敬される人間になりたい

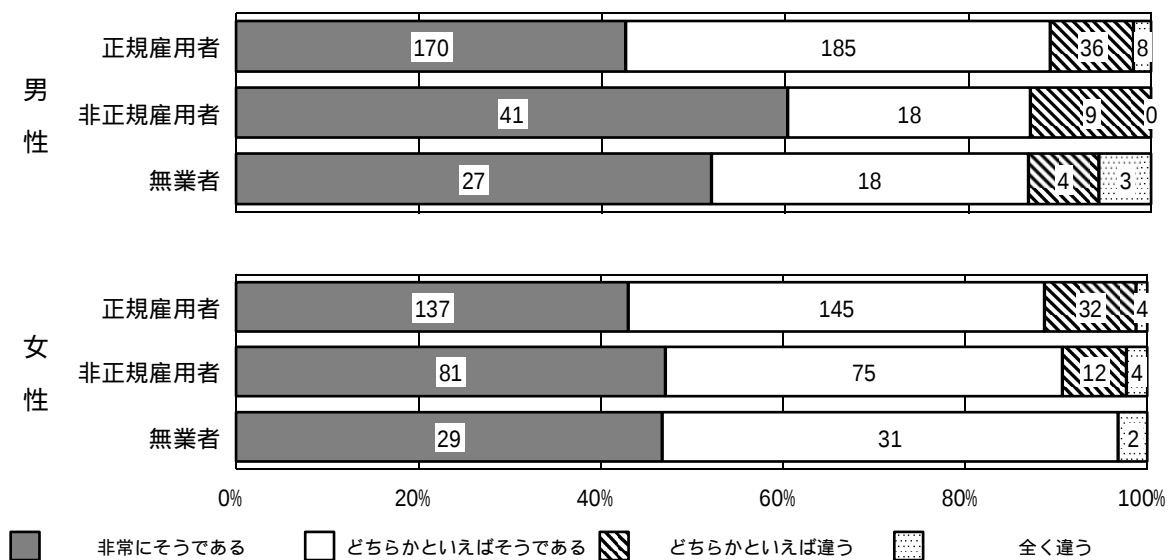


図表11 - 2 自分のよくないところを自分で考え直す

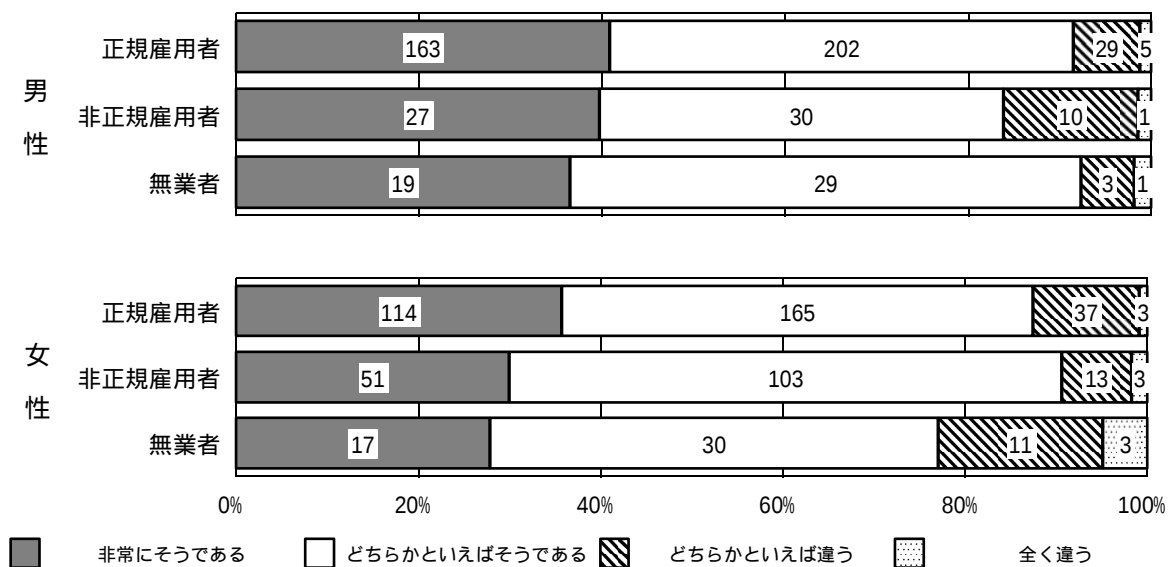


第 章 調査の結果

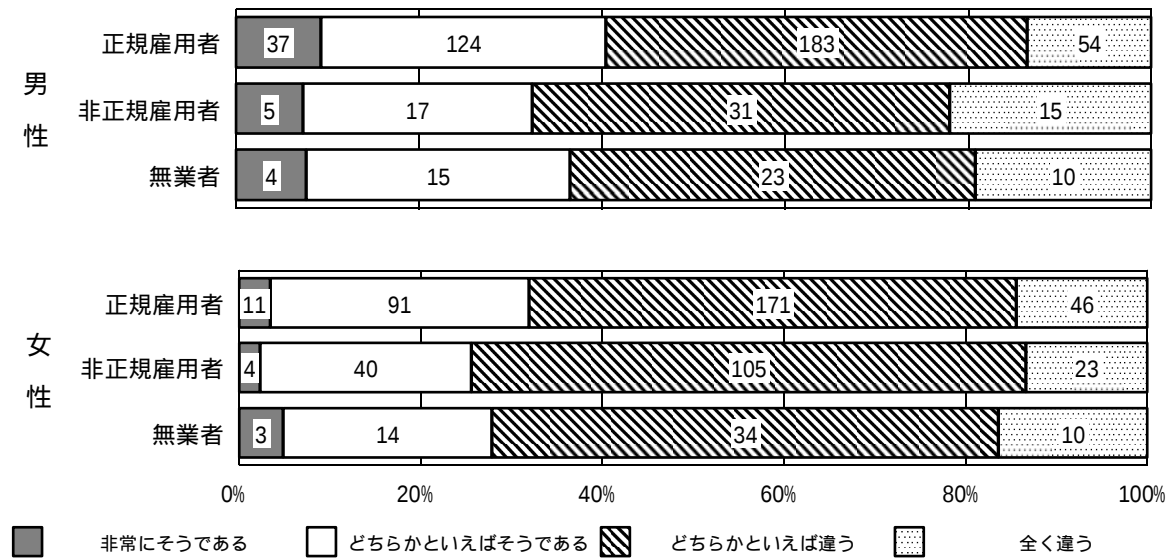
図表11 - 3 今のままの自分ではいけない、と思うことがある



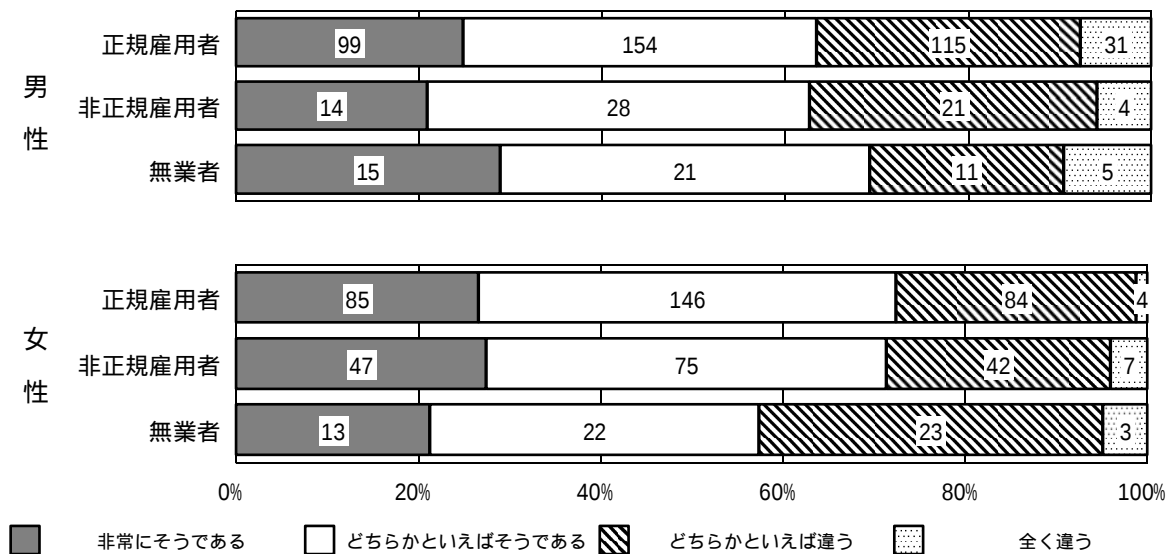
図表11 - 4 自分の能力を最大限にのばすよう努力したい



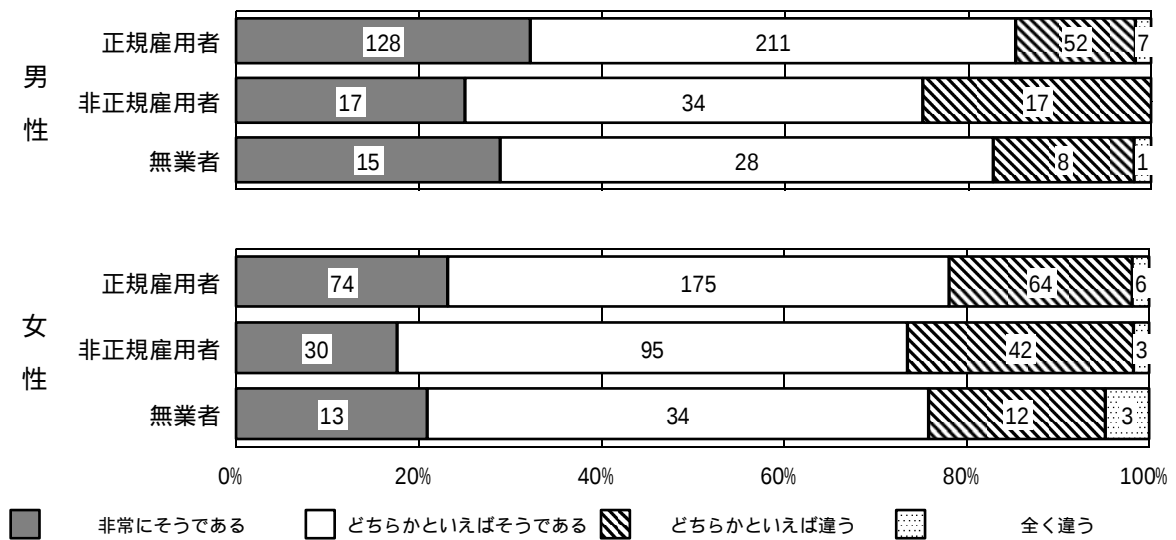
図表11 - 5 自分の考えや行動が批判されても腹を立てない



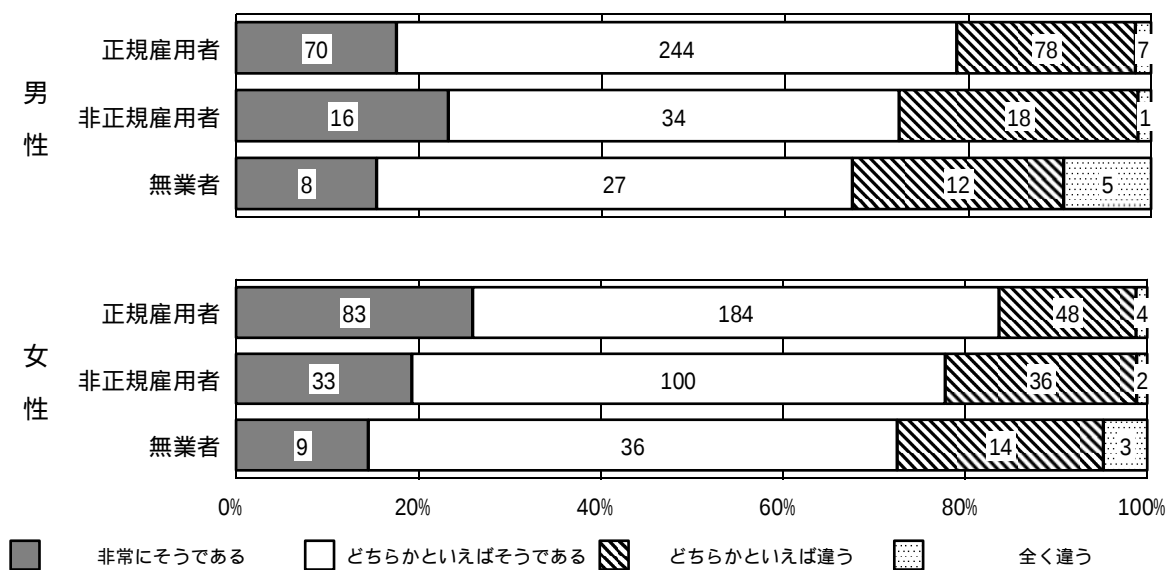
図表11 - 6 他の人にばかにされるのは、がまんできない



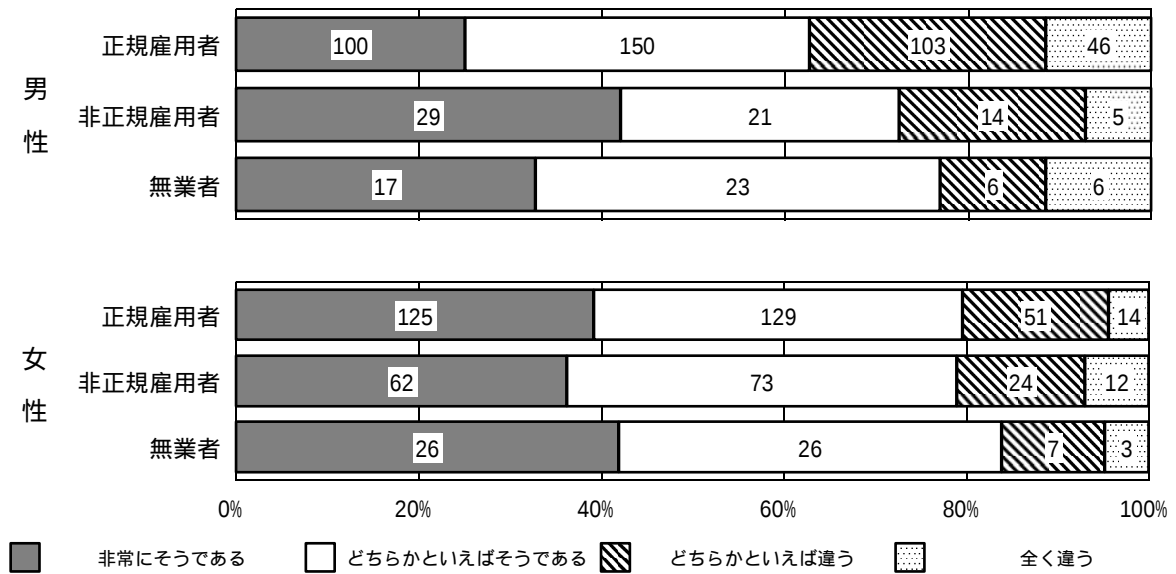
図表11 - 7 たとえ認められなくても自分の目標に向かう



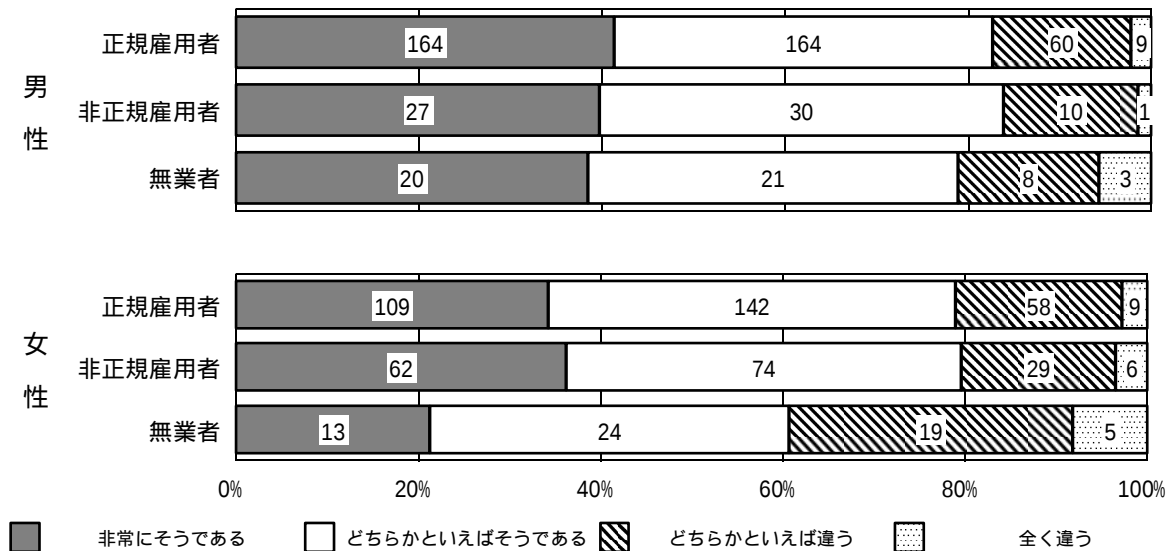
図表11 - 8 自分の良いところと悪いところがわかっている



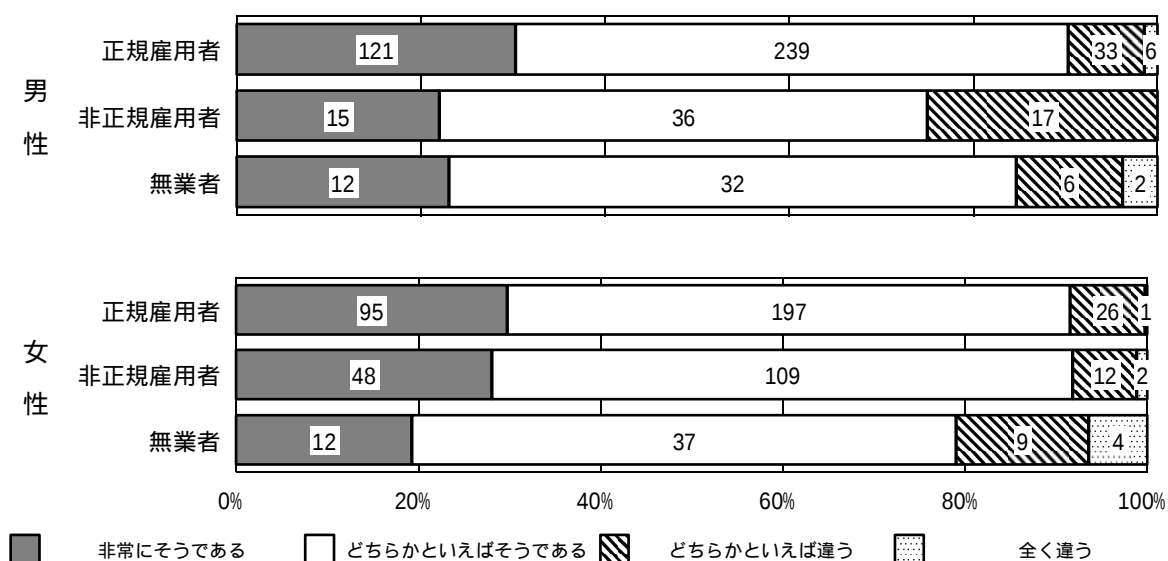
図表11 - 9 ときどき、自分自身がいやになる



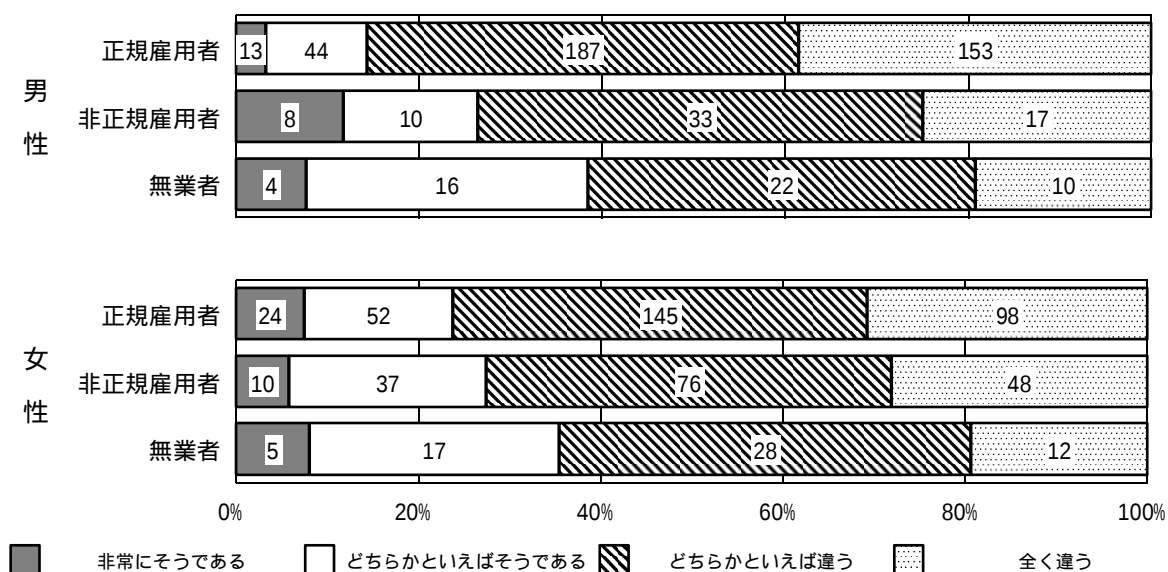
図表11 - 10 自分でなければやれないことをやってみたい



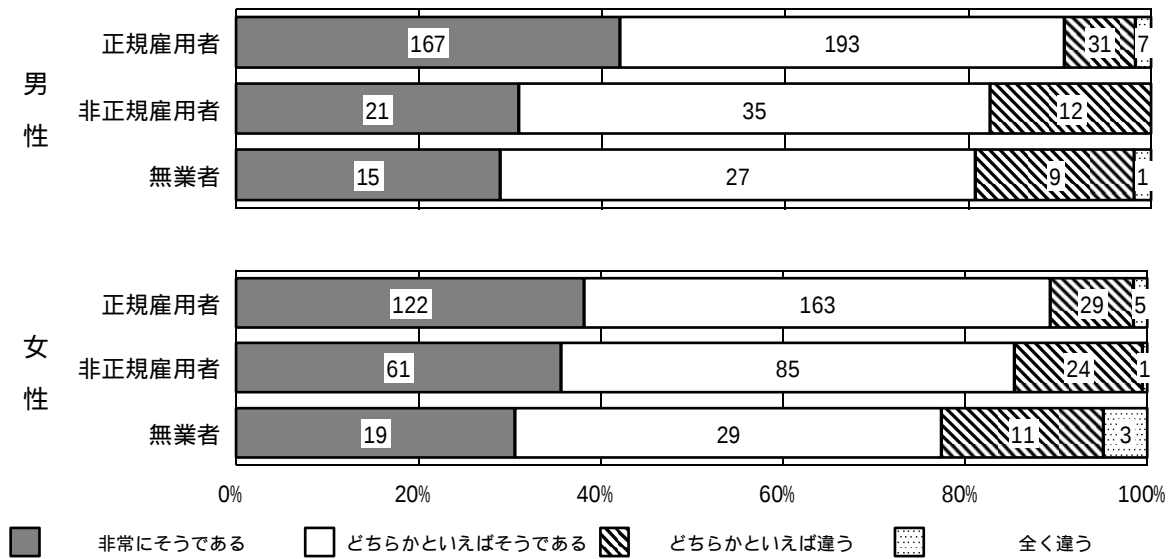
図表11 - 11 欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする



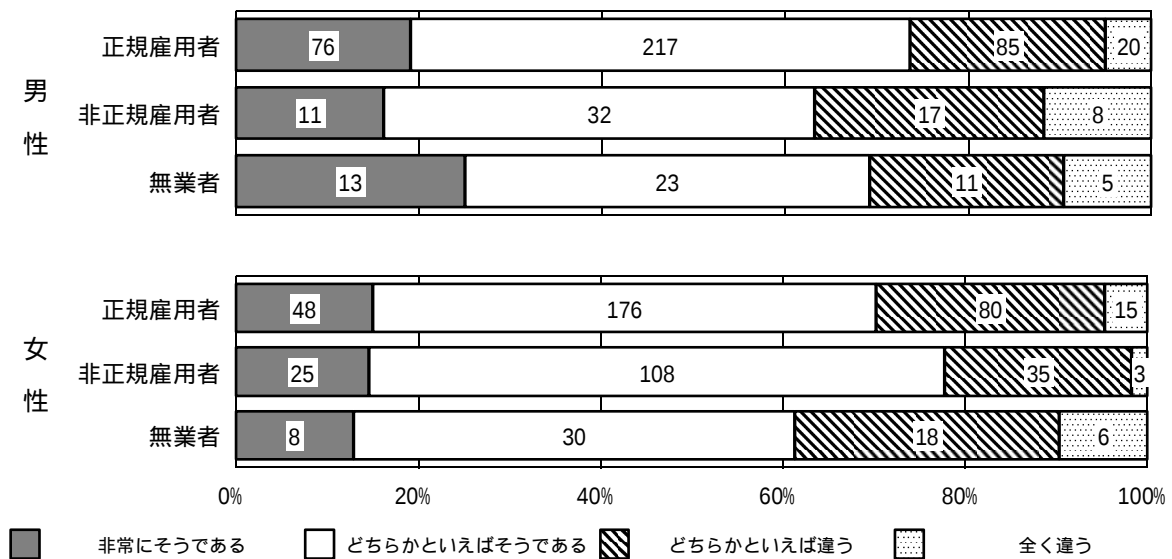
図表11 - 12 何をやってもだめだと思う



図表11 - 13 自分がやりはじめたことはやりとげたい

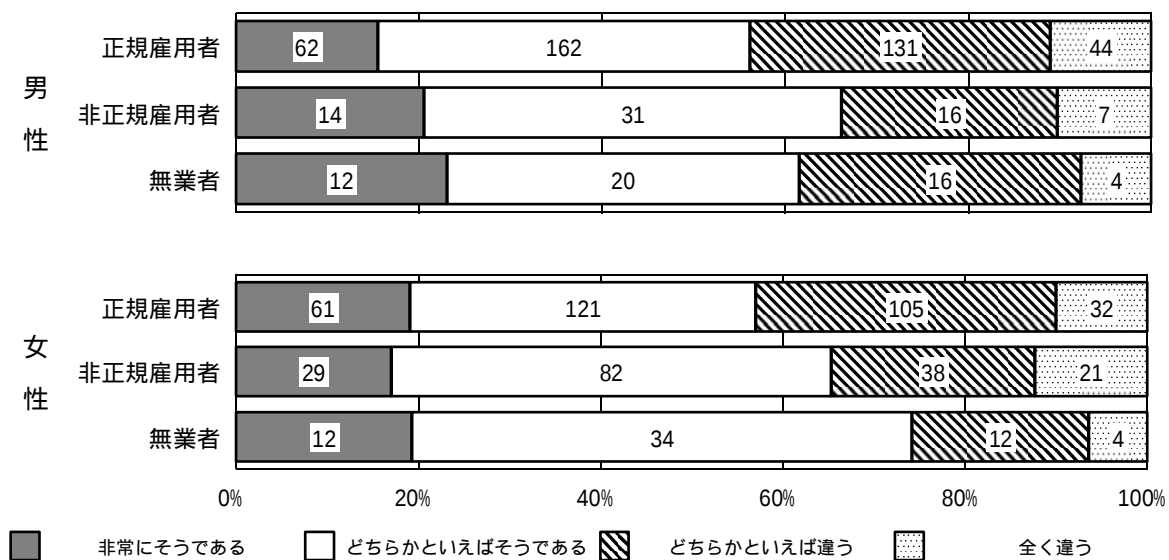


図表11 - 14 できるだけ自分をおさえて他の人にあわせる

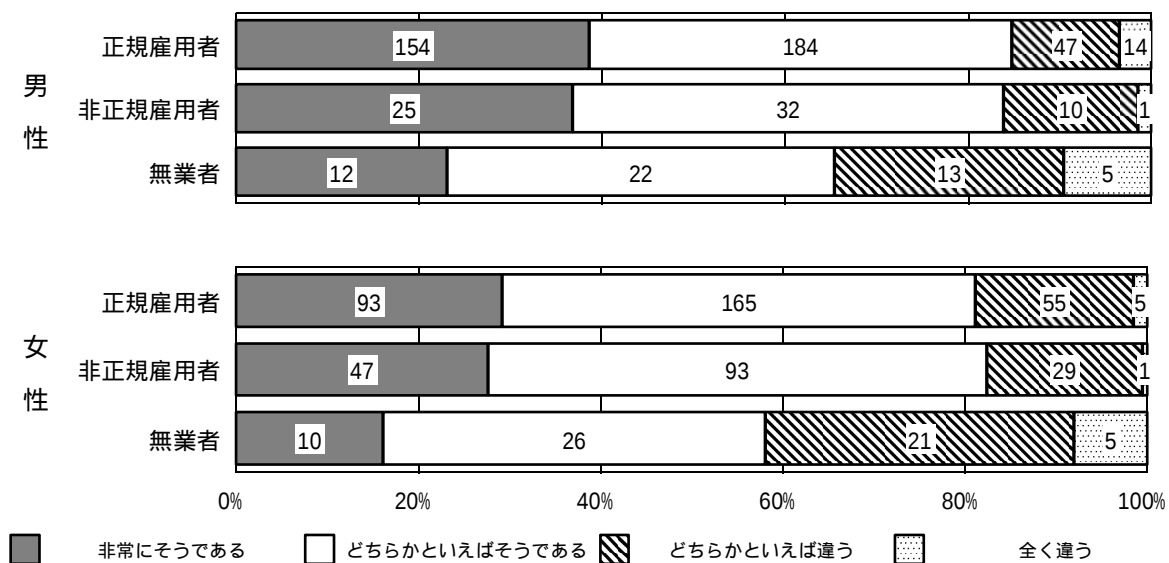


第 章 調査の結果

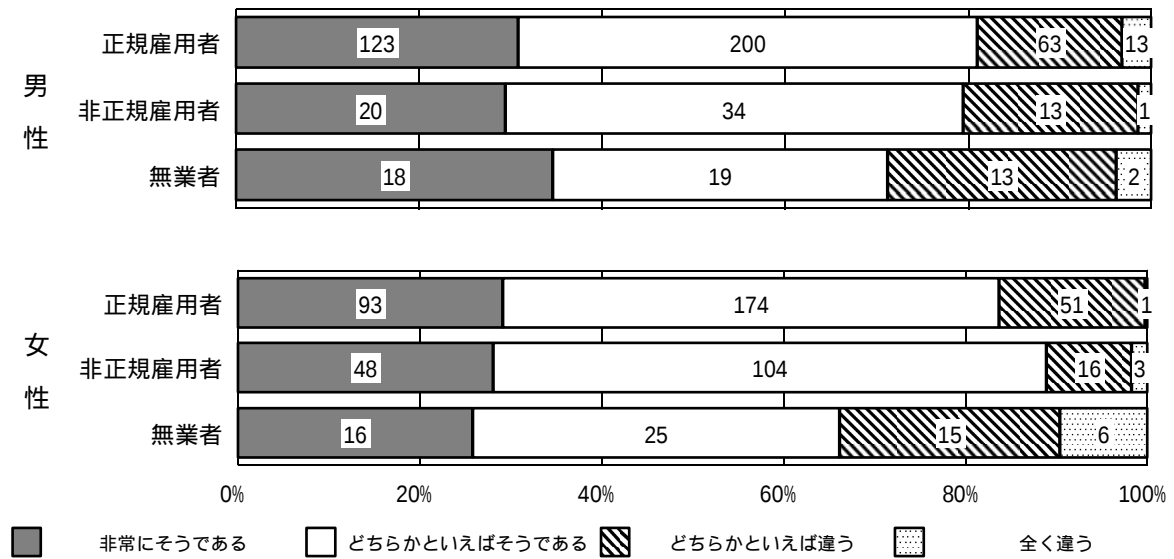
図表11 - 15 自分のことをはずかしいと思うことがある



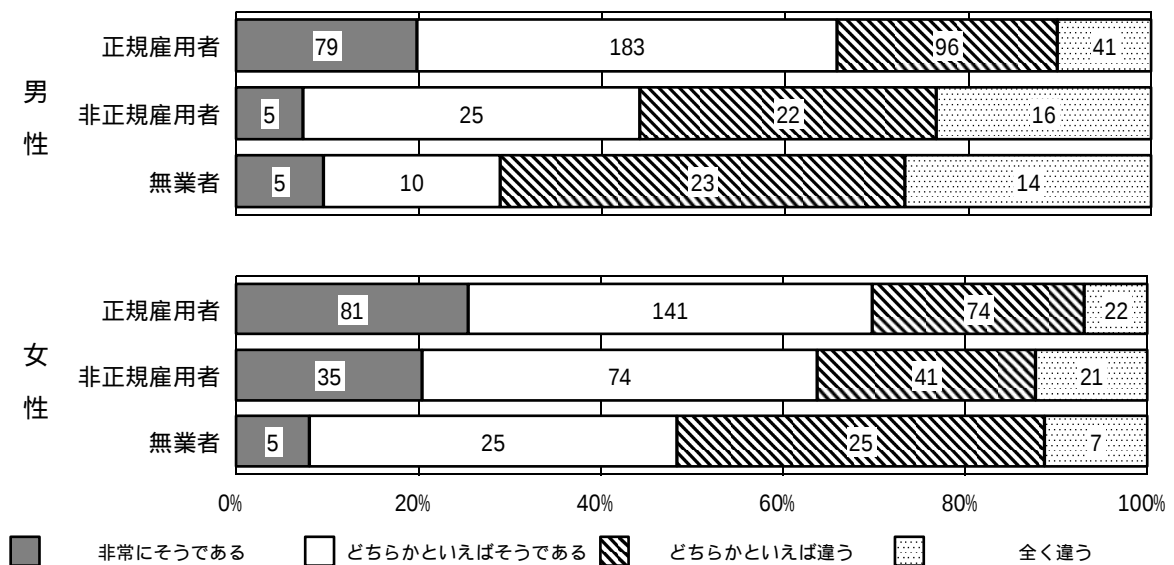
図表11 - 16 これからもよい仕事をし人に認められたい



図表11 - 17 腹がたってもひどいことを言ったりしない

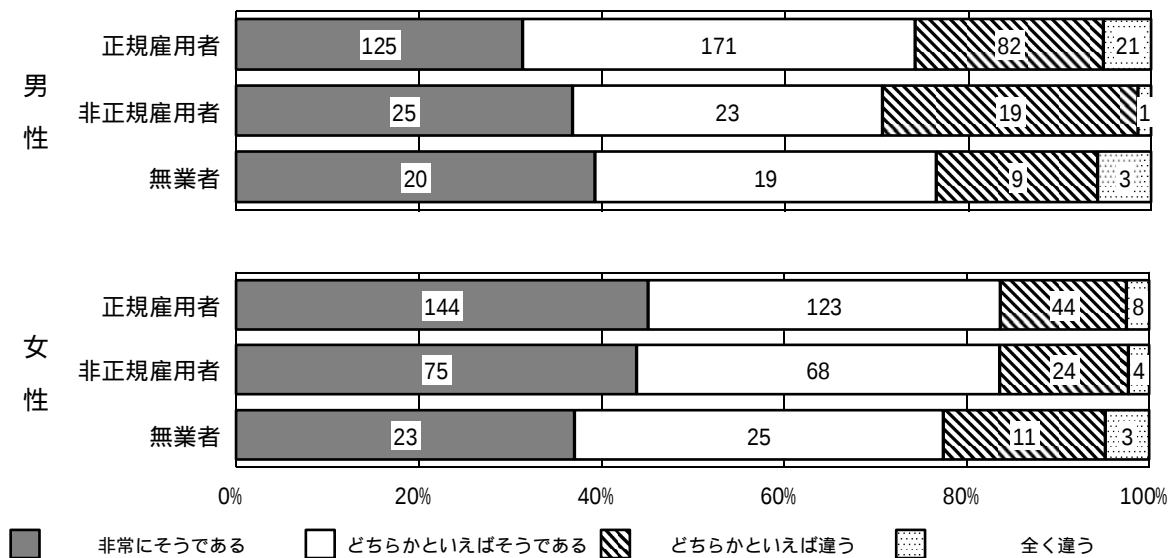


図表11 - 18 今の自分が幸福だと思う

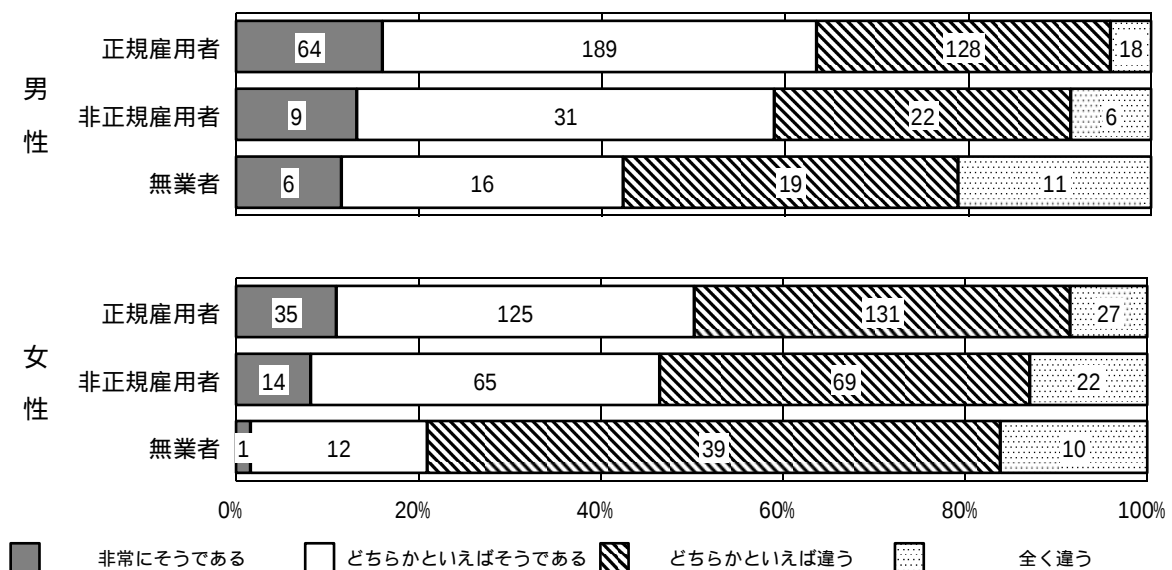


第 章 調査の結果

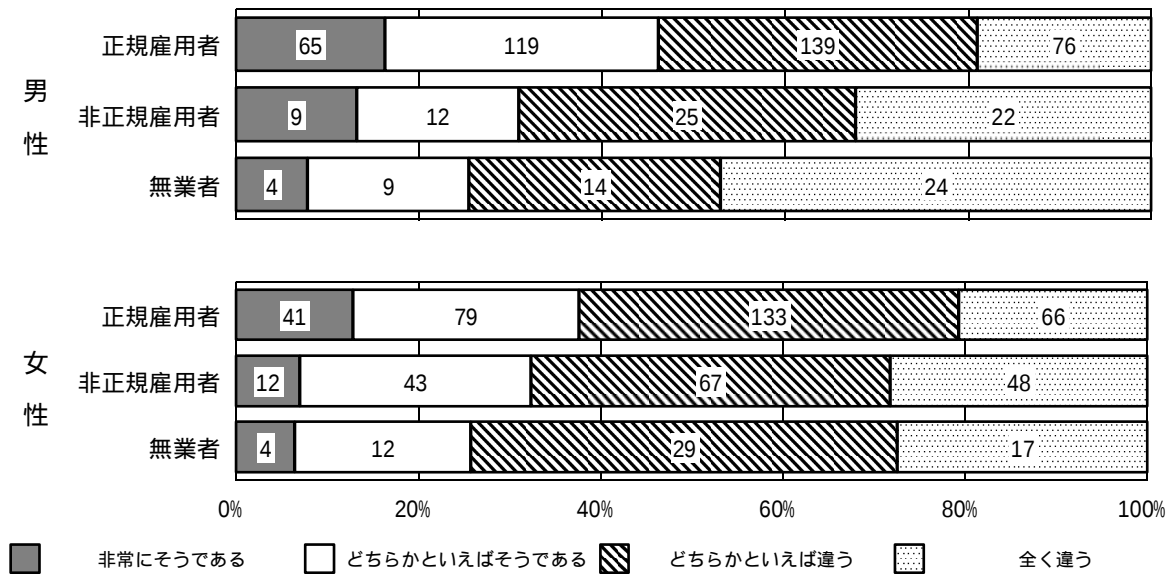
図表11 - 19 疲れているときには、何もしたくないことが多い



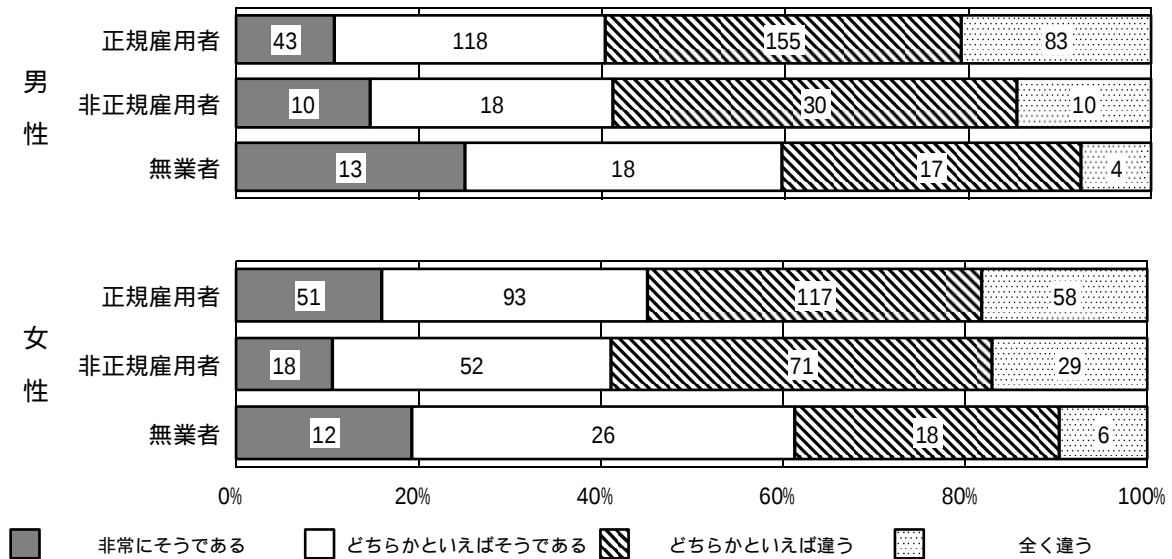
図表11 - 20 自分のやることに自信を持っている方だと思う



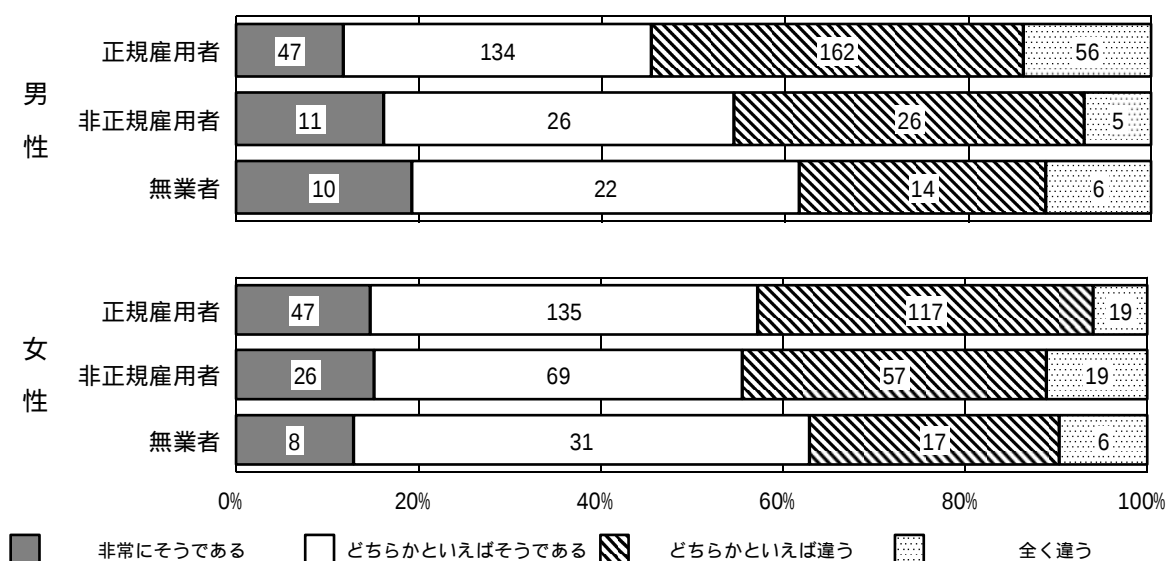
図表11 - 21 生まれ変わるとしたなら今の自分に生まれたい



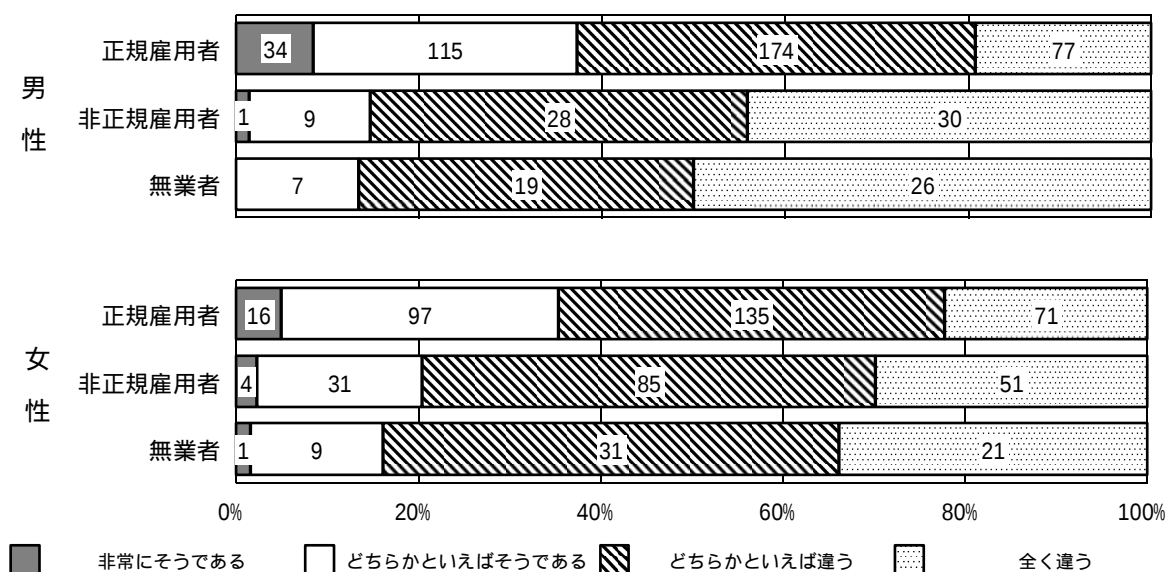
図表11 - 22 ぼんやりと過ごしてしまうことが多い



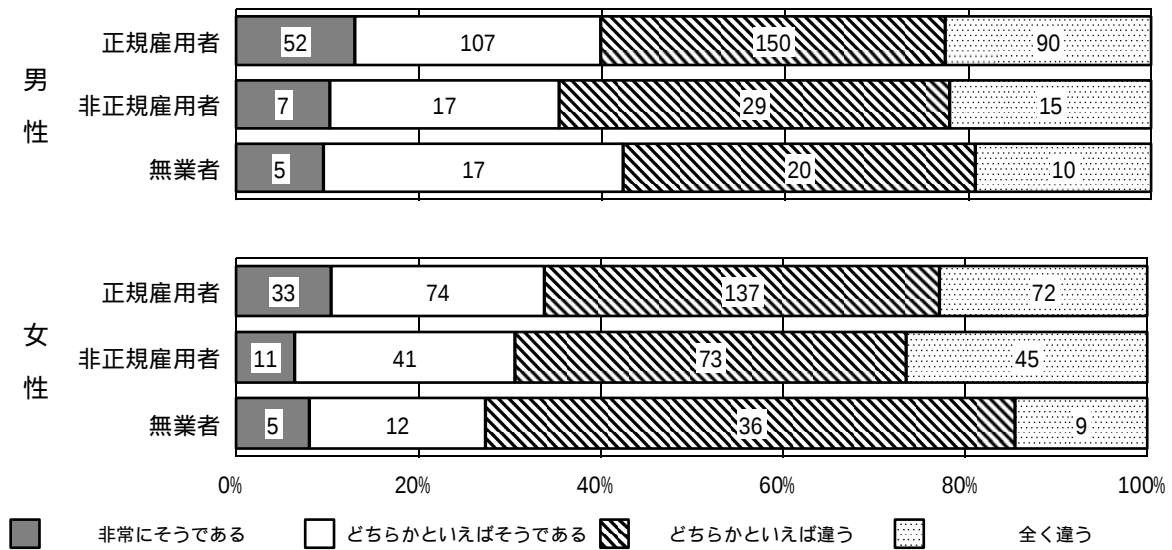
図表11 - 23 ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌になる



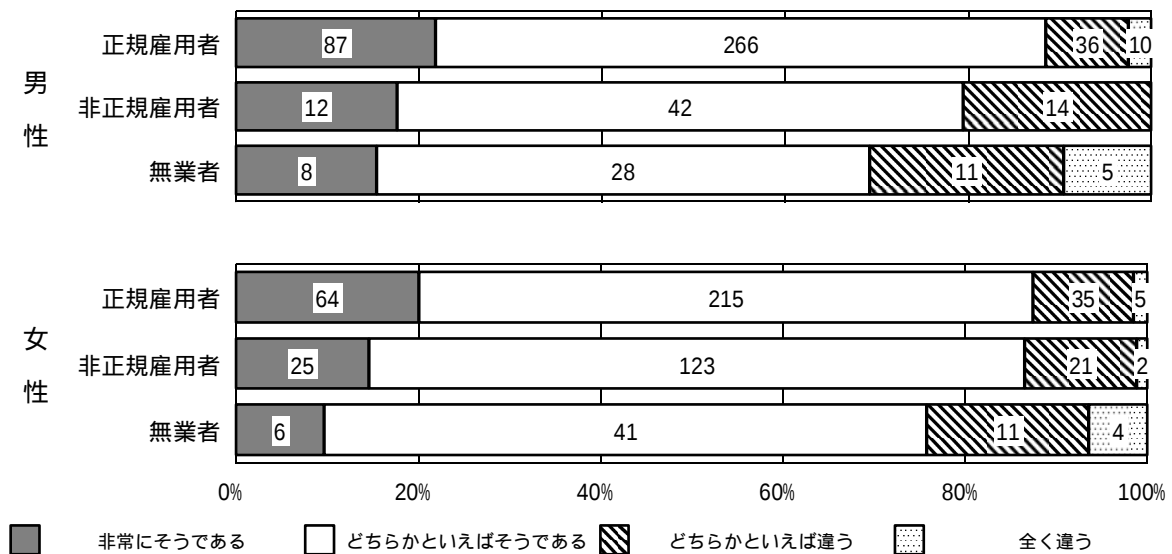
図表11 - 24 今の自分に満足している



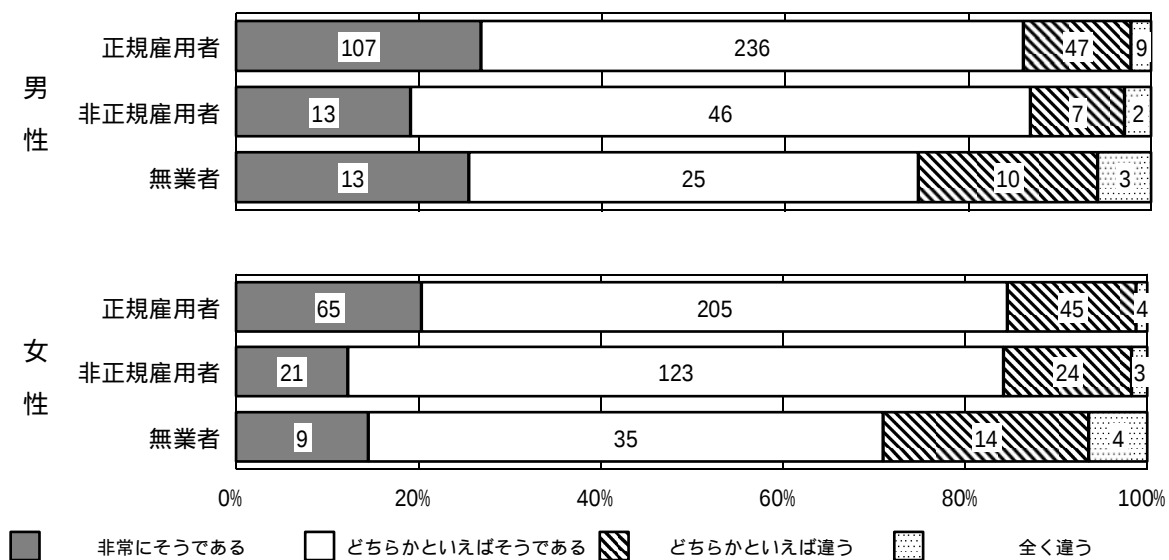
図表11 - 25 人の一生は結局偶然のことで決まると思う



図表11 - 26 いやになった時でもがんばってみようとする



図表11 - 27 自分にもいろいろ長所があると思う



12. 学習活動日数

この1年間の学習活動日数が1日以上の割合を、学習方法別に比較すると、「学習講座、研修会、講習会等に参加した」が正規雇用者が35.8%なのに対して、非正規雇用者が24.3%、無業者が23.5%、「講演会、学習イベント等に参加した」が正規雇用者が23.6%なのに対して、非正規雇用者が11.9%、無業者が10.4%、「インターネットで調べて学んだ」が正規雇用者が38.0%なのに対して、非正規雇用者が27.2%、無業者が29.6%となっている。

「職場研修に参加した」は正規雇用者が研修を受ける機会に恵まれているため、38.1%なのに対して、非正規雇用者が17.3%で少なく、無業者は雇用されていた期間となるため、更に少なくなり10.4%となっている。

一方、「教育的番組、ビデオ教材等で学んだ」は正規雇用者が16.9%、非正規雇用者が12.3%なのに対して、無業者が23.5%で多くなっている。また「公共職業訓練を受けた」は、現在仕事に就いている正規雇用者が3.3%、非正規雇用者が3.3%なのに対して、これから仕事に就こうとするために、公共職業訓練を受講する機会が多いと考えられる無業者が8.7%で多くなっている。

第 章 調査の結果

図表12 - 1 学習講座，研修会，講習会等に参加した

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	465	138	84	28	7	2	724
	%	64.2%	19.1%	11.6%	3.9%	1.0%	.3%	100.0%
非正規雇用者	度数	184	28	18	7	4	2	243
	%	75.7%	11.5%	7.4%	2.9%	1.6%	.8%	100.0%
無業者	度数	88	15	7	3	2	0	115
	%	76.5%	13.0%	6.1%	2.6%	1.7%	.0%	100.0%
合計	度数	737	181	109	38	13	4	1082
	%	68.1%	16.7%	10.1%	3.5%	1.2%	.4%	100.0%

図表12 - 2 講演会，学習イベント等に参加した

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	553	118	43	9	1	0	724
	%	76.4%	16.3%	5.9%	1.2%	.1%	.0%	100.0%
非正規雇用者	度数	214	18	9	2	0	0	243
	%	88.1%	7.4%	3.7%	.8%	.0%	.0%	100.0%
無業者	度数	103	6	5	0	1	0	115
	%	89.6%	5.2%	4.3%	.0%	.9%	.0%	100.0%
合計	度数	870	142	57	11	2	0	1082
	%	80.4%	13.1%	5.3%	1.0%	.2%	.0%	100.0%

図表12 - 3 職場研修に参加した

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	448	136	82	43	9	6	724
	%	61.9%	18.8%	11.3%	5.9%	1.2%	.8%	100.0%
非正規雇用者	度数	201	27	10	4	1	0	243
	%	82.7%	11.1%	4.1%	1.6%	.4%	.0%	100.0%
無業者	度数	103	8	2	1	0	1	115
	%	89.6%	7.0%	1.7%	.9%	.0%	.9%	100.0%
合計	度数	752	171	94	48	10	7	1082
	%	69.5%	15.8%	8.7%	4.4%	.9%	.6%	100.0%

図表12 - 4 通学して学んだ（正規の学生として）

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	690	3	2	5	5	17	722
	%	95.6%	.4%	.3%	.7%	.7%	2.4%	100.0%
非正規雇用者	度数	225	2	2	0	2	12	243
	%	92.6%	.8%	.8%	.0%	.8%	4.9%	100.0%
無業者	度数	107	0	0	0	5	3	115
	%	93.0%	.0%	.0%	.0%	4.3%	2.6%	100.0%
合計	度数	1022	5	4	5	12	32	1080
	%	94.6%	.5%	.4%	.5%	1.1%	3.0%	100.0%

図表12 - 5 通学して学んだ（科目履修生や聴講生として）

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	698	3	5	8	3	7	724
	%	96.4%	.4%	.7%	1.1%	.4%	1.0%	100.0%
非正規雇用者	度数	230	2	1	0	5	5	243
	%	94.7%	.8%	.4%	.0%	2.1%	2.1%	100.0%
無業者	度数	109	1	0	1	2	2	115
	%	94.8%	.9%	.0%	.9%	1.7%	1.7%	100.0%
合計	度数	1037	6	6	9	10	14	1082
	%	95.8%	.6%	.6%	.8%	.9%	1.3%	100.0%

図表12 - 6 通信教育，eラーニング等で学んだ

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	664	9	17	14	10	10	724
	%	91.7%	1.2%	2.3%	1.9%	1.4%	1.4%	100.0%
非正規雇用者	度数	227	2	3	4	2	5	243
	%	93.4%	.8%	1.2%	1.6%	.8%	2.1%	100.0%
無業者	度数	104	2	0	3	4	2	115
	%	90.4%	1.7%	.0%	2.6%	3.5%	1.7%	100.0%
合計	度数	995	13	20	21	16	17	1082
	%	92.0%	1.2%	1.8%	1.9%	1.5%	1.6%	100.0%

図表12 - 7 習いごと，お稽古等をした

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	651	8	8	23	27	7	724
	%	89.9%	1.1%	1.1%	3.2%	3.7%	1.0%	100.0%
非正規雇用者	度数	213	2	4	10	13	1	243
	%	87.7%	.8%	1.6%	4.1%	5.3%	.4%	100.0%
無業者	度数	103	2	1	3	2	4	115
	%	89.6%	1.7%	.9%	2.6%	1.7%	3.5%	100.0%
合計	度数	967	12	13	36	42	12	1082
	%	89.4%	1.1%	1.2%	3.3%	3.9%	1.1%	100.0%

図表12 - 8 自分で本やテキストを読んで学んだ

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	396	77	75	81	45	50	724
	%	54.7%	10.6%	10.4%	11.2%	6.2%	6.9%	100.0%
非正規雇用者	度数	147	33	18	23	13	9	243
	%	60.5%	13.6%	7.4%	9.5%	5.3%	3.7%	100.0%
無業者	度数	59	9	13	10	13	11	115
	%	51.3%	7.8%	11.3%	8.7%	11.3%	9.6%	100.0%
合計	度数	602	119	106	114	71	70	1082
	%	55.6%	11.0%	9.8%	10.5%	6.6%	6.5%	100.0%

第 章 調査の結果

図表12 - 9 教育的番組，ビデオ教材等で学んだ

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	602	41	38	22	9	12	724
	%	83.1%	5.7%	5.2%	3.0%	1.2%	1.7%	100.0%
非正規雇用者	度数	213	10	6	7	6	1	243
	%	87.7%	4.1%	2.5%	2.9%	2.5%	.4%	100.0%
無業者	度数	88	6	4	10	2	5	115
	%	76.5%	5.2%	3.5%	8.7%	1.7%	4.3%	100.0%
合計	度数	903	57	48	39	17	18	1082
	%	83.5%	5.3%	4.4%	3.6%	1.6%	1.7%	100.0%

図表12 - 10 インターネットで調べて学んだ

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	449	68	63	58	38	48	724
	%	62.0%	9.4%	8.7%	8.0%	5.2%	6.6%	100.0%
非正規雇用者	度数	177	20	13	16	13	4	243
	%	72.8%	8.2%	5.3%	6.6%	5.3%	1.6%	100.0%
無業者	度数	81	13	5	3	6	7	115
	%	70.4%	11.3%	4.3%	2.6%	5.2%	6.1%	100.0%
合計	度数	707	101	81	77	57	59	1082
	%	65.3%	9.3%	7.5%	7.1%	5.3%	5.5%	100.0%

図表12 - 11 公共職業訓練を受けた

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	700	6	6	5	2	5	724
	%	96.7%	.8%	.8%	.7%	.3%	.7%	100.0%
非正規雇用者	度数	234	4	0	2	2	0	242
	%	96.7%	1.7%	.0%	.8%	.8%	.0%	100.0%
無業者	度数	105	2	0	3	2	3	115
	%	91.3%	1.7%	.0%	2.6%	1.7%	2.6%	100.0%
合計	度数	1039	12	6	10	6	8	1081
	%	96.1%	1.1%	.6%	.9%	.6%	.7%	100.0%

図表12 - 12 資料，文化財等を見に行行って学んだ

		0日	1日～3日	4日～11日	12日～50日	51日～150日	151日以上	合計
正規雇用者	度数	595	80	35	10	2	2	724
	%	82.2%	11.0%	4.8%	1.4%	.3%	.3%	100.0%
非正規雇用者	度数	208	20	8	5	2	0	243
	%	85.6%	8.2%	3.3%	2.1%	.8%	.0%	100.0%
無業者	度数	98	8	4	4	1	0	115
	%	85.2%	7.0%	3.5%	3.5%	.9%	.0%	100.0%
合計	度数	901	108	47	19	5	2	1082
	%	83.3%	10.0%	4.3%	1.8%	.5%	.2%	100.0%

第 章 総合的考察

本章では、今回の調査データについて正規雇用者・非正規雇用者・無業者の比較を中心にを行った基本的な分析の結果を総合的に考察し、本県における今後のキャリア教育の在り方や若年層のキャリア形成支援に関する生涯学習振興関連施策の方向性を検討していく。

なお本章における総合的考察は、現時点までの基本的な分析に基づいて行うものである。今後は更に詳細な分析を進め、それらの結果等については、当センターの研究紀要やホームページで報告する予定である。

1. 非正規雇用者の特性

非正規雇用者は、男性では半数以上が20歳代前半で、最終学歴が中学校卒業（高校中退者を含む）が多く、大学卒業者が少ない。女性では高校卒業が多く、短大・専門学校卒業者が少ない。また、男女とも最終学校を卒業・中退後の最初の仕事が、アルバイト等の非正規雇用的人が多く、男性の6割、女性の4割以上が初職が非正規雇用である。そして男女とも8割近くが初職の勤務年数が3年未満であることから、離職者が多いと考えられる。初職を離職した理由で多いのは、「ほかにやりたいことがあった」、「人間関係がうまくいかなかったため」が2割以上となっている。

一般的に学歴が高いことや、就職に有利な資格や技術を身に付けられる学校を卒業するほど職業選択の幅が拡大し、希望する職業に就きやすくなると考えられる。更に不景気による求人数の減少が雇用のミスマッチを増加させたことにより、希望通りではない就職をした人が離職している傾向にあると考えられる。

企業は未だに新卒採用が中心であり、特別な資格や技術を持たず即戦力にならない非正規雇用者を正規雇用で中途採用することは少なく、一度、非正規雇用になった人は、より自分の希望に近い仕事を求めて転々と非正規雇用の仕事を移り歩くことになるため、正規雇用者に比べ非正規雇用者は現在の仕事を転職希望している人も多く半数近い割合である。

非正規雇用者は収入が少なく、年齢が上昇しても収入が増えないため、正規雇用者との開きが大きくなっていく。性別では、男性の正規雇用者は年収150～300万円未満と300万円以上を合わせて9割であるのに対し、非正規雇用者では150万円未満と150～300万円未満を合わせて9割以上となっている。女性の既婚者の場合、103万円、130万円の壁¹⁾のためにあえて非正規雇用を選択している人も多いと考えられることから一概にはいえないものの、正規雇用者は年収150～300万円未満と300万円以上を合わせて8割であるのに対し、非正規雇用者では150万円未満と150～300万円未満を合わせて9割以上となっている。そのため親と同居して親の援助により生活している人が多く、男性の8割、女性の6割以上が親と同居している。

この1年間における学習活動の状況をみると、「職場研修に参加した」のは、研修を受ける機会に恵まれている正規雇用者に対して、非正規雇用者は半分にも満たない割合でしかなく、非正規雇用者が職場研修で専門的スキルを身に付けることの困難性を示唆しているとい

1) 年収が103万円を超えると夫が配偶者控除を受けることができなくなり、130万円以上になると社会保険の扶養家族としても認められなくなる。

える。

しかし、非正規雇用者は正規雇用者と比較しても全体的には職業観に大きな違いはみられず、正規雇用者ほどではないものの、自分が希望する仕事に必要とされる資格・技能を身に付けたいと考えている人も多く、心理的特性をみても「今の自分に満足している」という人は少ない。けれども、アルバイトを辞めたり、減らしてフルタイムで通学するような場合、収入が減って多額の学費が掛かる上、学んだことが確実に就職に結び付くという保証もなく、大きなリスクを背負う可能性があるため、学校教育から離れた人が再び学び直そうと実際に行動するのは、心理的にも高い壁になると考えられる。

2. 無業者の特性

無業者の中学生の頃の状況をみると、男性では友人数が少ない傾向にあり、女性では欠席日数が多く、成績が上位だった人は少ない。この調査の集計では中学時代に不登校傾向にあり、高校へも進学せず、これまで就業経験もない標本は除外しているため、無業者が義務教育段階で特別な生徒だったということではなく、無業者の多くは高校以上に進学している。しかし女性の場合では、最終学歴が中学校（高校中退者を含む）という人も多く、学校生活に不適應だった可能性も示唆される。

また、男女とも最終学校を卒業・中退後に最初の仕事に就くまでブランクがあったり、最初の仕事が、アルバイト等の非正規雇用的人が多い。無業者で就業経験がある人のうち、男性の4割、女性の6割の初職が非正規雇用である。そのうち男女それぞれの8割近くが3年未満で離職しており、最初の仕事を辞めてから働いていない人は、男性の4割、女性の3割となっている。男女合わせると1割の無業者には就業経験がない。初職を離職した理由で多いのは、「ほかにやりたいことがあった」、「人間関係がうまくいかなかったため」が2割以上となっている。

このような無業者の現在の生活状況をみると、9割近くが親と同居していることから、親の収入などで生活していると考えられるが、男性の4割以上が世帯の年間総収入が300万円未満と回答しており、決して経済的なゆとりがあるとはいえない状況である。一方、男女合わせて4割の無業者が世帯の年間総収入がわからないと回答しており、これについては経済的なゆとりがあるため気にする必要がないことや、親と本人の間で家計の話題がないことなどいくつかの要因が考えられるが、今回の調査からはこれ以上の言及はできない。

これらの無業者には就業意欲がないという人はほとんどみられず、9割以上が今後職業に就くことを希望している。求職活動についても、ハローワークやジョブカフェを活用したり就職情報誌をみるなど、8割以上が何らかの方法で行っているのだが、求職活動において、6割が「希望する業種・職種が見つからない」、半数が「要求される資格・技能を持っていない」ことについて困難を感じている。

しかし「どんな仕事でも、仕事があれば働きたい」という人は2割程度であり、無業者の多くは、「自分の希望する仕事があれば働きたい」と考えている。また、職業観をみても「やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらなくてよい」と考えており、雇用形態よりも自分が希望する内容の仕事の方に固執する傾向が強いことから、そのような仕事が見つ

からなければ職に就かないということになる。とりあえずは親に面倒をみてもらうことで当面の生活はできるため、そのまま無業状態が継続していると考えられる。なお、男性の半数、女性の4割は無業期間が1年以上に及んでいる。

しかも無業者は、それらの仕事に必要なとされる資格・技能・経験を持っていないにもかかわらず、「専門的な知識や技術を磨きたい」、「職業生活に役立つ資格を取りたい」という意識がやや低いことが職業観にみられる。この1年間の学習状況をみても、教育的番組、ビデオ教材等の自宅での学習活動は正規雇用者や非正規雇用者に比べて多いものの、公共職業訓練を受講した人は1割にも満たない。

更に心理特性としても「いやになった時でもがんばってみようとする」、「自分のよくないところを自分で考え直す」、「欠点を指摘されると自分でも考えてみようとする」意識が低いことから、自律心・自己統制力が弱い傾向にあり、自分の現在の状況を能動的に変えていくことが困難であると考えられる。

3. 政策的含意

(1) 若年者の雇用機会の減少の背景

経済のグローバル化の著しい進展によって激しい競争を強いられる中、企業はコスト削減や経営の合理化・効率化を図るため、これまで高卒者雇用の主たる受け皿となってきた製造業が、生産拠点を海外に移転させたり、リストラや雇用調整を行っている。

また、業務内容の高度化に対応し、高度な職業能力を有する人材を求める傾向が強まり、高学歴者や経験者に採用がシフトする一方で、ノンコア業務をアウトソーシングして組織のスリム化を図ったり、定型的業務については、パート・アルバイト等の非正規職員を活用するというように、人材ニーズが二極化しており、若年者、特に高卒者の正規雇用の機会が著しく減少した。90年代後半以降、近年の景気回復に関わらず一貫して正規雇用者が減少する中で、非正規雇用は増加し続けており、このような人材ニーズの二極化は変わらない様子である。これには労働者派遣法の改正による規制緩和が、雇用の不安定化を促し非正規雇用を増大させたという意見も多い。

更に地域の雇用情勢は、人口構造や産業構造などの、短期間には変えられない要因に強く依存しており、今後も失業率や就業率が短期間で劇的な改善に向かうのは困難であるとされていることから、求職者側が資格や技能などの職業能力やヒューマンスキルを身に付けていくことによって、厳しい雇用情勢においても対応できるように備えていくことが重要と考える。それには学校や教育行政が果たすべき役割はきわめて大きいといえよう。

(2) キャリア教育及び若年層のキャリア形成支援に求められる視点

それでは、前述の非正規雇用者と無業者の特性から、いわゆるニート・フリーター問題に対する今後の本県の教育政策に求められる視点を述べたい。

まず非正規雇用者は最終学歴が低い傾向にあり、最終学校を卒業後の初職が非正規雇用だった人が多い。そして無業者は中学生の頃から対人スキルが不十分だった可能性が高く、学校生活への不適応傾向もみられる。無業者及び非正規雇用者の2割以上が、最終学校を卒業

後の初職を離職した理由に、人間関係がうまくいかなかったことを挙げている。しかも無業者は、資格や技能を新たに身に付けようという意欲がやや低く、前述のように人間関係でつまづいた経験が離職につながった人が多いことから、公共職業訓練などの新たな人間関係が生じる学習機会に参加するまでには段階を踏む必要があると考える。

これらを勘案すると、義務教育段階のキャリア教育において、将来フリーターになることでどのような不利益が起こりうるかを伝え、就職に有利な資格や技能が取得できる学校に進学することや、職業選択の幅を広げるには上級学校へ進学することも重要であることを、本人に理解させることはもちろん、保護者への教育も必要であるといえよう。

そして近年の、リストラ、失業、倒産を背景として教育費を負担することが困難な家庭が増加していることから、能力のある高校生らが進学希望を断念することを防ぐための経済的な支援を維持することも必要である²⁾。

一方、文部科学省ではキャリア教育の在り方について審議を重ねている。2004年の文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」による報告書では、現状の進路指導の問題として、高等学校では「進路決定の指導」に重点が置かれ、志望先の選択・決定等にかかる「出口指導」や進学指導、就職指導に終始しがちになっている状況が少なからず見受けられることや、中学校を中心として職場体験やインターンシップ（就業体験）をはじめ、ボランティア活動、社会人・職業人講話等々、様々な体験活動が、相当幅広く実施されるようになってきているが、それを生徒の進路意識の向上や内面の発達に結び付ける指導については、まだまだ不十分であるといわざるを得ないことが指摘されている。進路指導の取組は、キャリア教育の中核をなすものであるが、進学することだけが学習の目的となったり、キャリア教育が一過性の職業体験に終始したり、出口指導に偏った方法では、学び続ける意欲や勤労観・職業観を形成するのは困難であるといえよう。

生徒の適性と進路や職業・職種との適合を主眼とした指導が中心となりがちであった従来の進路指導に対しては、キャリアカウンセリングの見地からも転換が求められる。カウンセリング心理学者のクランボルツ(Kurum-boltz, J.D.)が提唱している「計画的偶発性理論(Planned happenstance Theory)」では、キャリアを計画すること自体を否定するものではないが、キャリアは偶然に左右されて計画通りにはいかないものだから、人生の早い時期に明確なキャリア目標を設定する必要はないとされている。なぜなら急速に変化する世界では、職業のあり様も常に変化しているから、今ある仕事も数年後には存在しないかもしれないし、将来なりたい職業名を挙げることは誰にでもできることであり、一般的な評価の高い職業名を口に出せば、親や教師から良いフィードバックをもらえるなど、容易に大人をごまかせるからである。だから、子どもの頃には、なりたい職業を決めるという意味決定よりも、将来の予期せぬ様々な出来事に能動的に対処し、激しい変化にも適応できる能力を身に付けていくことの方が重要になる。

このようなクランボルツの理論や、前述の対人スキルの問題を勘案すると、学校教育や家庭教育においてソーシャルスキルを身に付けさせる教育も必要だろう。ソーシャルスキル(Social skills)とは、対人場面において適切かつ効果的に反応するために用いられる言語

2)教育費の負担は進路によって様々であるが、例えば自宅外通学で大学4年間に掛かる費用は1,000万円以上必要とされている。

的・非言語的な対人行動と、そのような対人行動の発現を可能にする認知過程との両方を包含する概念である（相川，1996）。「コミュニケーション・スキル」や「対人スキル」などの基本的な能力は，社会生活を営む上で必要な技術であり能動的な行動を促進するためにも重要と考える。

次に，現在正規雇用を目指していたり，新たに職業に就くことを希望している，非正規雇用者や無業者へのキャリア形成支援について述べたい。

ハローワークのインターネットサービスで，青森県全域の全ての求人情報（月給制）を検索すると，約4000件がヒットする（2006年11月現在）。「正社員」に絞り込むと約2500件となる。しかし正社員の場合，その条件をみると，医療系，土木建築系，システムエンジニアやソフトウェア開発などの高度な資格や技術，経験が必要な求人が目立つ³⁾。少なくとも基礎的なパソコン技能や普通自動車免許を求められている場合が多く，これにその職業の経験の有無や年齢条件などが加わる上，求人数は都市部が多く，青森市，弘前市，八戸市の3市で約7割を占めている。そのためこれらの条件から外れるほど，また上記の業種・職種以外を希望するほど正規雇用には結び付きにくくなっていくのである。

すでに非正規雇用者として働いている人は，資格や技能の取得に意欲を持つ人が少なくないことから，彼らが，経済的にも心理的にも学び直すことが容易で，学んだことが就職に結び付くような仕組みを行政と企業がつくることが重要であるといえよう。端的に言えば，「フリーターが交通費を掛けてまで教育訓練や学習講座で1時間学ぶことに，アルバイトの時給以上に得られるものが大きいという魅力」が必要なのである。そして若者の目線に立って自立支援レベルで考えるなら，その交通費すら掛けられない人も存在するだろうという意識を持つことが重要である。

現在政府は，人生の各段階で多様な機会が与えられ，失敗しても何度でも再チャレンジでき，勝ち組・負け組を固定させない社会（再チャレンジ可能な社会）の構築を推進しようとしている。そのような再チャレンジ可能な社会の実現に向け，文部科学省では「教育分野における再チャレンジ」を支援するために，平成19年度の概算要求において，「再チャレンジのための学習支援システムの構築（チャレンジ希望女性に対する『学び』支援，IT基盤の整備支援を含む）」，「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」，「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」などについて約314億円を要求している。これは，自立し挑戦する人材の育成のために，再チャレンジに資する教育の推進及び職業能力の向上を図ることを目指すものであり，今後の動向が注目される。

本来，生涯学習社会の実現を目指す理由には，学歴社会の弊害の是正のために，現在の学歴以外にも，評価の対象となり得る多様な基準が作り出され，社会に受け入れられることが重要であるとされた。しかし，このための有効な施策は，これまでほとんど実施されていないといっても過言ではなく，「労働市場で機能する職業資格」等については，いわゆる「英検」など一部のものを除き，未だに不備な状況が続いており，国全体として一律に実施すべき行政施策は「学習成果の適切な評価」による「学歴社会の打破」であると指摘されている

3) 約2500件の「正社員」について職業分類別でみると，専門的・技術的職業が約1000件となっており，更にその内訳をみると，医療関係が半数を占める。

（岡本，2006）。このような問題に対し，現在，中央教育審議会生涯学習分科会「学習成果の評価の在り方に関する作業部会」において，その具体的方策について審議が進められており，有効な施策が打ち出されることが期待されると同時に，政府が掲げる再チャレンジ可能な社会の実現は生涯学習社会の実現にもつながるといえる。

更に，前述のように無業者は人間関係でつまずいた経験が離職につながった人や，最初の仕事を辞めてから働いていない人が多いことから，公共職業訓練や大学・専門学校などの新たな人間関係が生じる学習機会に参加するまでには段階を踏む必要があると考える。無業者は，資格や技能を新たに身に付けようという意欲があまり高くないことから，そのような学習機会に能動的に参加する人は少ないだろう。そこでeラーニングのように個人で学習できるレベルからはじめていくことにより，段階的に職業観や職業に関する知識・技能を身に付けられるシステムを整備する必要がある。無業者のうち就職を希望している人が，仕事に関して知りたいと思うことは，「基本的なビジネスマナー」，「就職面接のマナー」，「いろいろな企業の実際の仕事現場の様子」，「求人情報の探し方」など就職に必要な基礎的能力に関する内容が中心となっており，eラーニングにおいてこれらをコンテンツに含めることにより就業意識を高め，より具体的な求職行動へと発展させることができると考えられる。時間を選ばず学べるeラーニングは，非正規雇用者にも活用されることが期待できる。

特に無業者は，「やりたい仕事」へのこだわりが強いため，キャリアカウンセリングにおいては，やはりクランボルトの理論が有効となるだろう。前述したようにクランボルトは，個人のキャリアは偶然に起こる予期せぬ出来事によって左右されて決定していくと述べているが，その偶発的な出来事を避けるのではなく，逆に自らの主体性や意識的な努力によって最大限活用すれば，キャリア形成の力に変えることができると主張している。しかしそのような予期せぬ出来事というのも，実際は何らかの行動によってもたらされるのであり，運だけに左右される偶然の出来事ではない。だから，偶然の出来事（ハプンスタンス）と出遭うために「行動を起こすこと」，「ともかく何かを始めること」，「最初はやりたがらなくとも，何度失敗しようとも，行動を止めないこと」が重要なのであり，選択肢をオープンにしておきながら一歩ずつ行動を起こしていき，それぞれのステップから生まれるチャンスを見極め，活用していくというスタンスが，人生やキャリアの幸運を引き寄せるのであり，最も重要なのは「行動する」ことであると強調している。

「やりたい仕事」にこだわりすぎることや，「やりたい仕事」は何なのかということを立ち止まったまま考え続けることは，クランボルトの主張する「予期せぬ出来事を上手に利用する」という行動には結び付きにくいといえるだろう。

以上の方策やキャリアカウンセリングの理論を用いた取組は，すでに学校教育や社会教育，またハローワーク・ジョブカフェ等の就労支援施設・機関において行われていることが多いと考えられが，本県における調査データの集計結果に基づいた調査研究の成果は，児童・生徒や保護者，そして若者へと高い説得力をもって語る材料となるに違いないといえる。

参考文献

- ・相川充(1996)『社会的スキルと対人関係 自己表現を援助する』誠信書房。
- ・岡本薫(2006)「生涯学習振興の政策目的」日本生涯教育学会『生涯学習研究e事典』<http://>

- ejiten.javaea.or.jp/content.php?c=TWpneU5qYzA%3D [2006, November 17].
- ・岡本薫(2006)「生涯学習行政の課題」日本生涯教育学会『生涯学習研究e事典』<http://ejiten.javaea.or.jp/content.php?c=TWpJek5qYzA%3D> [2006, November 17].
 - ・岡本薫(2006)「職業資格と生涯学習」日本生涯教育学会『生涯学習研究e事典』<http://ejiten.javaea.or.jp/content.php?c=TWpRd05qYzE%3D> [2006, November 17].
 - ・梶田叡一(1985)『自己教育への教育』明治図書.
 - ・J.D. クランボルツ/A.S. レヴィン(2005)『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社.
 - ・J.D. クランボルツ(2005)「『幸運は偶然ではない』～偶然の出来事を人生やキャリアに活用する方法」『キャリアガイダンス<最新キャリア理論特別レポート>』リクルート.
 - ・J.D. クランボルツ(2005)「予期せぬ出来事から得る『偶然』を、自らのキャリアへと最大限に活用しよう」『人材教育 202』JMAM人材教育.
 - ・日本労働研究機構編(2001)『進路決定をめぐる高校生の意識と行動—高卒「フリーター」増加の実態と背景』日本労働研究機構.

平成 1 8 年度

若年層の生き方と仕事意識に関する調査

調 査 用 紙

青森県教育委員会

青森県総合社会教育センター

はじめにあなた自身のことについてお聞きします。

Q 1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号を○で囲んでください)

- 1 男性
- 2 女性

Q 2 あなたの^{おんれい}年齢を教えてください。

_____ ^{さい}歳

Q 3 あなたは現在どちらにお住まいですか。

- 1 青森市
- 2 弘前市
- 3 八戸市
- 4 五所川原市
- 5 黒石市
- 6 十和田市
- 7 三沢市
- 8 むつ市
- 9 つがる市
- 10 平川市
- 11 東津軽郡
- 12 西津軽郡
- 13 中津軽郡
- 14 南津軽郡
- 15 北津軽郡
- 16 上北郡
- 17 下北郡
- 18 三戸郡

あなたの中学生の頃^{ころ}を思い出してお答えください。

Q 4 あなたが卒業した中学校は、青森県内ですか、それとも県外ですか。

- 1 青森県内
- 2 青森県外

Q 5 あなたと同じ中学校に通っていた人の中で、当時の友だちとして思いつく人は何人ぐらいいますか。

だいたい_____人ぐらい

Q 6 中学生時代に、あなたは病気・けが以外の理由で欠席したことがありますか。1年間で休んだ日の合計が最も多かった年の総欠席日数を、次の中から選んでください。

- 1 病気・けが以外の理由で休んだことはない
- 2 1週間未満
- 3 1週間～1か月未満
- 4 1か月～3か月未満
- 5 3か月以上
- 6 わからない

Q 7 あなたが中学3年生の頃の成績は、クラスや学年でどのくらいでしたか。

- 1 上のほう
- 2 どちらかという上の方
- 3 まんなかあたり
- 4 どちらかという下のほう
- 5 下のほう
- 6 わからない

Q 8 あなたが中学3年生の頃、あなたの家庭の経済的な暮らし向きは、次のどれに近いですか。

- 1 他の人よりもかなり豊かだった
- 2 どちらかという他の人よりも豊かだった
- 3 他の人と同じぐらい
- 4 どちらかという他の人より貧しかった
- 5 他の人よりもかなり貧しかった
- 6 わからない

Q 9 あなたが中学 3 年生の頃、あなたのお父さんはどのようなお仕事をしていましたか。

- 1 会社経営者・会社役員（家族以外の人を雇っている）
- 2 給与所得者（民間企業の正社員・正職員）
- 3 給与所得者（公務員）
- 4 契約社員・嘱託等
- 5 パートタイマー・アルバイト
- 6 自営業主（家族のみで働いている）
- 7 家族従業者（家業を手伝っていた）
- 8 その他（具体的に：_____）
- 9 働いていなかった
- 10 その当時、父はいなかった（Q 1 1 へ）
- 11 わからない

Q 1 0 あなたのお父さんが最後に行かれた学校（最終学歴）は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じとしてお答えください。

- 1 小・中学校
- 2 高等学校
- 3 専門学校・専修学校（高校を卒業してから行くもの）
- 4 短期大学・高専
- 5 大学・大学院
- 6 わからない

Q 1 1 あなたが中学 3 年生の頃、あなたのお母さんはどのようなお仕事をしていましたか。

- 1 会社経営者・会社役員（家族以外の人を雇っている）
- 2 給与所得者（民間企業の正社員・正職員）
- 3 給与所得者（公務員）
- 4 契約社員・嘱託
- 5 パートタイマー・アルバイト
- 6 自営業主（家族のみで働いている）
- 7 家族従業者（家業を手伝っていた）
- 8 その他（具体的に：_____）
- 9 働いていなかった
- 10 その当時、母はいなかった（Q 1 3 へ）
- 11 わからない

Q 1 2 あなたのお母さんが最後に行かれた学校（最終学歴）は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じとしてお答えください。

- 1 小・中学校
- 2 高等学校
- 3 専門学校・専修学校（高校を卒業してから行くもの）
- 4 短期大学・高専
- 5 大学・大学院
- 6 わからない

あなたが最後に通った、または現在通っている学校についてお聞きます。

Q 1 3 あなたが最後に通った、または現在通っている学校は、次の中のどれですか。

- 1 中学校
- 2 高等学校
- 3 専門学校・専修学校（高校を卒業してから行くもの）
- 4 短期大学・高専
- 5 大学・大学院

Q 1 4 あなたは、最後に通った学校を卒業しましたか、それとも中途退学（ちゅうと）しましたか。

- 1 卒業した
- 2 中途退学した
- 3 現在通っている（P.81ページのQ 3 0へ）
- 4 わからない

Q 1 5 あなたは最後に通った学校を卒業または中退した後、どうしましたか。

- 1 す ぐ に 仕 事 に つ い た
- 2 （契約社員 パートやアルバイト等を含む）（P.78ページのQ1 7へ）
- 3 仕事につかなかった
その他（具体的に：_____）

あなたの仕事の経験についてお聞きします。

Q 1 6 あなたは最後に通った学校を卒業または中退してから、今までに収入を伴う仕事（パートやアルバイト等を含む）をしたことがありますか。

- 1 ある
- 2 ない（P.81ページのQ 2 9へ）

Q 1 7 最初についた仕事では、あなたはどのような待遇でしたか。

- 1 正社員・正職員
- 2 契約社員・嘱託
- 3 パート・アルバイト
- 4 家族従業者（家業を手伝った）
- 5 その他（具体的に：_____）

Q 1 8 その勤め先では、全体で何人ぐらいの人が働いていましたか。なお、家族の他に誰も雇っていない自営業の方は「3 自営業」を、官公庁にお勤めの方（公務員）は「4 官公庁・公務」を選んでください。

- 1 従業員数が50人以上
- 2 従業員数が50人以下
- 3 自営業（家族の他に誰も雇っていない）
- 4 官公庁・公務
- 5 よくわからない

本社・支店・工場、およびパート等も含めた総従業員数

Q 1 9 あなたは、その仕事をどのようにして見つけましたか。

- 1 卒業した学校・先生の紹介
- 2 親族や知人の紹介
- 3 ハローワーク（職業安定所）の紹介
- 4 求人情報を見て直接応募した
- 5 家業を継いだ
- 6 その他（具体的に：_____）

Q 2 0 最初の勤務地はどこですか。

- 1 青森県内
- 2 青森県外

Q 2 1 その勤め先の会社（雇用先）では何年ぐらい働きましたか。

_____年 _____か月

Q 2 2 あなたは今もその勤め先の会社（雇用先）で働いていますか。

- 1 同じ勤め先で働いている（P.80ページのQ 2 5へ）
- 2 その勤め先をやめて、転職した
- 3 その勤め先をやめて、それいらい働いていない

Q 2 3 最初の勤め先をやめた理由はなぜですか。 あてはまるものすべてに○をつけ
てください。

- 1 倒産・人員整理・解雇のため
- 2 勤務先の将来性に不安があったから
- 3 もともと長く働く予定ではなかったから
- 4 収入が少なかったから
- 5 仕事がつまらなかったから
- 6 病気・けがのため
- 7 結婚・出産した（しようとしていた）から
- 8 労働時間が長いから
- 9 労働条件が求人票と違っていたから
- 10 人間関係がうまくいかなかったため
- 11 地元に戻りたくなったから
- 12 家の仕事を継ぐため
- 13 家族の看護・介護のため
- 14 ほかにやりたいことがあった

Q 2 4 今までに、合計で何回転職しましたか（転勤や配置転換等は数えないでください）。

- 1 0回（最初の勤め先をやめてから働いていない）
- 2 1回
- 3 2回
- 4 3回
- 5 4回
- 6 5回以上

Q 2 5 あなたの現在のお仕事をお教えてください（主なものに○を１つ）

- 1 会社経営者・会社役員（家族以外の人を雇っている）
- 2 給与所得者（民間企業 従業員数 50人以上）
- 3 給与所得者（民間企業 従業員数 50人以下）
- 4 給与所得者（公務員）臨時講師を含む
- 5 契約社員・嘱託
- 6 パートタイマー・アルバイト
- 7 自営業主（家族のみで働いている）
- 8 家族従業者（家業を手伝った）
- 9 その他（具体的に：_____）
- 10 働いていない（P.81ページのQ 2 8へ）

本社・支店・工場、およびパート等も含めた総従業員数

Q 2 6 現在のあなた個人の年間の収入は税込みでどれくらいですか。臨時収入、副収入も含めて最も近いものを次の中から選んでください。

- 1 50万円未満
- 2 50～150万円未満
- 3 150～300万円未満
- 4 300～500万円未満
- 5 500～700万円未満
- 6 700～900万円未満
- 7 900万円以上
- 8 わからない

Q 2 7 現在、あなたは転職や独立開業をしたいと考えていますか。

- 1 考えていない（P.83ページのQ 3 3へ）
- 2 転職をしたい（P.81ページのQ 3 0へ）
- 3 独立開業をしたい（P.83ページのQ 3 3へ）

Q 2 8 現在、収入が得られる仕事をしていない方にお聞きします。あなたが最後にしていた仕事をやめてから現在まで、どれくらいの期間ですか。

- 1 3 か月未満
- 2 3 か月～1 年未満
- 3 1 年～3 年未満
- 4 3 年～5 年未満
- 5 5 年～10 年未満
- 6 10 年以上
- 7 わからない

Q 2 9 現在、収入が得られる仕事をしていない方にお聞きします。あなたはこれから働きたいと思いますか、それとも働くつもりはありませんか。

- 1 どんな仕事でも、仕事があれば働きたい
- 2 自分の希望する仕事があれば働きたい
- 3 働くつもりはない (P.83 ページの Q 3 3 へ)
- 4 その他 (具体的に : _____)

今後、働きたいと思っている方、転職を希望している方にお聞きします。

Q 3 0 あなたは、働くことに関する次のようなことについて知りたいと思いますか。それぞれの項目についてお答えください。

	非常に思う	やや思う	ない どちらでも	あまり思わない	全然思わない
求人情報の探し方	1	2	3	4	5
就職活動の心構え	1	2	3	4	5
就職面接のマナー	1	2	3	4	5
応募書類 (履歴書・職務経歴書) の書き方	1	2	3	4	5
就職筆記試験の対策	1	2	3	4	5
自己理解、適性診断	1	2	3	4	5
あいさつ、言葉づかい等の基本的なビジネスマナー	1	2	3	4	5
フリーターと正社員の違い	1	2	3	4	5
起業・独立開業の方法	1	2	3	4	5
企業の求める人材像	1	2	3	4	5
さまざまな業界、職種にたずさわる社会人の体験談	1	2	3	4	5
いろいろな企業の実際の仕事現場の様子	1	2	3	4	5

Q 3 1 あなたは現在、仕事に関連して次のことをおこなっていますか。この中から
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 ハローワーク・ジョブカフェなどの公的な機関を利用する
- 2 民間職業紹介機関を利用する
- 3 就職情報誌・無料のタウン誌の求人情報・新聞の求人広告等を見る
- 4 インターネットの求人サイトなどを見る
- 5 合同会社説明会に参加する
- 6 親族や知人に仕事を紹介してもらう
- 7 教育訓練機関や通信教育を利用して能力や資格を身につける
- 8 何もおこなっていない

Q 3 2 あなたは現在、仕事を^{さが}探す上で^{こま}困っていることはありますか。この中から
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 希望する業種・職種が見つからない
- 2 希望する勤務地の勤め先がない
- 3 希望する勤務時間に合う勤め先がない
- 4 希望する賃金^{ちんぎん}に合う勤め先がない
- 5 要求^{ようきゅう}される資格・技能^{し かく ぎ の う}を持っていない
- 6 年齢制限にあてはまらない
- 7 学歴条件に合わない
- 8 求められている職務の経験が不足している
- 9 仕事の内容が、提示^{ていじ}された条件と違う
- 10 どのような方法で、求人情報を集めたらよいかわからない
- 11 ハローワーク・ジョブカフェなどの利用方法がわからない
- 12 今まで働いてなかった理由を、どう説明していいかわからない
- 13 職場の人間関係などをうまくやっていける自信がない
- 14 自分の能力・適性^{てきせい}にあった仕事（向いている仕事）がわからない
- 15 家事・育児などで忙しい
- 16 家族の介護・看護^{かいご かんご}などで忙しい
- 17 病気・けがなどで、定期的な通院が必要である
- 18 現在の仕事が忙しくて転職活動ができない

ここからは、すべての方にお聞きします。あなたの普段のものの考え方や行動などについてお答えください。

Q33 あなたは将来または現在の職業生活についてどのように考えていますか。それぞれの項目についてお答えください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	思わない
今の世の中、定職につかなくても何とか暮らしていける	1	2	3	4
将来のことを考えるよりも今を楽しく生きたい	1	2	3	4
若いうちは仕事よりも自分のやりたいことを優先させたい	1	2	3	4
いろいろな職業を経験したい	1	2	3	4
将来、自分の店や会社を持ちたい	1	2	3	4
ひとよりも高い収入を得たい	1	2	3	4
安定した職業生活を送りたい	1	2	3	4
専門的な知識や技術を磨きたい	1	2	3	4
有名になりたい	1	2	3	4
やりたい仕事なら正社員でもフリーターでもこだわらなくてよい	1	2	3	4
自分に合わない仕事はしたくない	1	2	3	4
学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から経済的に自立すべきだ	1	2	3	4
職業生活に役立つ資格を取りたい	1	2	3	4
フリーターより正社員で働いた方が得だ	1	2	3	4
人の役に立つ仕事をしたい	1	2	3	4
できれば仕事をしたくない	1	2	3	4

Q34 あなたはパソコンで次のような作業を行うことができますか。できるものすべてに○をつけてください。

- 1 ワードなどの文書作成ソフトの基本操作
- 2 エクセルなどの表計算ソフトの基本操作
- 3 インターネットの検索ページを使って目的の情報を集める
- 4 ホームページを作成する
- 5 メールの送受信

Q35 次のそれぞれの項目について、あなたの考えやあなた自身にどのくらいあてはまるかを○で囲んでお答えください。

	非常に そう である	い ど ち ら か と い え ば そ う で あ る	い ど ち ら か と い え ば 違 う	全 く 違 う
他の人から尊敬 ^{そんけい} される人間になりたい	1	2	3	4
自分のよくないところを自分で考え直すよう、いつも心がけている	1	2	3	4
今のままの自分ではいけない、と思うことがある	1	2	3	4
自分の能力を最大限にのばすよう、いろいろ努力したい	1	2	3	4
自分の考えや行動が批判 ^{ひはん} されても腹 ^{はら} を立てない	1	2	3	4
他の人にばかにされるのは、がまんできない	1	2	3	4
たとえ認め ^{みと} られなくても、自分の目標に向かって努力したい	1	2	3	4
自分の良いところと悪いところがよくわかっている	1	2	3	4
ときどき、自分自身がいやになる	1	2	3	4
自分でなければやれないことをやってみたい	1	2	3	4
他の人から欠点 ^{してき} を指摘 ^{してき} されると、自分でも考えてみようとする	1	2	3	4
何をやってもだめだと思う	1	2	3	4
自分がやりはじめたことは、最後までやりとげたい	1	2	3	4
できるだけ自分をおさえて、他の人にあわせようとしている	1	2	3	4
自分のことをはずかしいと思うことがある	1	2	3	4
これからもよい仕事をし、多くの人に認められたい	1	2	3	4
腹がたってもひどいことを言ったりしないように気をつけている	1	2	3	4
今の自分が幸福だと思う	1	2	3	4
疲 ^{つか} れているときには、何もしたくないことが多い	1	2	3	4
自分のやることに自信を持っている方だと思う	1	2	3	4
生まれ変わるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい	1	2	3	4
ぼんやりと何も考えずに過ごしてしまうことが多い	1	2	3	4
ちょっといやなことがあると、すぐ不機嫌 ^{ふきげん} になる	1	2	3	4
今の自分に満足している	1	2	3	4
人の一生は結局偶然 ^{ぐうぜん} のことで決まると思う	1	2	3	4
いやになった時でも、もう少しがんばってみようとする	1	2	3	4
自分にもいろいろ長所があると思う	1	2	3	4

Q 3 6 あなたはこの1年間に、何かを学習しようと思いたって次のような活動をしましたか。それぞれの項目について年間のだいたいの活動日数をお答えください。

	0 日	1 日 ～ 3 日	4 日 ～ 11 日 1 ～ 3 か 月 に 2 日	12 日 ～ 50 日 1 ～ 3 月 に 3 日	51 日 ～ 150 日 1 ～ 2 週 に 2 日	151 日 以 上 以 上 週 に 3 日
学習講座、研修会、講習会等に参加した	1	2	3	4	5	6
講演会、学習イベント等に参加した	1	2	3	4	5	6
職場研修に参加した	1	2	3	4	5	6
通学して学んだ（正規の学生として）	1	2	3	4	5	6
通学して学んだ（科目履修生や聴講生として）	1	2	3	4	5	6
通信教育、eラーニング等で学んだ	1	2	3	4	5	6
習いごと、お稽古等をした	1	2	3	4	5	6
自分で本やテキストを読んで学んだ	1	2	3	4	5	6
テレビまたはラジオの教育的番組、ビデオ教材等で学んだ	1	2	3	4	5	6
インターネットで調べて学んだ	1	2	3	4	5	6
公共職業訓練を受けた	1	2	3	4	5	6
資料、文化財等を見に行き行って学んだ	1	2	3	4	5	6

あなたのご家庭の状況などについてお聞きします。

Q 3 7 あなたは、結婚していますか。

- 1 結婚している
- 2 結婚したことはあるが、今はそうではない（離婚または死別
- 3 した）結婚したことがない

Q 3 8 あなたは現在、親と一緒に住んでいますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q 3 9 あなたの生活費は主に誰が払っていますか。

- 1 自分
- 2 親
- 3 配偶者（夫や妻）
はいぐうしや
- 4 これら以外の親族、親戚
- 5 同居人・ルームメイト・友達
- 6 その他の人（具体的に：_____）

Q 4 0 あなたは現在、通院が必要な病気やけがをしていますか。

- 1 病気をしている
- 2 けが（骨折・ねんざ等）
こっせつ）をしている
- 3 特に病気やけがはしていない

Q 4 1 あなたの世帯の全体の年間総収入（年金や生活保護等も含む）は、税込みでどれくらいですか（学生の方はご実家の収入をお答えください）。最も近いものを次の中から選んでください。

- 1 150 万円未満
- 2 150～300万円未満
- 3 300～500万円未満
- 4 500～700万円未満
- 5 700～900万円未満
- 6 900～1100万円未満
- 7 1100万円以上
- 8 わからない

大変お疲れ様でした。調査はこれで終了です。お手数をおかけいたしますが、記入の終わった調査用紙は、同封の封筒に入れて返送してください。（切手は不要です）

ご協力、誠にありがとうございました。

なお、この調査の結果については集計・分析等が終わりしだい、当センターの ホームページ（<http://alis.net.pref.aomori.jp/>）でご覧いただけます。

生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究顧問

氏 名	所 属	職 名
佐 藤 三 三	弘前大学教育学部	学部長・教授
吉 村 治 正	青森大学社会学部	助教授

事 務 局

氏 名	所 属	職 名
高 橋 興	青森県総合社会教育センター	所長
三 宅 徹 也	青森県総合社会教育センター	副所長
佐々木昭夫	青森県総合社会教育センター 研究開発課	課長
外崎留理子	青森県総合社会教育センター 研究開発課	社会教育主事
成 田 信 己	青森県総合社会教育センター 研究開発課	社会教育主事

平成18年度 生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究
若年層の職業観と学習活動に関する調査研究報告書

平成18年12月

編集・発行 青森県総合社会教育センター

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7

TEL 017-739-1251 FAX 017-739-1279

<http://alis.net.pref.aomori.jp/>

E-Mail : E-SHAKYO@pref.aomori.lg.jp

印 刷 ワタナベサービス株式会社 TEL 017 - 777 - 5547
